

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和元年度

2020年3月

京 都 市 文 化 市 民 局

例 言

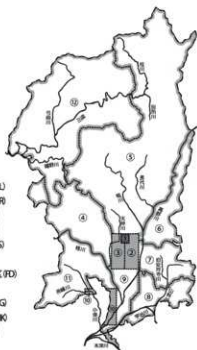
1. 本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した令和元年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。平成31年1月から令和元年12月まで実施した詳細分布調査のうち、重要な成果があったものを本文で報告し、その他のものを一覧表に列記している。
2. 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
3. 本書報告の調査のうち、基準点測量した調査の方位および座標は、世界測地系平面直角座標系VIによる。標高はT. P. (東京湾平均海面高度)による。またこれ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点(KBM)として用いている。
4. 本書で使用した調査位置図は京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/2,500)と一部京都市公共物GISを調整し、作成したものである。このほか、巻末の図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版1～13 1/8,000 図版14～29 1/10,000

5. 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号、(財)京都市埋蔵文化財研究所、1996年に準拠する。

700年	800年	900年	1000年	1000-1000年	1100年	1200年	1300年	1400年	1500年	1600年	1700年代	1800年代		
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	
古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新

6. 本書で使用した土色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』2016年度版に準じる。
7. 調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日についても簡略に記している。遺跡名は、平安宮跡、平安京跡、長岡京跡については、官衙・条坊を優先して記載した。
8. 遺物整理にあたっては、上茶谷美保、上別府亜紀、早川仁志、林友紀、松本和子、三枝愛、義井良作、吉本健吾の協力を得た。
9. 調査及び本書作成は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が担当し、(公財)京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



- ① 平安宮(中)
- ② 平安京(中)
- ③ 平安京(中)
- ④ 太秦地区(LI)
- ⑤ 洛北地区(PI)
- ⑥ 北白川地区(PS)
- ⑦ 洛東地区(PT)
- ⑧ 伏見-船場地区(PD)
- ⑨ 高野地区(TB)
- ⑩ 御所地区(NG)
- ⑪ 南白川地区(MO)
- ⑫ 京北地区(LK)

地区設定概念図

目 次

例言

I 調査概要	1
II 平安宮	6
1 平安宮正親司跡 (18K689)	6
III 平安京左京	9
1 平安京左京四条二坊十三町跡 (19H209)	9
IV 平安京右京	13
1 平安京右京六条三坊十一町跡 (18H290)	13
V その他の遺跡	17
1 花春経塚群 (18A008)	17
2 植物園北遺跡 (18S434)	22
3 延勝寺跡, 白河街区跡, 岡崎遺跡 (19R390)	27
4 伏見城跡, 指月城跡 (19F349)	29
5 長岡京左京九条三坊五・十二町跡, 淀城跡 (17NG294)	32
6 上ノ山古墳 (18A009)	34
7 大藪遺跡 (18S738)	38
8 周山城跡 (19A006)	44
VI 調査一覧	52
報告書抄録	81

図 版

挿 図 目 次

地区設定概念図	1
I 調査概要	
図1 詳細分布調査の年間件数推移 (その1)	2
図2 詳細分布調査の年間件数推移 (その2)	3
II-1 平安宮正親司跡	
図3 調査地位置図	6
図4 調査区配置図	6
図5 A-A' 間南壁断面図 (上), B-B' 間南壁断面図 (下)	7
図6 溝1出土遺物実測図	8
図7 正親司と采女司の配置	8
III-1 平安京左京四条二坊十三町跡	
図8 調査地位置図	9
図9 調査区配置図	9
図10 No.1地点断面	10
図11 No.2地点断面	10
図12 調査地点断面図	11
IV-1 平安京右京六条三坊十一町跡	
図13 調査地位置図	13
図14 調査区配置図	13
図15 溝1検出状況	14
図16 A地点北壁断面	14
図17 調査区平・断面図	15
図18 恵止利小路付近の調査成果	16
V-1 花脊経塚群	
図19 花脊経塚群分布図	17
図20 花脊経塚群第1～第3経塚平面図	18
図21 花脊経塚群第3経塚平面図	19

図 22 寄付受納品実測図	20
V-2 植物園北遺跡	
図 23 調査地位位置図	22
図 24 調査区配置図	23
図 25 遺構平・断面図	24
図 26 出土遺物実測図	25
V-3 延勝寺跡, 白河街区跡, 岡崎遺跡	
図 27 調査地位位置図	27
図 28 調査区配置図	27
図 29 調査地点柱状図	27
図 30 平瓦拓影	28
V-4 伏見城跡, 指月城跡	
図 31 調査地位位置図	29
図 32 調査区配置図	29
図 33 A-A' 間西壁断面図	30
図 34 遺構検出状況	30
図 35 土坑 1 出土遺物実測図	30
V-5 長岡京左京九条三坊五・十二町跡, 淀城跡	
図 36 調査地位位置図	32
図 37 調査地点配置図	32
図 38 石垣南端部検出状況	32
図 39 遺構平・立面図	33
V-6 上ノ山古墳	
図 40 調査地位位置図	34
図 41 上ノ山古墳全景	34
図 42 上ノ山古墳墳丘測量図	36
図 43 墳丘復元図	37
図 44 上ノ山古墳と穀塚古墳の位置関係	37

V-7 大蔵遺跡

図 45 調査地位置図	38
図 46 No.9 地点全景	38
図 47 No.14・15 地点全景	38
図 48 調査地点配置図	39
図 49 流路検出地点断面図	41
図 50 遺構検出地点断面図	42
図 51 出土遺物実測図	43

V-8 周山城跡

図 52 周山城跡と周辺遺跡位置図	45
図 53 周山城跡縄張り図	46
図 54 中心部瓦散布地点	47
図 55 南東尾根踏査地点	48
図 56 採取丸瓦拓影・実測図	49
図 57 採取平瓦拓影・実測図	50

表 目 次

表 1 平成 31・令和元年の詳細分布調査件数	1
表 2 出土遺物概要表	5

図 版 目 次

図版 1	平安宮
図版 2	平安京左京北辺～三条一・二坊
図版 3	平安京左京北辺～三条三・四坊
図版 4	平安京左京四～六条一・二坊
図版 5	平安京左京四～六条三・四坊
図版 6	平安京左京七～九条一・二坊
図版 7	平安京左京七～九条三・四坊

- 図版 8 平安京右京北辺～三条三・四坊
- 図版 9 平安京右京北辺～三条一・二坊
- 図版 10 平安京右京四～六条三・四坊
- 図版 11 平安京右京四～六条一・二坊
- 図版 12 平安京右京七～九条三・四坊
- 図版 13 平安京右京七～九条一・二坊
- 図版 14 下鳥羽遺跡, 下三栖遺跡, 伏見城跡, 金森出雲遺跡, 御香宮廃寺, 指月城跡
- 図版 15 伏見城跡, 桃山古墳群(永井久太郎古墳), 指月城跡, 木幡ノ関跡
- 図版 16 1 大深町須恵器窯跡, 鎮守庵瓦窯跡, 大宮北山ノ前瓦窯跡 2 御土居跡
3 大徳寺旧境内, 鹿苑寺旧境内(北殿), 寺ノ内旧域, 上京遺跡, 紫野斎院跡, 大報恩寺境内, 北野遺跡, 北野廃寺, 御土居跡
- 図版 17 1 御土居跡 2 史跡賀茂御祖神社境内(下鴨神社) 3 御土居跡, 寺ノ内旧域, 相国寺旧境内, 上京遺跡, 寺町旧域
- 図版 18 1 革嶋館跡 2 上久世遺跡 3 上久世遺跡, 中久世遺跡, 大藪遺跡, 長岡京跡, 東院跡
- 図版 19 長岡京跡, 鷄冠井遺跡, 羽束師菱川城跡
- 図版 20 長岡京跡, 水垂遺跡, 淀水垂大下津町遺跡, 旧淀城跡, 淀城跡
- 図版 21 八坂神社, 東山松原経塚, 六波羅政庁跡, 法住寺殿跡
- 図版 22 仁和寺院家跡, 草木町遺跡, 太秦馬塚町遺跡, 村ノ内町遺跡, 常盤仲之町遺跡, 法金剛院境内, 広隆寺旧境内, 一ノ井遺跡, 上ノ段町遺跡, 御所ノ内町遺跡, 多藪町遺跡, 西野町遺跡, 梅津坂本町遺跡, 清水山古墳
- 図版 23 田中構え跡, 池田町古墳群, 小倉町別当町遺跡, 北白川追分町遺跡, 北白川追分町縄文遺跡, 追分町古墳群, 吉田上大路町遺跡, 吉田泉殿町遺跡, 吉田二本松町遺跡, 神楽岡城跡, 聖護院川原町遺跡, 白河街区跡, 白河北殿跡, 白河南殿跡, 得長寿院跡, 尊勝寺跡, 延勝寺跡, 法勝寺跡, 岡崎遺跡, 史跡南禅寺境内
- 図版 24 1 鳥羽離宮跡, 鳥羽遺跡, 竹田城跡, 下鳥羽遺跡 2 嵯峨遺跡, 宝幢寺境内, 嵯峨北堀町遺跡, 嵯峨折戸町遺跡, 史跡・名勝嵐山
- 図版 25 1 植物園北遺跡 2 中臣遺跡 3 史跡随心院境内, 史跡醍醐寺境内
- 図版 26 1 正覚寺跡, 伏見稲荷大社境内, 深草遺跡, 深草坊町遺跡
2 史跡・名勝嵐山, 法輪寺境内, 嵐山谷ヶ辻子町遺跡, 松尾山古墳群, 松尾山寺跡 3 福西古墳群 4 史跡・名勝嵐山, 松尾山古墳群, 松尾山寺跡
- 図版 27 1 梅津糀原町遺跡 2 花春経塚群 3 鞍馬山経塚群 4 岩倉中在地遺跡
5 妙満寺裏庭窯跡, 八幡古墳群, 東幡枝遺跡, 栗栖野瓦窯跡
6 上ノ庄田瓦窯跡 7 一乗寺西浦畑町遺跡 8 法興院跡, 寺町旧域

- 図版 28 1 如意寺跡, 西谷遺跡 2 法性寺跡 3 鳥部(辺)野, 本多山古墳群
4 日ノ岡堤谷須恵器窯跡 5 安祥寺下寺跡, 安朱遺跡
6 山科本願寺跡(寺内町遺跡), 左義長町遺跡 7 山科本願寺南殿跡
8 道澄寺境内, 嘉祥寺跡
- 図版 29 1 法界寺旧境内 2 唐橋遺跡 3 御土居跡 4 榎原廃寺, 榎原遺跡
5 上ノ山古墳, 浄住寺(谷之堂)跡 6 塔遺跡 7 しが田古墳群
8 周山古墳群, 周山城跡
- 図版 30 V-1 花脊経塚群 遺物
1 寄付受納品1(集合写真) 2 寄付受納品2(11・12)
- 図版 31 V-1 花脊経塚群 遺物
1 寄付受納品1(1~10)
- 図版 32 V-2 植物園北遺跡 遺構
1 調査区全景(北西から) 2 調査区全景(南東から)
- 図版 33 V-2 植物園北遺跡 遺構
1 西辺断面(西から) 2 西辺柱穴断面(西から) 3 北辺断面(北東から)
4 北辺断面(北西から) 5 北辺断面(北から) 6 北辺断面(北から)
7 北辺断面(北から) 8 北辺断面(南から)
- 図版 34 V-2 植物園北遺跡 遺構
1 出土遺物(1~6)

I 調査概要

本書は、文化庁国庫補助事業に伴う令和元年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では、平成31年1月4日から3月31日までの平成30年度分183件、平成31年4月1日から令和元年12月27日までの平成31年・令和元年度分462件、計645件を報告する(表1)。

詳細分布調査の総件数は645件で、前年に比べて18件増加している(図1・2)。この件数は過去10年間で一昨年に次いで多い件数に当たり、ここ4年はいずれも600件を超えている。地区ごとの増減傾向をみると、洛北・鳥羽・京北地区は前年52件から本年105件と倍増しているが、平安京内(平安宮・左京・右京地区)が前年319件、本年309件とわずかながら減少傾向をみせて、周辺地区でも洛北・鳥羽・京北地区以外は全て減少している。

2019年はラグビーワールドカップが開催され、そして2020年には東京オリンピックが開催されることから観光立国化している日本において京都はその中軸を担っており、宿泊施設(大型ホテル、簡易宿所、ゲストハウス、旅館等)建設の増加は依然として続いている。宿泊施設建設にともなう詳細分布調査は、平成29年80件、平成30年84件、本年80件と3年連続で80件台を維持しており、詳細分布調査の件数増加の一因となっている。

以下、地区ごとの概要を述べる。

①平安宮(HQ)

平安宮域では、平安宮跡、鳳瑞遺跡、聚楽遺跡、聚楽第跡、二条城北遺跡の5遺跡で80件の調査を行った。

本書では正親司跡の調査(18K689)において、平安時代前期の南北溝を検出したので報告する。他に太政官跡、聚楽遺跡の調査(19K606)で平安時代の包含層を検出している。

②平安京左京(HL)

左京城では、平安京跡、公家町遺跡、内膳町遺跡、烏丸丸太町遺跡、史跡旧二条離宮(二条城)、旧二条城跡、二条城北遺跡、高陽院跡、烏丸御池遺跡、等持寺跡、妙覚寺城跡、三条せと物や町跡、

表1 平成31・令和元年の詳細分布調査件数

地区	30年度1～3月	31年度4月・ 元年度5月～12月	小計	地区	30年度1～3月	31年度4月・ 元年度5月～12月	小計
平安宮(HQ)	19	61	80	洛東地区(RT)	22	40	62
平安京左京(HL)	53	95	148	伏見・麓脚地区(FD)	14	27	41
平安京右京(HR)	20	61	81	鳥羽地区(TB)	8	27	35
太秦地区(UZ)	8	23	31	長岡京地区(NG)	8	17	25
洛北地区(RH)	18	46	64	南桂川地区(MK)	5	31	36
北白川地区(KS)	6	30	36	京北地区(UK)	2	4	6
				合計	183	462	645

寺町旧域、二条殿御池城跡、本能寺城跡、烏丸綾小路遺跡、竜臥城跡、本圀寺城跡、史跡本願寺境内、名勝滴翠園、東市跡、御土居跡、羅城門跡、教王護国寺旧境内、烏丸町遺跡、塩小路若山城跡、九条河原城跡の27遺跡で148件の調査を行った。

本書では四条二坊十三町跡の調査(19H209)で平安時代後期～室町時代の遺構群を検出したので報告する。

この他、古墳時代の遺構として八条二坊九町跡の調査(18H655)で河川堆積、九条四坊十二町跡、烏丸町遺跡、九条河原城跡の調査(18H330)では包含層を検出している。平安時代は六条三坊十二町跡の調査(19H351)で前期の包含層、三条三坊六町跡、烏丸御池遺跡の調査(18H700)で整地層、八条二坊四町跡の調査(19H106)では落込を検出している。平安時代後期から鎌倉時代の遺構として七条四坊二町跡の調査(19H509)で包含層、九条二坊十四町跡、烏丸町遺跡の調査(18H736)で土坑を検出している。鎌倉時代は北辺二坊三町跡(18H868)と三条三坊十五町跡(18H297)と六条四坊十五町跡(18H865)の調査でそれぞれ土坑を検出している。また六条三坊十六町跡、四坊一町跡、烏丸綾小路遺跡(19H461)の調査では樋口小路の推定地で鎌倉時代の路面及び整地層を検出した。室町時代は三条四坊十三町跡(18H881)と五条二坊十六町跡、烏丸綾小路遺跡(18H248)の調査でそれぞれ土坑、三条二坊十一町跡(18H671)と六条一坊十三町跡(18H575)の調査で包含層を検出している。中世は三条三坊六町跡、烏丸御池遺跡、妙覚寺城跡の調査(18H550)で井戸及び土坑群を検出している。

③平安京右京(HR)

右京城では、平安京跡、安井馬塚古墳群、壬生遺跡、山ノ内遺跡、西ノ京遺跡、堂ノ口遺跡、

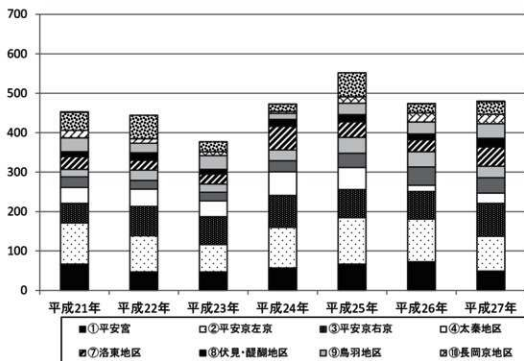


図1 詳細分布調査の年間件数推移 (その1)

御土居跡、西院遺跡、西京極遺跡、衣田町遺跡、西市跡、梅小路城跡、唐橋遺跡、西寺跡、史跡西寺跡の15遺跡で81件の調査を行った。

本書では六条三坊十一町跡の調査(18H290)で平安時代前期の恵止利小路東側溝を検出したため報告する。

この他、七条一坊二町跡、堂ノ口町遺跡、御土居跡の調査(18H797)で江戸時代の御土居の堀を検出している。また、七条四坊九町跡の調査(18H484)では左女牛小路推定位置で時期不明であるが路面状遺構を検出した。

④太秦地区(UZ)

嵯峨遺跡、宝幢寺境内、嵯峨北堀町遺跡、嵯峨折戸町遺跡、史跡・名勝嵐山、梅津坂本町遺跡、梅津森原町遺跡、村ノ内町遺跡、太秦馬塚町遺跡、法金剛院境内、広隆寺旧境内、御所ノ内町遺跡、上ノ段町遺跡、多敷町遺跡、清水山古墳、西野町遺跡、仁和寺家跡、常盤仲之町遺跡、草木町遺跡の19遺跡で31件の調査を行った。

特に顕著な遺構は検出できなかったが、史跡・名勝嵐山の調査(O1N015)で室町時代の包含層、嵯峨遺跡の調査(17S437)で中世の包含層を検出している。

⑤洛北地区(RH)

花背経塚群、鞍馬山経塚群、鎮守庵瓦窯跡、大宮北山ノ前瓦窯跡、上ノ庄田瓦窯跡、大深町須恵器窯跡、岩倉中在地遺跡、妙満寺裏庭窯跡、八幡古墳群、東幡枝遺跡、栗栖野瓦窯跡、植物園北遺跡、史跡賀茂御祖神社境内、御土居跡、大徳寺旧境内、上京遺跡、寺ノ内旧域、相国寺旧境内、寺町旧域、大徳寺旧境内、鹿苑寺旧境内(北殿)、紫野斎院跡、大報恩寺境内、北野遺跡、北野庵寺の25遺跡で64件の調査を行った。

本書では花背経塚群の調査(18A008)で大正時代に発掘調査された経塚群の遺跡範囲確認を行ったので報告する。植物園北遺跡の調査(18S434)では弥生時代後期の竪穴建物跡を検出したため報告する。

この他、北野遺跡の調査(19S030)では平安時代中期の包含層、上京遺跡の調査(18S497)では室町時代の落込を検出している。

⑥北白川地区(KS)

小倉町別当町遺跡、池田町古墳群、北白川追分町遺跡、北白川追分町縄文遺跡、追分町古墳群、吉田上大路町遺跡、吉田

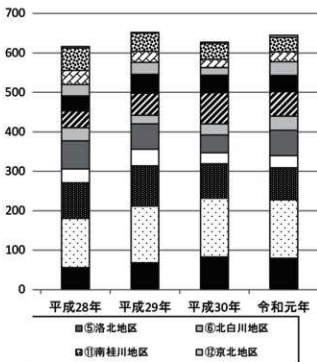


図2 詳細分布調査の年間件数推移(その2)

二本松町遺跡、吉田泉殿町遺跡、聖護院川原町遺跡、田中構え跡、得長寿院跡、尊勝寺跡、延勝寺跡、法勝寺跡、白河北殿跡、白河南殿跡、白河街区跡、岡崎遺跡、神楽岡城跡、史跡南禪寺境内、一乗寺西浦畑町遺跡、法興院跡の22遺跡で36件の調査を行った。

本書では延勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡の調査(19R390)で平安時代の陰刻文字平瓦が出土したため報告する。

この他、白河街区跡の調査(19S155)で平安時代後期の土坑、平安時代末期から鎌倉時代初期の包含層を検出した。法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡の調査(19R364)では平安時代の包含層と室町時代の包含層、白河北殿跡、白河街区跡の調査(17S378)で室町時代の包含層を検出している。史跡南禪寺境内の調査(30N090)で近世の路面及び整地層を検出した。調査地点は南禪寺の惣門にあたり参道の路面と考えられる。

⑦洛東地区(RT)

八坂神社、寺町旧城、六波羅政庁跡、法住寺殿跡、東山松原経塚、本多山古墳群、鳥部(辺)野、法性寺跡、如意寺跡、西谷遺跡、日ノ岡堤谷町須恵器窯跡、安祥寺下寺跡、安朱遺跡、山科本願寺跡(寺内町遺跡)、左義長町遺跡、山科本願寺南殿跡、中臣遺跡、史跡随心院境内の18遺跡で62件の調査を行った。

特に顕著な遺構は検出できなかったが、八坂神社の調査(19S146)では鎌倉時代の包含層、六波羅政庁跡の調査(19S252)では時期不明であるが落込を検出している。

⑧伏見・醍醐地区(FD)

正覚寺跡、伏見稻荷大社境内、深草坊町遺跡、道澄寺境内、嘉祥寺跡、伏見城跡、金森出雲遺跡、御香宮座寺、指月城跡、桃山古墳群(永井久太郎古墳)、木幡ノ関跡、史跡醍醐寺境内、法界寺日境内の13遺跡で41件の調査を行った。

伏見城跡、指月城跡の調査(19F349)では伏見城の下層遺跡として新発見となる平安時代末期から鎌倉時代の土坑を検出したため報告する。

この他、伏見城跡では8箇所の調査(18F288・18F614・18F618・18F737・18F751・19F081・19F404・19F453)で伏見城期と考えられる造成土および整地層を検出している。

⑨鳥羽地区(TB)

唐橋遺跡、御土居跡、深草遺跡、鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、竹田城跡、下鳥羽遺跡、下三栖城跡、淀城跡の9遺跡で35件の調査を行った。

深草遺跡の調査(19S173)では弥生時代の遺構を検出したので『京都市内遺跡試掘調査報告令和元年度』に報告する。

この他、鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、竹田城跡の調査(18T561)で中世の包含層を検出している。

⑩長岡京地区(NG)

長岡京跡、東院跡、鶏冠冢遺跡、羽束師菱川城跡、水垂遺跡、淀水垂大下津町遺跡、淀城跡、旧淀城跡の8遺跡で25件の調査を行った。

本書では左京九条三坊五・十二町跡、淀城跡の調査(17NG294)で2018年発掘調査で検出さ

れた淀城石垣の延長部を検出したので報告する。

この他、左京二条四坊五・十二町、三条四坊十六跡の調査（18NG347）で弥生時代の湿地状堆積と長岡京期の包含層を検出している。

⑩南桂川地区（MK）

史跡・名勝嵐山、法輪寺境内、嵐山谷ヶ辻子町遺跡、松尾山古墳群、松尾山寺跡、上ノ山古墳、浄住寺（谷之堂）跡、革嶋館跡、櫻原廃寺、櫻原遺跡、福西古墳群、上久世遺跡、中久世遺跡、大藪遺跡の14遺跡で36件の調査を行った。

本書では上ノ山古墳の調査（18A009）で地形測量及び踏査を行ったため報告する。また大藪遺跡では遺跡範囲外の箇所でも弥生時代の流路、長岡京期の東西溝を検出しており、遺跡範囲の拡張を示唆する発見となったため報告する。

この他、松尾山古墳群、松尾山寺跡、史跡・名勝嵐山の調査（19A007）で古墳を1基発見している。

⑪京北地区（UK）

塔遺跡、しが田古墳群、周山古墳群、周山城跡の4遺跡で6件の調査を行った。

今回の調査では周山城跡の調査（19A006）で遺跡範囲の拡張を確認できたので報告する。

（吉本 健吾）

表2 出土遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内 訳	Bランク点数 (箱数)	Cランク点数 (箱数)	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	43点 (4箱)	弥生土器、土師器、須恵器、緑釉陶器、輸入陶磁器、焼締陶器、丸瓦、平瓦、銅製品	1箱	5箱	10箱

II-1 平安宮正親司跡 (18K689)

1. 調査の経緯 (図3)

本件は、上京区鳳瑞町地内における貯水槽新設工事に伴う詳細分布調査である。調査は平成31年1月17日と25日に行った。この場所は平安宮正親司跡南東部に該当する。正親司は皇籍の管理と皇族への給与に関する事務を執り行う機関として機能していた。

近隣では当該地の北側 (図3:調査①) で、平成10年に掘立柱建物や土坑、南北の中心ラインに近接した位置で2条の南北溝が確認されている¹⁾。また、北西側の昭和53年の調査 (図3:調査②) では平安宮西面隈や西大宮大路の路面の他に、正親司を南北に区画する東西溝と官衙内の建物に関連する南北溝が確認されている²⁾。正親司の北で行われた仁和小学校内の発掘調査 (図3:調査③) では、大半が土取穴により遺構の残りが悪かったものの、南北方向の溝が確認されている³⁾。

2. 層序と遺構 (図4・5)

今回の調査では、調査区内の南北2箇所で溝の断面を確認した。北壁 (A-A'間) と南壁 (B-B'間) を中心として報告する。

北壁 (A-A'間) 断面

A-A'間は盛土以下、GL-0.8mで暗褐色泥砂 (A-3層)、-0.9mで黒褐色泥砂 (A-4層)、-1.0mで地山であるにぶい黄褐色砂泥 (A-5層)、-1.7mで褐色砂礫 (A-6層)、-1.9mで褐色シルト (A-7層) を確認した。A-3層からは緑軸陶器片などが確認されていることから、A-3層は平安時代の整地層と判断できる。



図3 調査地位置図 (1:5,000)

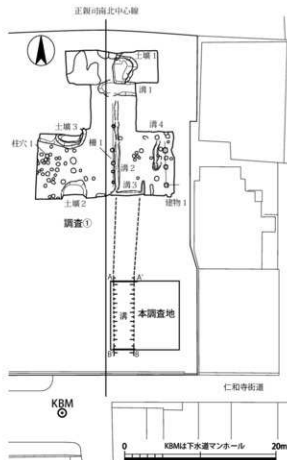


図4 調査区配置図 (1:500)

A-3層を掘り込んで、幅2.6m、深さ1.2m以上の南北溝(溝1)を確認した。埋土は2層に分けられ、上層が黒色泥砂、下層が黒褐色泥砂である。上層からは平安時代初期に位置付けられる土師器皿と須恵器、土馬が出土した。

南壁(B-B'間)断面

B-B'間は、溝1の延長線上で確認した南壁断面である。盛土以下、GL -0.9mで褐色砂礫(B-4層)、-1.3mで黄褐色砂(B-5層)-1.4mで、にぶい黄褐色泥砂(B-6層)を確認した。B-4層を掘り込み、幅2.6m、深さ1.1mの落込みを確認した。A-A'間で確認した溝1から南へ向かって直線上に位置することから、A-A'間で検出した溝と同一遺構と判断した。埋土は3層に分けられ、上層に黒褐色泥砂、中層に黒色泥砂、下層は黒褐色泥砂である。埋土上層からは緑釉陶器椀が出土した。

3. 遺物(図6)

1~4はA-A'間溝埋土の(1層)、5はB-B'間溝埋土下層(3層)から出土した。1と2は土師器皿Aである。1は口縁端部がまっすぐ立ち上がる。内外面ともにナデをほどこす。2は内湾し、二段ナデをほどこす。時期は平安時代前期のⅡ期古~中段階の中に属するものである。3は須恵器の蓋である。4は接合しないもの、一個体と考えられる。4-1は緑釉陶器椀の口縁部で4-2は高台部である。削り出し高台で、高台をへらで削り出す際についた線が高台と体部の間に残り、1期新~Ⅱ期古の特徴が認められる。5は土馬である。上半部、尾部は欠損しており、体部の一部と後足が残存する。

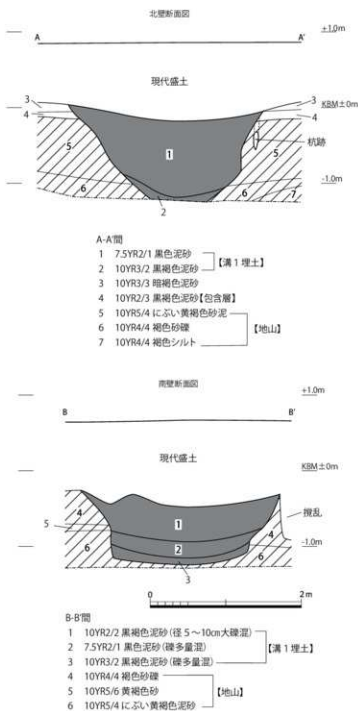


図5 A-A'間南壁断面図(上)、
B-B'間南壁断面図(下)(1:50)

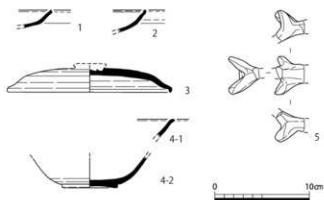


図6 溝1出土遺物実測図 (1:4)



図7 正親司と采女司の配置
 (『大内裏図考證』から転載)

4. まとめ (図4・7)

今回の調査で、幅2mを越える南北方向の溝1を確認することができた。溝1からは平安時代前期の土器が出土していることから、平安時代前期には埋没したと思われる。

今回の調査地北側の調査①では調査区南側で溝2と溝3がつながっていることを確認している。今回確認した溝1は調査①で確認された溝2と溝3の南延長線上に位置していることから、連続する1条の溝と考えられる。今回の調査区南壁B-B'間で断面を確認していることから、この溝はさらに南側へ延びると考えられる。

今回の調査で溝以外の建物や櫓に関連する遺構の確認には至らなかったものの、正親司の中心ラインにほぼ沿う位置で溝を確認した。したがって正親司の敷地を東西に分けていると考えられる。『大内裏図考證』の絵図⁴⁾によると、東に采女司、西に正親司が記されている。絵図を鑑みると、今回確認した溝は采女司と正親司を区分する溝の可能性が考えられる。

(清水 早織)

註

- 1) 平田泰『平安宮正親司跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-12、2006年。
- 2) 平田泰「101 平安宮正親司」『平安京研究資料集成 1 平安宮』柳原書店、1994年。
- 3) 長戸満男「平安宮正親司・漆室跡」『平成10年度京都市埋蔵文化財概要(財)京都市埋蔵文化財研究所、2000年。
- 4) 『大内裏図考證』巻二十六。

Ⅲ－1 平安京左京四條二坊十三町跡（19H209）

1. 調査の経緯（図8）

調査地は、四条通と堀川通の交差点より東に位置する。平安京の復元では左京四条二坊十三町の南西角に相当し、敷地の南辺及び西辺が四条大路と油小路の路面にかかる。今回この区画においてホテルの建設が計画されたことから、平成31年10月2・3・7日に詳細分布調査を実施した。

この町域には、文献史料よりいくつかの来歴を認めることができる。町域の南東部では平安時代後期の土地売買に関する記録があり、治部少輔藤原某が雑色の里影に譲渡したことがみえる。また鎌倉時代初頭には従二位藤原中納言親能（1169-1207）や丹波前司の邸宅があり、江戸時代には久留米藩（有馬家二十一万石）の藩邸が設けられていた。すなわち、平安時代より幕末に至るまで活用された地域であったことが窺える。

近年、周辺では開発工事が増えており、これに先立つ試掘調査において遺構が発見され、発掘調査へつながる例も多い。また、小規模開発であっても遺構が良好に残存するため、延長調査や施工時の立会を実施する例も増加する傾向にある。

調査地より東へ1区画隔てた地点（図8①）では、平成30年度に試掘調査が行われ、GL-0.8～-1.5mの深度において平安時代後期～江戸時代の各遺構面が確認された。これを受けて令和元年度に着手された発掘調査では、GL-1.2mの深度において、井戸や溝を有する平安時代後期の遺構面が検出された。なお同時期の井戸からは猿面硯の出土が報告されており、有力者の起居が推測されている。また、鎌倉時代遺構面では栗石を敷き詰めた地業跡、室町時代遺構面では大型土坑や石組井戸、掘立柱建物が確認される等、実際に活発な土地利用があったことが裏づけられた。

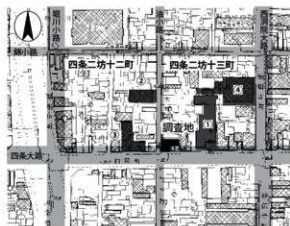


図8 調査地位置図（1：5,000）



図9 調査区配置図（1：400）

このほか、油小路を隔てた西側に位置する十二町地内では、平成30年度に詳細分布調査の延長を実施しており（図8②）、平安時代中期～江戸時代の遺構面を確認している。特に平安時代後期～鎌倉時代と室町時代に属するピットや土坑を稠密に検出した。平安時代後期の整地層の残存も非常に良好で、緑釉陶器を含む遺物が大量に出土している。

以上の状況から、今回の調査地においても連続する遺構群の存在が予測された。

2. 調査成果（図9～12）

調査は、建物計画範囲内の3箇所において断面観察を実施した（図9）。

No.1地点（図10・図12左）

調査地中央付近にあたるNo.1地点では、KBM-0.65 mまで盛土、-0.9 mまで黒褐色粗砂混じりシルト（室町時代包含層）、-1.05 mまでオリーブ色細砂混じりシルト（平安時代後期整地層）、-1.2 mまで灰オリーブ色細砂混じりシルト、-1.4 mまで暗褐色粗砂混じりシルト、-1.5 mまで暗灰黄色細砂～微砂（流路）が堆積し、以下、オリーブ褐色微砂混じりシルトを主体とする地山を確認した。

平安時代後期整地層上面では、ピットを1基検出した。室町時代包含層からは14世紀代の土師器皿が、ピット内からは「て」字状口縁をもつ12世紀代の土師器皿がそれぞれ出土した。

No.2地点（図11・図12中央）

調査地東半部にあたるNo.2地点では、KBM-0.2 mまで盛土、-0.55 mまで江戸時代包含層、-0.80 mまで暗褐色細砂混じりシルト（室町時代包含層）、-1.0 mまで黒褐色粗砂混じりシルト（平

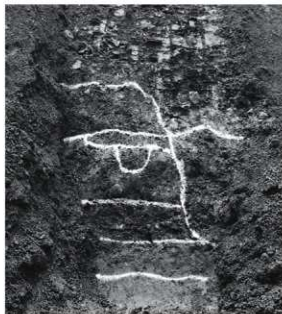


図10 No.1地点断面（東から）

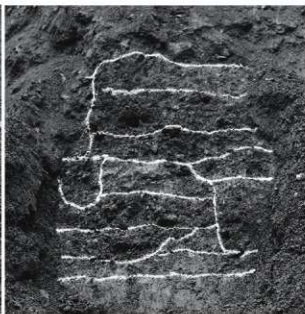


図11 No.2地点断面（東から）

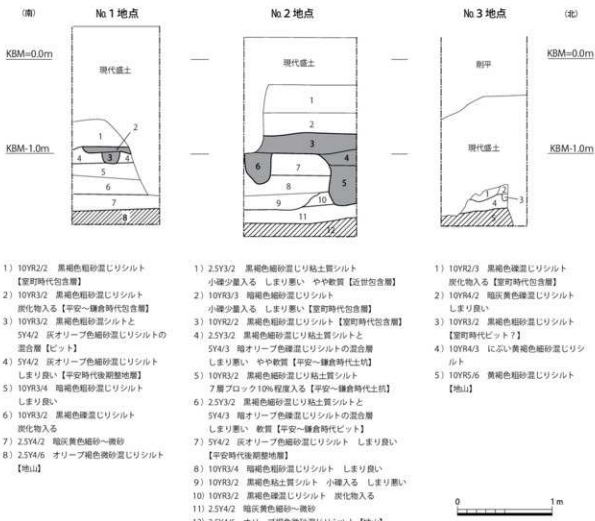


図 12 調査地点断面図 (1 : 40)

安時代後期～鎌倉時代包含層)・-1.2 mまで灰オリーブ色細砂混じりシルト(平安時代後期整地層)・-1.4 mまで暗褐色粗砂混じりシルト、-1.6 mまで黒褐色粘土質シルト、-1.7 mまで暗灰黄色細砂～微砂(流路)、以下、地山を確認した。

平安時代後期整地層の上面では、土坑(図12中央4.5層)とピット(同6層)を検出した。土坑は最大深度0.6 m、ピットは径0.3 m、最大深度0.3 mを測る。室町時代包含層からは15世紀代の土師器皿と平瓦が、土坑からは12世紀代の土師器皿、ピットからは土師器皿と須恵器甕の破片が出土した。

No. 3 地点 (図12右)

調査地南辺にあたるNo. 3地点は、四条大路北築地の想定ライン付近にあたる。削平及び攪乱により損なわれた部分が多いが、KBM-1.0～-1.1 mまで黒褐色礫混じりシルト(室町時代)・-1.2 mまで暗褐色細砂混じりシルト、以下、地山を確認した。

図12右3層からは14世紀代の土師器皿が出土した。No. 1地点、No. 2地点より推測される室町時代遺構面より大きく下がるため、遺構の一部と理解される。

3. まとめ

以上、左京四条二坊十三町跡の調査成果について記述した。油小路通付近では、近年の調査により、平安時代以後の遺構面が良好に残存することが明らかになりつつある。特に平安時代後期～鎌倉時代の遺構群は町域一帯に広がり、遺物の出土量も多い傾向にある。今回の調査地においても遺構を捉え、既往の調査成果を追認することとなった。

周辺ではこれまで小面積の開発が多く、大規模な発掘調査が実施されてこなかった経緯がある。ただし、小規模な調査であっても得る情報は非常に多い。このため、さらなる調査報告の蓄積により、当該地域の実態が明らかにされることを期待したい。

(黒須 亜希子)

引用・参考文献

- 調査①：京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告』平成30年度，2019年。
調査②：京都市文化市民局『京都市内遺跡詳細分布調査報告』平成30年度，2019年。
調査③：財団法人京都市埋蔵文化財研究所『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（発掘調査編），1983年。
調査④：財団法人京都市埋蔵文化財研究所，『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』，1999年。
角田文衛監修 『平安京提要』（財）古代学協会・古代学研究所，1994年。

IV-1 平安京右京六条三坊十一町跡 (18H290)

1. 調査の経緯 (図13)

調査地は、五条通と西小路通の交差点の南東角に位置する。平安京の復元では、右京六条三坊十一町の西半部に相当し、敷地の一部が恵止利小路にかかる (図13)。

平成30年7月、この区画に店舗建設が計画されたため、試掘調査を実施した¹⁾。調査区は恵止利小路に係る遺構を確認することを目的として敷地西半部に3箇所、その他東半部に2箇所が設定された (図14)。調査の結果、西半部の調査区 (第1区~第3区) において南北方向の溝が数条検出された。ただし、遺構の時期を示す明確な遺物が確認されなかったこと、また敷地の大半が削平を受け、遺構面がすでに失われていたことから発掘調査は不要とし、恵止利小路付近における施工時の詳細分布調査が必要との判断が為された。

今回の調査はこれを受け、平成31年2月22・26日に実施したものである。調査の結果、恵止利小路東側溝を20m以上の長さにわたり、平面検出するに至った。

2. 周辺の調査成果 (図13)

恵止利小路の付近では、これまでも試掘調査が複数回行なわれているが、その後、本発掘調査に至った例は少ない。このうちの一つが調査地より五条通を隔てて北に位置する商業施設建設に伴う発掘調査 (図13①) である²⁾。平成12・13年、右京六条三坊七・八・九・十町の4町にわたる範囲において発掘調査が行なわれた。その結果、一町占地在が許された大規模邸宅や、



図13 調査地位置図 (1:5,000)



図14 調査区配置図 (1:1,000)

律令祭祀が執り行われた河川跡等が検出された。また、調査区の中央を南北に通る馬代小路の東西側溝が並んで検出されたことから、その位置が確定した。これに伴い、馬代小路の一筋西を通る恵止利小路の位置もまた、より特定に近づいた。あわせて、東西通である樋口小路の南北側溝も確認されたことにより、これに並行する東西小路の位置復元もその精度を高めた。

平成 26 年 9 月、調査地より南へ 180 m 隔てた区画において試掘調査が行なわれ (図 13 ②)³⁾、六条大路の北側溝と推定される東西溝が検出された。ただし、恵止利小路との交差点付近では流れ堆積により遺構面が失われていたため、その発見には至らなかった。一方、平成 12 年度に調査地より 200 m 北に隔てた区画において行なわれた試掘調査 (図 13 ④)⁴⁾ では、恵止利小路の東辺付近において南北方向の溝が 6 条確認された。うち 1 条は恵止利小路東側溝の可能性があったが、すべて深度が浅いことから断定には至らず、その存否は依然として不明とされた。

すなわち、恵止利小路の位置は図上復元の域を出ることはなく、長らく確証を欠く状況にあった。

3. 調査成果 (図 13～17)

今回の工事計画では、建物の西側コンクリート基礎の位置が、想定される恵止利小路の路面と重なる。調査は、はじめにコンクリート基礎を設置するための堅孔の壁面 (図 16・17 A 地点) において断面観察を実施した。その結果、GL-0.8 m まで盛土があり、この直下に褐色粘土質シルトを主体とする地山を確認した。また地山上面から切り込む遺構を確認した。この遺構の位置を目安として、平面検出を行ったところ、約 20 m の範囲にわたり溝状遺構 (溝 1) を検出した (図 17)。

溝 1 の検出幅は 0.6～0.8 m、最大深度は 0.3 m を測る。断面形状は逆凸形で、埋土は黒褐色シルトを主体とする。細かい湾曲はあるものの概ね南北方向にのび、そのまま調査区外へと続く。試掘調査時の成果では、すべての調査区において西端で確認された溝状遺構がこれに該当する。それぞれの溝の検出幅は、第 1 区が 1.6 m、第 2 区が 0.5 m と 0.8 m、第 3 区が 1.6 m である。このうち第 2 区の溝 2 条は埋土も同質で、本来ひとつの溝であった可能性が高い。また第 3 区で検出された溝の断面形状は、A 地点で確認したものと近似しており、同一遺構であると認識される。なお、今回の調査において、面取りを施す土師器高杯の脚部のほか、皿や甕の破片が溝内より出土した。平安時代前期の遺構である。



図 15 溝 1 検出状況 (北から)



図 16 A 地点北壁断面 (南から)

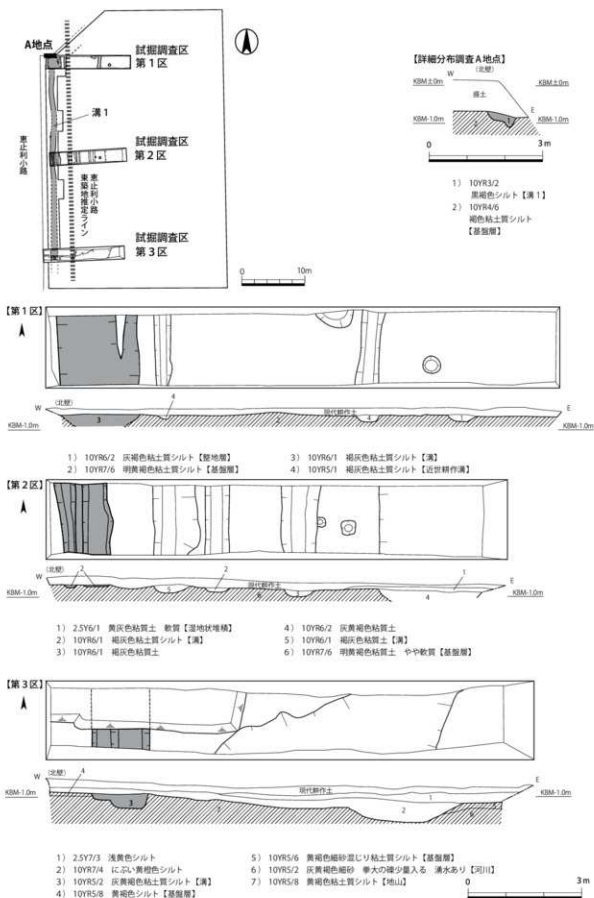


図 17 調査区平・断面図 (1 : 100)

4. まとめ (図18)

以上のとおり、今回の調査では恵止利小路の推定地東辺において、南北方向の溝を1条検出した。その位置関係から、恵止利小路の東側溝であると推測される。これにより、その北延長上にある調査④において検出された溝状遺構が同じく東側溝である蓋然性が高まった。

また調査②において可能性が示された恵止利小路の流路化は、今回の調査区より南でおこった事象と考えざるを得ない。その要因を、再考する必要があるだろう。

なお、弥生土器の出土も複数報告されており、北方に位置する西京極遺跡の範囲拡大も視野に入れて検証する必要もある。

いずれにもおいても当該地域の歴史的環境を復元するためには、改めて面的な調査が望まれるところである。

(黒須 亜希子)

註

- 1) 京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告』平成30年度、2019年。
- 2) 堀内明博『平安京跡研究調査報告』第20輯 平安京右京六条三坊、財団法人古代学協会、2004年。
- 3) 京都市文化市民局『京都市内遺跡試掘調査報告』平成26年度、2015年。
- 4) 京都市文化市民局『京都市内試掘調査報告』平成12年度、2001年。



図18 恵止利小路付近の調査成果 (1:1,000)

V-1 花脊経塚群 (18A008)



図19 花脊経塚群分布図(1:25,000)

1. 調査の経緯 (図19)

本件は、左京区花脊別所町に所在する花脊経塚群に関する報告である。当該遺跡は、大正10年(1921)5月から7月にかけて、地域住民が林業の最中に相次いで4基の経塚を発見し、京都大学が緊急調査を実施している¹⁾。昭和2年(1927)にも新たに経塚4基が発見されている²⁾。

いずれも小字「大平ノ谷」にあり、「仁平三年三月」銘銅製経筒(第1経塚)、「仁平三年四月日」銘筒形厨子(第1経塚)、「仁平三年五月十三日」銘銅製経筒(第7経塚)、「保元二年五月廿九日」銘銅製経筒(第5経塚)など、仁平から保元年間(1151～1159)頃に埋納されたと考えられる³⁾。

今回、左京区の森林地域に詳しい久山多代子氏と、京都国立博物館の宮川禎一氏から、花脊経塚群について新たな知見⁴⁾を得たことから、当該遺跡の現状を確認するために現地調査を実施した。調査日は平成29

年5月22日、平成31年1月15日、令和元年9月17日である。また、平成30年1月30日に花脊経塚群に伴う出土文化財の寄付を受けたことから、合わせて報告する。

2. 現地調査 (図19～21)

調査の結果、第2経塚と第3経塚が現存していることを確認し、寺院跡とみられる平場2箇所を図化することができた。さらに、未周知の経塚1基を確認することができた。ただし、第4経塚らしきものはわずかに認められるものの、昭和に発見された4基の経塚を現認することはできなかった。

第2経塚(図19・20) 国道477号線の西側丘陵頂部に、土饅頭形に盛り上がる経塚とみられる遺構を確認した。北緯35度9分41秒、東経135度46分36秒にある。丘陵東端に近く2号経塚とみられる。この遺構の東斜面に石碑を確認した。石碑には「ア」・仁平二年・六月八日尼

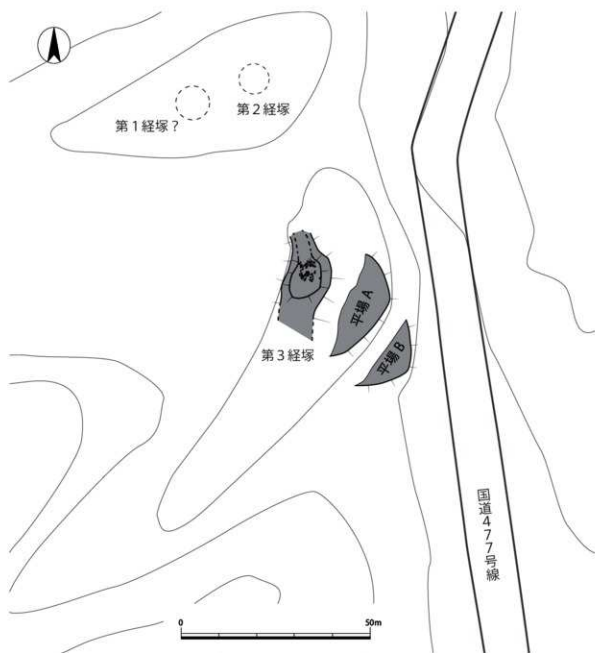


図20 花脊経塚群第1～第3経塚平面図(1:1,000)

阿妙」と刻まれている。

第3経塚(図19～21) 国道477号の西側、前述の経塚の南側にある丘陵頂部に位置する。A～B群, C, D, E, F群, G～H群, Iの石材は、発見当時の図の配置に近似した直径約4.0mの円形をなす。また、発見当時の図で経塚中央から北に延びる礫群の延長線上H～Jにかけて石が並んでいる。発見当時の図に描かれないが、K～L間, M～N間は直線的に並ぶ石列2条が存在する。また、経塚中央には、発見を顕彰した「第三経塚」「大正十年五月」銘のある石碑が据えられている。北緯35度9分35秒, 東経135度46分34秒にある。

新発見経塚(図19) 花脊別所町と鞍馬を繋ぐ南北に延びる旧道の東側、丘陵の西側山腹にある。林道敷設の際に破壊されており、墳丘に用いた礫が散乱している。北緯35度9分30秒, 東経

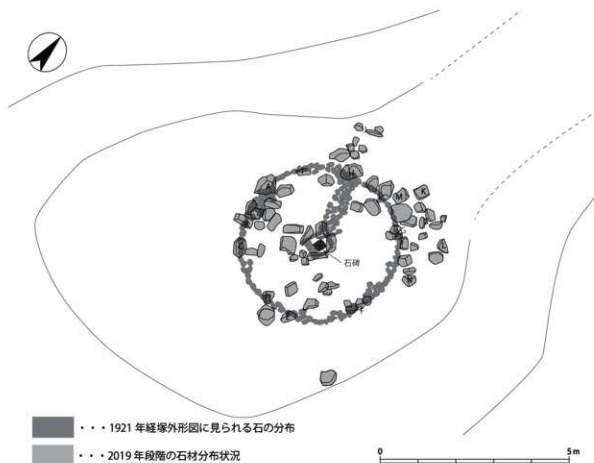


図21 花形経塚群第3経塚平面図（1：100）

135度46分37秒にある。

寺院跡（図20） 第3経塚の南東斜面上に2箇所の平場を確認した。平場Aは平場Bより高い位置にある。平場Aは長辺29m、最大幅10m、平場Bは、長辺22m、最大幅8mある。「阿彌陀寺」と呼ばれる寺院の伝承が大正10年当時の花形別所町に残っていた⁵⁾。

3. 寄付受納品（図22，図版30・31）

実測可能なものは12点ある。内訳は、白磁小壺1点、銅製花瓶1点（木製栓付き）、木製栓1点、銅製六器の鉢4点・台2点・蓋1点、焼締陶器蓋・身の各1点である。

白磁小壺（1） 口径4.6cm、底径3.7cm、器高4.4cmを測り、胴部の上位約3分の1で最大径を測る。口縁部の形状から蓋が存在したと見られる。灰白色の釉薬が掛かり、輪花紋が施される。

銅製花瓶（2） 口径3.4cm、底径4.2cm、器高9.1cmで、口縁部と脚部は同様に開き、それぞれの中位外側に2条の突帯が巡る。花瓶は中空であり、脚部と同部の接合部に直径1.35cm、高さ1.75cmの木製栓が嵌め込まれている。第1経塚や稲荷山経塚でほぼ同型の花瓶が出土している⁶⁾。

銅製六器（鉢：3～6） 3・4は同形で、細い輪高台から緩やかに外側に開き、口縁部で外反する。5・6も同一器形であろう。3は口径7.3cm、高台径3.7cm、器高2.8cm、4は口径7.4cm、高台径3.6cm、器高2.8cm、5は高台径3.6cm、残存高1.8cm、6は高台径3.6cm、残存高0.6cm

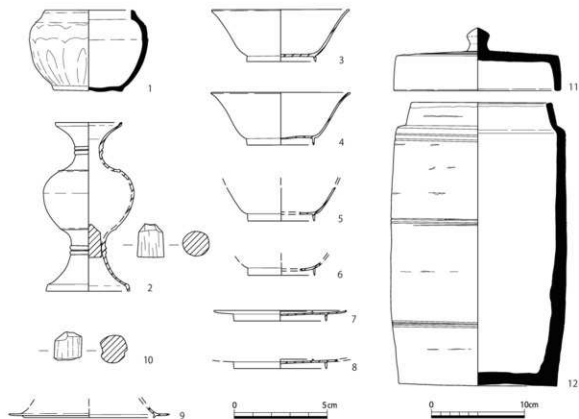


図22 寄付受納品実測図(1・2, (11・12のみ1:4))

を測る。六器を1セット6個で考えると、2個不足する。

銅製六器(台:7・8) 上記の鉢とセットになるもので、鉢を受ける輪状の口が体部上面にある。体部は円盤形で、口縁部が短く内傾する。体部下面には高台が付く。7は受口径3.5cm、口径7.1cm、高台径5.0cm、器高0.6cmを測る。8は受口径3.5cm、高台径5.0cm、残存高0.5cmである。寄贈された鉢とのセットとしては2個不足している。

銅製蓋(9) 六器の鉢の蓋になる可能性があり、外反した体部に円盤状の口縁が付く。残存部は少ないが、口縁部内面に鉢にはめ込む返しが付いている。返しの径6.9cm、口径8.7cmである。

木製栓(10) 2の栓と同様に花瓶に使用されたと考えられる。2の口に詰めるものか、2個1対で出土することの多いもう一つの花瓶に伴うものかは不明である。この栓は上部がにぶい円錐形で下端は平滑に仕上げられており、直径1.5cm、高さ1.5cmである。

焼締陶器蓋(11) 口径16.8cm、器高6.8cmで、宝珠形の鈕が付く。体部は円盤形で、口縁部は体部から垂直に折れる。体部上面に、鈕を中心に2本一組の刻線が同心円状に認められる。経外容器である身(12)とセットである。修学院経塚に類品がある⁷⁾。

焼締陶器身(12) 口径15.0cm、底径17.0cm、器高35cmを測る。口縁部は蓋(11)を受けるために段を設け内傾して立ち上がる。体部は円筒形であるが、底部に向かって緩やかに径を減ずる。体部の上端、中位、下端付近の3箇所に2条一対の刻線が巡る。底部は平底である。第6号経塚出土品⁸⁾が似ているが、蓋と身のかみ合わせは本品が優る。

4. まとめ

今回の踏査により、約100年前に8基確認されていた経塚の内、第2経塚と、第3経塚の2基が残存しているのを確認した。また、花脊別所町と鞍馬を結ぶ旧道沿いの山腹西斜面に未周知の経塚を確認することができたことにより、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲の変更が可能となった。

寄付された出土品は、六器の鉢と台の数が揃っていないこと、白磁合子の蓋がないこと、2個一対で出土することの多い花瓶が1個であること、既知の8基の内、4基で認められた銅製経筒がないことなどから、埋納後、発見までの腐食に加え、発見時やその後の経過で失われた可能性がある。しかしながら、埋納当時の全体像が不明であるとは言え、焼締陶器のセットは、花脊経塚出土品の中で最も精緻であり、銅製の花瓶・六器を伴うことなどから、第1経塚や第3経塚に匹敵するものであった可能性が高い。

第3経塚では当時の発見者が顕彰した石碑が残り、地域にとって重要な遺跡であり続けている。また、今回の踏査により、大正10年報告の第3経塚南腹にあったとされる「阿彌陀寺」の伝来を裏付ける平坦面2箇所を初めて図化することができたことは、鞍馬寺経塚や善峯寺経塚⁸⁾などとともに、寺院と経塚の関係を解明する上で貴重である。

(馬瀬 智光)

謝辞

京都森林インストラクター会参与の久山多代子氏が花脊別所町での踏査のきっかけを与えてくださり、経塚の現状把握をすることができた。また、京都国立博物館 宮川禎一上席研究員の御教示により、破壊されているとはいえ新規の経塚を認識することができた。記して感謝したい。

註

- 1) 魚澄總五郎・梅原未治 「花脊村ノ経塚及び関係遺跡」『京都府史蹟勝地調査會報告』第4冊 京都府、1923年。
- 2) 佐藤虎雄 「花脊村の経塚」『京都府史蹟名勝天然紀年物調査報告』第10冊 京都府、1929年。
島田貞彦 「山城國愛宕郡花脊出土の経塚遺物」『考古學雜誌』第17卷第11號 考古學會、1927年。
- 3) 難波田徹 「京都・花脊別所経塚群の経筒と紙本経」『考古學雜誌』第71卷第1号 日本考古学会、1985年。
- 4) 久山多代子 「京都花脊地区における文化の継承と地域づくりについて」、2008年。
- 5) 註1文献
- 6) 岩井武俊・高橋健自・佐野大和・大場磐雄 『稲荷山経塚』 伏見稲荷大社社務所、1966年。
- 7) 「修学院村ノ経塚」『京都府史蹟勝地調査會報告』第6冊 京都府、1925年。
- 8) 註2文献
- 9) 梅原未治 「善峯寺ノ経塚」『京都府史蹟勝地調査會報告』第7冊 京都府、1926年。

V-2 植物園北遺跡 (18S434)

1. 調査の経緯 (図23・24)

本件は、事務所新築工事に伴う詳細分布調査である。対象地は左京区下鴨北野々町に所在し、植物園北遺跡の南東部に該当する。植物園北遺跡は東西約2km、南北約1.5kmの範囲に及び、上賀茂神社付近が最も地形が高く、北西から南東に向かって緩やかに下がり、賀茂川の扇状地に広がる集落遺跡である。

対象地周辺では、多数の発掘調査や試掘調査、立会調査が行われており、北山通りを挟んだ南側に位置するノートルダム学院敷地内(図23-調査2)では、古墳時代前期と後期の竪穴建物や土坑、奈良時代の掘立柱建物や土坑が確認されている。また対象地西側で行われた発掘調査(図23-調査1)では弥生時代の竪穴建物や土坑などが確認されており、植物園北遺跡においても多数の遺構が確認されている地域であり、今回の対象地でも同様の遺構が展開することが想定された。

現地調査は、平成30年11月8・9日、平成31年1月11日の計3日で行った。現地到着時には、計画範囲内の壁部分にあたる部分で筋掘りが行われており、対象地中央部分のみが残地している状態で、その残地部分に遺構が遺存していることを確認した。協議の結果、工事掘削深度が遺構に抵触しない範囲におさまることとなり、遺構の地中保存が可能となった。このため、調査は基本的に現況の検出状況からの観察と一部掘削に留めることになった。

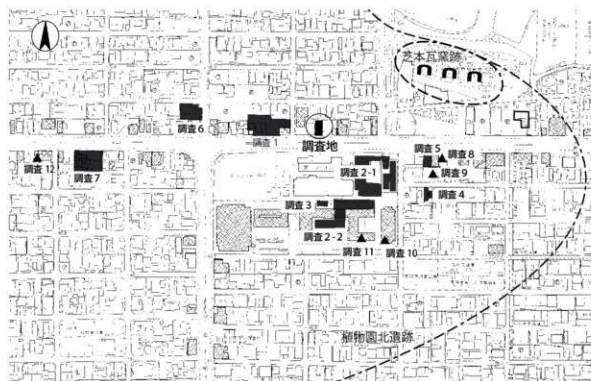


図23 調査地位置図 (1:2,500)



図24 調査区配置図(1:300)

2. 層序と遺構

(図24・25)

基本層序(図25)は、現代盛土以下、GL-0.3～-0.4 m(標高:68.0 m)で明黄褐色粘質土の地山に至る。現況で検出を行った結果、残地範囲のすべてに遺物が確認でき、精査の結果、竪穴建物の埋土であることがわかった。掘削深度の一部が遺構面に達しないため、工事側と協議し、遺構面を確認した。その結果、竪穴建物と重複して土坑を1基確認した。土坑の埋土は炭化物を含む黒色粘質土で、土師器の細片が含まれるものの時期は明らかでない。

竪穴建物の検出幅は東西4.65 m、南北4.35 m、深さ0.3 mである。通常伴うであろう壁溝などは工事掘削で削平を受けており、確認できず、遺構の外縁部分は残っていないと判断した。断面観察から、西辺以外の3面で地山上面に厚さ0.1 mほどの灰黄褐色粘質土を確認した。北辺の西側や東辺などで、一部地山を掘り込んだ痕跡やこの層直上で土器が確認できることから、床土であると判断できる。床面はB-C面及びC-D面ではほぼ水平で、A-B面及びD-A面ではA地点に向かいやや下がっている。西辺中央部では地山を掘り込んだピットを1基確認した。ピット検出部分のみ、竪穴建物埋土を掘削したが、床土は確認できなかった。ピットは直径0.3 mの円形、深さ0.15 mである。柱当たりが最終埋没状態で埋まっているのを確認した。竪穴建物に伴うと考えられるが、周辺調査で確認されている支柱穴は、ごくわずかに直径0.2 mほど、深さ0.2 mほどのものもあるが、多くは直径0.3 m以上、深さ0.5 m以上、柱当たりのみが地山を突き抜けるなどしっかりとしたもの確認されている¹⁾。今回確認したピットとは様相が異なる。このため支柱穴とは考えにくい、竪穴建物に関係するピットと考えられる。

このほか、北辺中央部から北東隅辺りに遺物が集中していること、土器が集中している部分には焼土片が比較的多く見受けられるが、焼土面は確認できていないなどの所見が挙げられる。

3. 遺物(図26)

北辺断面の2層から出土した土器である。土器は中央部から東側に集中しており、今回は確認した土器の一部を取り上げたものである。採取する際に床面直上に土器面が接していることを確

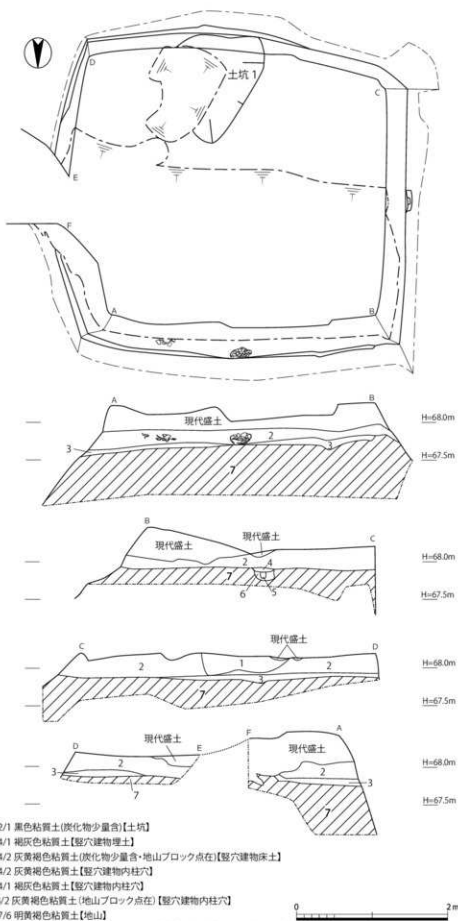


図 25 遺構平・断面図 (1:50)

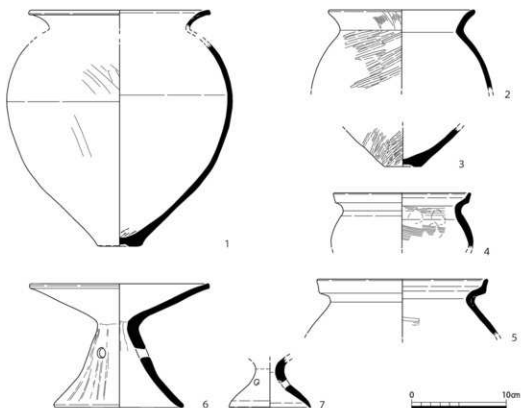


図 26 出土遺物実測図 (1:4)

認できたもの (1・2・6) もある。いずれも器面が磨滅しており、調整痕跡は明瞭でない。

1～5は甕で、4・5は近江系である。1の口縁部は外反し、端部に面を持たせる。外面に横方向のハケが認められるが、磨滅が著しく調整は不明瞭である。底部外面中央には凹みがある。2の口縁部はヨコナデにより外反し、端部は丸く取める。口縁部外面にはタテハケによる調整痕跡が残る。体部外面にはタタキが施される。3の体部外面には2同様タタキが施され、底部外面中央には凹みがある。4・5は受け口状の口縁で、体部内面はハケが施される。6・7は器台で、脚部中央には3方の透かしが施される。6・7は器台である。6の脚部はハの字に広がり、器面外面にはタテ方向のミガキが施される。7は小型で脚部は丸みをもって広がる。庄内甕は確認できていないが、小型の器台が確認できることから、これらは古墳時代初頭、いわゆる庄内式並行段階のものと考えられる²⁷⁾。

4. まとめ

今回の調査では、古墳時代以降の土坑1基と古墳時代初頭の竪穴建物1基を確認した。工事との兼ね合いから断面観察が主となり、竪穴建物の内部にあたる部分の調査はほとんどできなかったものの、古墳時代初頭と考えられる土器群を確認することができた。

植物園北遺跡は古くは縄文時代中期に遡るものの、本格的な集落形成は弥生時代後期にまで下ると考えられていた。しかし近年の出土遺物の再検討から、大規模集落の形成は古墳時代初頭にまで下り、古墳時代中期には急激に縮小することが明らかにされている³³⁾。

今回の調査成果は、ノートルダム学院を中心とした植物園北遺跡の南東に広がる古墳時代初頭の集落の広がりが、調査1や対象地など北側にまで広がることを示す資料となり、今後も対象地周辺の動向を注視してゆきたい。

(奥井 智子)

註

- 1) 『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-24(財)京都市埋蔵文化財研究所, 2013年。
- 2) 吹田直子「山城地域」『古式土師器の年代学』(財)大阪府文化財センター, 2006年。
高野陽子「弥生時代後期～古墳時代の土器様相」『佐山遺跡』京都府遺跡調査報告書第33冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター, 2003年。
- 3) 柏田有香「北山城の古墳時代初頭の集落と土器 - 植物園北遺跡 -」『古墳出現期土器研究』第2号古墳出現期土器研究会, 2014年。

調査一覧(図21の番号に対応)

- 調査1: 『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-1(財)京都市埋蔵文化財研究所, 2007年。
- 調査2: 『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-24(財)京都市埋蔵文化財研究所, 2013年。
- 調査3: 『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘報告-植物園北遺跡-』ノートルダム女子大学, 1991年。
- 調査4: 『植物園北遺跡』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局, 2013年。
- 調査5: 『植物園北遺跡』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局, 2008年。
- 調査6: 『植物園北遺跡』『京都市内遺跡発掘調査報告 平成30年度』京都市文化市民局, 2019年。
『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2018-11(公財)京都市埋蔵文化財研究所, 2019年。
- 調査7: 『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-5(公財)京都市埋蔵文化財研究所, 2017年。
- 調査8: 『植物園北遺跡』『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局, 2013年。
- 調査9: 『植物園北遺跡』『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』京都市文化市民局, 2007年。
- 調査10: 『植物園北遺跡』『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成23年度』京都市文化市民局, 2012年。
- 調査11: 『植物園北遺跡』『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22年度』京都市文化市民局, 2011年。
- 調査12: 『植物園北遺跡』『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局, 1996年。

V-3 延勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡 (19R390)



図 27 調査地位置図 (1:5,000)

1. 調査の経緯 (図27)

調査地は、左京区岡崎成勝寺町地内に位置し、延勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡に該当する。当該地では2014年に発掘調査が行なわれ、平安時代後期～鎌倉時代にかけての延勝寺関連の整地土を確認するとともに、備前・備中産と考えられる瓦の一括資料を得ている¹⁾。今回、同敷地内において新設の電柱設置工事が計画されたため、令和元年9月3日と5日に調査を実施した。

2. 層序と遺物 (図28～30)

層序 (図28・29) 基礎掘削範囲が狭小であるため、調査区内において断面観察を行うことが出来なかった。そこで、掘削地点の地表面から基礎掘削穴を目視して、堆積状況を確認した。

No.1地点は掘削底まで現代盛土であったが、No.2地点ではGL-0.65m(1層)で灰オリブ色泥砂、-2.28mで灰白色粗砂(2層)となる。発掘調査の基本層序を参考にすると、1層は、江戸時代耕作土、室町時代の耕作土、平安時代後期～鎌倉時代の整地層に細分できる可能性がある。2層はいわゆる白川砂であり自然堆積層と考えられる。

遺物(図30) No.2地点の掘削土から平瓦が出土した。平瓦は破片であるため全容は不明である。



図 28 調査区配置図 (1:200)

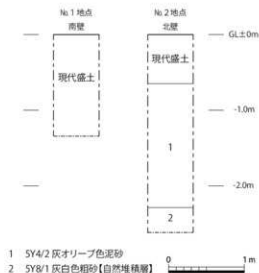


図 29 調査地点柱状図 (1:50)

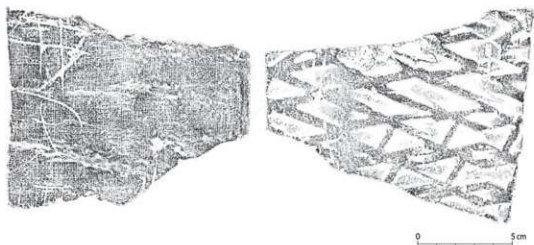


図30 平瓦拓影（1：2）

凸面は斜格子を刻んだ叩き板で叩き締めた後に、側面側にケズリによる面取りを施す。凹面は布目が残り、一部に文字を刻む。側面側にケズリによる面取りを施す。側面はケズリを施し、胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。

3. まとめ

本調査では延勝寺跡に関わる遺構を確認することができなかったが、凹面に文字を刻む平瓦を得ることができた。平瓦の調整方法や凹面に文字を刻むなどの特徴が発掘調査で出土している備前・備中産瓦と類似していることから、本資料も備前・備中産瓦と判断できる。平安時代後期の地方国産瓦は、延勝寺を含めた六勝寺などの造営で使用されていることから、生産遺跡（瓦窯）の特定が出来ない地域では、生産年代の根拠として六勝寺などの創建年代を利用することが多い。しかし、六勝寺などから出土する瓦の量が膨大であることから、容易に産地特定が行えない状況にある。そのような中において、本資料は凸面に格子叩き痕跡を残し、凹面に文字を刻むなどの産地特定に有効な特徴を有している。断片的ではあるが、このような資料の報告は継続的に行っていく必要がある。

また、発掘調査報告書では文字の判読はできないと慎重に判断しているが、書き方などから「菅生」との意見もある³¹⁾。岡山県旧都窪郡に菅生村（現在の岡山県倉敷市）があり、『延喜式』神祇十条に備中国「菅生神社」とある³²⁾。瓦に地名が刻まれる例は、その他でも確認することができ、本資料に刻まれた文字も地名を表している可能性は十分にあると考える。（鈴木 久史）

註

- 1) 近藤章子ほか『延勝寺跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-1（公財）京都市埋蔵文化財研究所、2014年。
- 2) 近藤章子氏（公財）京都市埋蔵文化財研究所）にご教示頂いた。
- 3) 『延喜式』「神祇十名下」備中国十八座大一座 小十七座 窪屋三都三座並小 百射山神社 足高神社 菅生神社。

V-4 伏見城跡、指月城跡 (19F349)

1. 調査の経緯 (図31)

本件は伏見区桃山町泰長老における住宅新築工事に伴う詳細分布調査である。調査は令和元年10月3日と4日に行った。調査地は伏見城跡・指月城跡に該当しており、指月城跡の南西隅付近にあたる。豊臣秀吉が晩年に指月屋敷を整備する文禄元年(1592)以前の伏見は、平安時代に橘俊綱が山荘を営み、没後、白河院の皇室の荘園に加えられた。平安時代末期には後白河院が「伏見殿」を造営し、鎌倉時代には持明院統の所領となる。南北朝時代になると大光明寺が創建されるが、次第に荒廃していく¹⁾。

周辺では1988年から1991年にかけて立会調査が実施されている。本調査地に最も近接する調査①では、地山上面(G L. -1.25 m)で瓦器片を含む室町時代の土坑や時期不明の遺物を含む落込みを確認している²⁾。調査②では江戸時代の包含層を確認するにとどまり³⁾、調査③では、調査地のほとんどが現代攪乱で削平を受けており、部分的に時期不明の無遺物層を確認するにとどまる⁴⁾。また調査④と調査⑤では、指月城跡の堀跡に推定される場所であり、盛土や流れ堆積を確認しているものの伏見城以前の遺構は確認されていない⁵⁾・⁶⁾。

以上のように、周辺の立会調査では、指月屋敷以前の遺構は確認されていないが、2015年の発掘調査では奈良時代から鎌倉時代にかけての遺構を確認している⁷⁾。

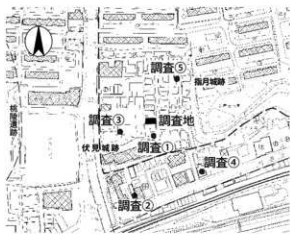


図31 調査地位置図 (1 : 5,000)



図32 調査区配置図 (1 : 500)

2. 層序と遺構

(図32～34)

基本層序はGL-0.18 mでにぶい黄褐色泥砂(1層), -0.32 mでにぶい黄褐色泥砂(2層), -0.8 mで整地土の暗褐色粘質土(5層)と地山である黄褐色粘質土(6層), -0.9 mで明褐色粘質土(7層), -1.38～-1.78 mまで黄褐色砂礫(8層)である。6層上面で、固く締まる暗褐色粘質土(5層)の整地土と土坑を1基礎認した(土坑1)。

土坑1は、掘削断面で南北2.2 m、深さ0.5 mの規模を測る。平面形状は不明である。埋土は2層に分けられ、上層(3層)は炭化物を含まない褐色粘質土、下層(4層)は炭化物を含む褐色粘質土である。下層の北側付近から土師器皿と完形の白磁碗が出土した。白磁碗は裏返り、その東側から土師器皿が4枚正位置で重なって出土した。出土状況から墓の可能性が考えられる。

3. 遺物(図35)

遺物は全て土坑1の4層から出土した。1～4は土師器の皿Nで、5は白磁の碗である。1～3はほぼ完形で、1は底部が押し出し、口縁端部は三角形を呈する。全体的に摩耗しているが、時期はVI期古段階のものと考えられる。4は端部が1から3よりも薄い。5は白磁碗IV類である。平安時代末から鎌倉時代のものと考えられる。



- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色泥砂
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂
 - 3 10YR4/4 褐色粘質土【土坑1埋土(上層)】
 - 4 10YR4/4 褐色粘質土(土器,炭化物を含む)【土坑1埋土(下層)】
 - 5 10YR3/4 暗褐色粘質土(固く締まる)【整地層】
 - 6 10YR5/6 黄褐色粘質土
 - 7 7.5YR5/6 明褐色粘質土
 - 8 2.5Y5/4 黄褐色砂礫
- 【地山】

図33 A-A'間西壁断面図(1:50)

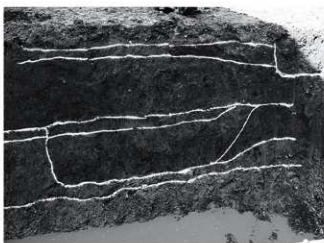


図34 遺構検出状況(南東から)

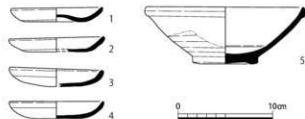


図35 土坑1出土遺物実測図(1:4)

4. まとめ

今回の調査で平安時代末から鎌倉時代の土坑を1基確認した。今回確認した平安時代末から鎌倉時代の土坑は、指月の丘で初めて確認された事例であり、鎌倉時代に存在した「伏見荘」を知る上で重要な成果と言える。また、伏見城跡内の発掘調査では御香宮神社の東側で伏見城築城以前の濠を確認し、その濠が「三淵大和守」築城に関わるものと位置づけられている⁸⁾。調査①で室町時代の土坑が確認されている。今回の成果によって伏見城期以前の遺構が確認できる可能性がでてきた。現時点において周辺での中世の遺構を確認した調査事例が少数であるため、今後の資料増加が期待される。

(清水 早織)

註

- 1) 清喜裕二・有馬伸・横田真吾「光明天皇ほか 大光明寺陵の外形調査」『書陵部紀要』第69号、2018年。
- 2) (調査①)『平成元年度京都市内遺跡試掘立会調査概報』京都市文化市民局 一覧表39、1990年。
- 3) (調査②)『昭和63年度京都市内遺跡試掘立会調査概報』京都市文化市民局 一覧表33、1989年。
- 4) (調査③)『平成3年度京都市内遺跡試掘立会調査概報』京都市文化市民局 一覧表97、1992年。
- 5) (調査④)『昭和63年度京都市内遺跡試掘立会調査概報』京都市文化市民局 一覧表8、1989年。
- 6) (調査⑤)『平成3年度京都市内遺跡試掘立会調査概報』京都市文化市民局 一覧表206、1992年。
- 7) 近藤章子・松吉祐希・中谷正和『伏見城跡・桃陵遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-2、(公財)京都市埋蔵文化財研究所、2015年。
- 8) 前田義明「伏見城跡・御香宮廃寺」『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、1999年。

参考文献

内田好昭・丸川義広・高橋潔「伏見城跡」『平成元年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、1994年。

V-5 長岡京左京九条三坊五・十二町跡，淀城跡 (17NG294)

1. 調査の経緯 (図36～38)

調査地は、府道13号(旧京阪国道)と府道淀停車場線の交差点「納所」より南に位置する(図36)。絵図に基づく復元では、元和9年(1623)に徳川幕府が築いた淀城跡二ノ丸の範疇にあり、敷地の東辺には二ノ丸の東を限る堀と石垣が存在したと推定される。

平成29年7月、この地に本社を置くケイコン株式会社が、事務所の新設を計画するに伴い、埋蔵文化財発掘の届出を当課へ提出した。これを受けて、当課は同年11月に既存建物の解体立会と新工場計画地の試掘調査を実施した。その結果、遺構面の残存が確認されたため、発掘調査が必要であると判断し、その旨を通知した。

翌30年2月、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所により発掘調査が実施された。その結果、当初の想定通り調査区の東辺において淀城二ノ丸の東面石垣と内堀、石列等が発見された(図37)。この成果に基づき、ケイコン株式会社と当課は協議を行い、建物基礎杭の位置変更等により、石垣の地中保存を図ることとした。ただし建物の北端部と南端部については、構造上、石垣を撤去せざるを得ないこととなり、追加調査が必要となった。

今回の調査は、以上の経緯により、撤去石垣部分の記録保存を目的として、平成31年2月18・20日に実施したものである。調査の結果、発掘調査時に発見された石垣が、北方および南方へさらに連続することが明らかとなった(図38)。



図36 調査地位置図(1:5000)

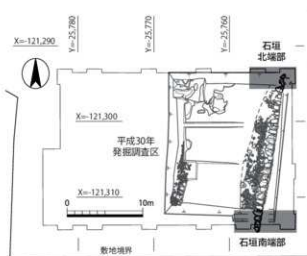


図37 調査地点配置図(1:500)



図38 石垣南端部検出状況(南東から)

2. 調査成果 (図39)

発掘調査時に検出された石垣は、長さ17.0 mを測る。今回新たに検出した石垣の長さは、北端部が2.5 m、南端部が3.6 mを測るため、あわせて23.1 mの残存が確認されたこととなる。また、石垣の積石を2段分(最大深0.7 m)検出したが、発掘調査時にはすでに5段以上(最大深1.2~1.4 m)の残存が確認されている。

今回新たに検出した最上段の石の個数は、北端部・南端部ともに4点である。正面(東面)は凹凸無く揃えられており、発掘調査時の石垣とは直線的に並ぶ。その検出状況から、石垣はさらに南北方向へのびているものと推測される。なお、北端部の石垣は、柱状改良杭の影響により一部削平を受け、やや列が乱された状態で出土した。

石材の間には、拳大の角礫が間詰りとして差込まれている。石種は白色系の花崗岩や石英斑岩であり、発掘調査時の石垣と同様である。南端部のうちもっとも南で発見した1石には、上面に矢孔痕跡を3点認めた。最大長14 cm、打撃深8 cmを測る大型のもので、慶長期の特徴を備えている。淀城跡の石垣は伏見城の廢石を再利用したと考えられているが、その一端を示す資料と言える。

(黒須 亜希子)

引用文献

松永修平『長岡京跡・淀城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2017-14、(公財)京都市埋蔵文化財研究所、2018年。

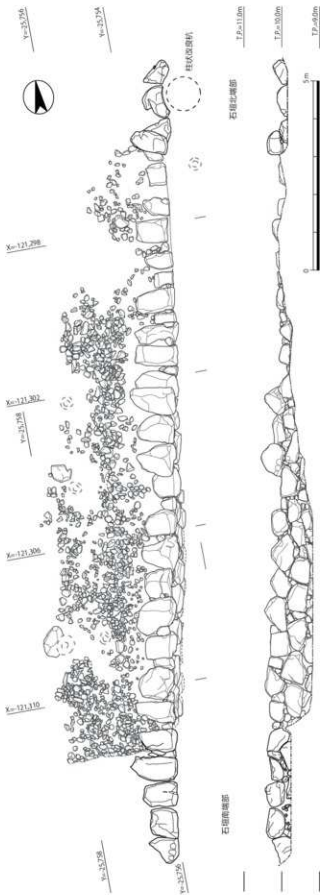


図39 遺構平・立面図(1:100)

V-6 上ノ山古墳 (18A009)

1. 調査の経緯 (図40)

調査地は西京区松尾上ノ山町・同区山田葉室町にあたり、周知の埋蔵文化財包蔵地「上ノ山古墳」が所在する(図40)。当該地については、かねてより地権者の方の文化財保護に関する御理解・御協力のもと、古墳の保全が図られてきた。そして、平成29年には、上ノ山古墳を含む敷地について京都市へ寄付された。

上ノ山古墳は、古墳として認識されていたものの、本格的な調査は実施されていない。そのため不明点が多く、将来的に保存・活用を図る上で基礎資料の整備はかねてよりの課題であった。また、敷地の東側には急峻な崖面が迫っており、古墳の保全を図る上での現状把握は急務であった。以上の経緯を踏まえ、ドローンを用いた地形測量と踏査を実施した。測量および踏査は平成31年2月26日および令和元年7月8日に実施した。なお、測量調査後、龍谷大学が発掘調査を実施している。その報告も併せて御参照願いたい¹⁾。

上ノ山古墳が所在する桂川右岸域は乙訓と呼ばれ、京都市内でも屈指の古墳集中地域として知られる。これまでに約400基の古墳が確認されているものの、その1/3にあたる133基が既に削平を受けて消滅、もしくは地表から確認出来ない状況にある。このような状況下で本古墳は幸運にも現在まで保存されてきた。上ノ山古墳のすぐ南に所在する穀塚古墳は古墳時代中期後葉の前方後円墳であるが、昭和27～32年にかけて土取りのために消滅し、現状では見る影もない。穀塚古墳は、乙訓全体で40基ほどしか存在しない首長墓の内の1基であり、後円部では竪穴式石槨や粘土槨が確認されている。埋葬施設からは両文帯神獸鏡や金銅冠冠、鳳凰文環頭大刀、龍文帯金具など豊富な副葬品が確認されている。上ノ山古墳は、この穀塚古墳の陪塚とする見解もあるものの、その関係性を検討できる材料は現時点では揃っていない。また、本来的に古墳ではない可能性も現状では残されている。以下、本報告では上ノ山古墳を古墳であるとの前提で報告を行う。



図40 調査地位置図(1:2,500)



図41 上ノ山古墳全景(北から)

2. 測量調査の成果 (図41～43)

敷地は平面が歪なL字形を呈しており、その北西隅に上ノ山古墳は所在する。今回測量調査を実施したのは古墳およびその付近にあたる東西約38m、南北約20～25mの範囲である。測量は本市より委託を受けた(株)文化財サービスが実施した。機材は、ドローンがDJI社製phantom4 Pro V2.0、搭載カメラが1インチCMOSセンサー(有効画素数2000万画素)、トータルステーションがライカジオシステムズ社製Leica Viva TS15を使用した。図化に際しては、20cm間隔の等高線を用いて表現した。

敷地の東端からおおよそ5m(段差①)と10m(段差②)の位置に段があり、東に向かって下がるひな壇状の地形を呈す。最高所は古墳の墳頂部で標高41.493m、最低所は敷地南東隅で32.15mとなり、敷地の東西で約9m以上の比高差を有する。

古墳付近の等高線を着目すると、古墳の北および西側については直線状なのに対し、東および南側については円弧を描く。このどちらがより古墳本来の様相を留めているのかは現状で断定はできないものの、北および西側の等高線がその外側に設けられているコンクリート製の擁壁とほぼ平行であることを踏まえるならば、直線的な等高線については擁壁設置時の影響を受けた結果と捉え得る。したがって、東および南側が古墳の旧態を留めている可能性が高いものと考えられ、この点から上ノ山古墳が円形の墳丘を有するものと推測される。なお、古墳の東および南側では、おおよそ40.6m付近に傾斜変換点が確認できる。さらに古墳の東側の等高線に注目すると、40.8m以上の等高線はおおよそ円形に巡るが、40.6m～40.0mの等高線は東側に突出する。その形状のみをみれば上ノ山古墳が前方後円墳もしくは帆立貝古墳である可能性、または造出などの施設が存在が想起される。しかし、断面図や現地を確認する限りこの突出部は非常に緩やかな東下りの斜面であり、古墳に伴う人為的な土地の改変や遺物の散布等は確認できないことから、円墳以外の墳形や造出の存在を積極的に想定することは難しい。また、突出する等高線の形状は、段差②とした39.8m～38.2mの等高線の形状と類似する事から、これは古墳に伴うものではない可能性が高い。ただし、この地形が当初の自然地形か、もしくは後世の削平を受けた結果生じたものなのかは不明である。

3. まとめ (図44)

最後に、調査所見を踏まえた古墳の復元案を提示したい。まず、古墳の旧態を留めていると考えられる東および南側の等高線から、上ノ山古墳は円墳と考えられる。等高線から古墳の中心点を復元すると点Pの位置となり、この付近が現状の古墳の最高所となる。墳丘規模については現状で確認できる傾斜変換点と等高線の巡り方から、おおよそ40.6m付近が墳丘裾と想定される。この復元によると、上ノ山古墳は直径12mほどの円墳となり、現在の墳丘高は0.89mとなる。なお、現状では積極的に指摘することはできないものの、古墳東側の等高線が東向きに張り出ししており、ここに何らかの古墳に伴う施設等が存在する可能性もある。

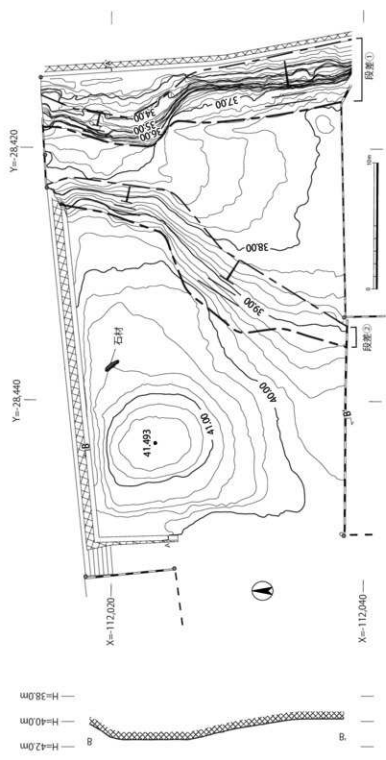


图 42 上ノ山古墳填丘測量図 (1 : 300)

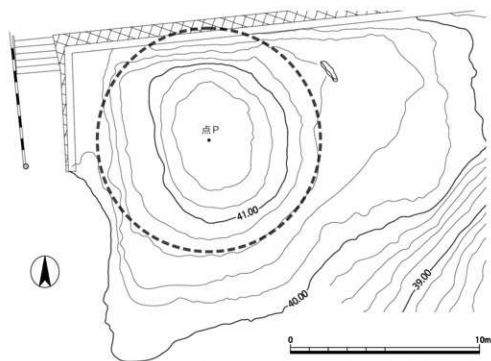


図43 墳丘復元図(1:200)

以上、本測量成果により、これまで本格的な調査が実施されていなかった上ノ山古墳について、現状把握および基礎情報を得ることができた事は大きな成果といえる。ただし、この上ノ山古墳は龍谷大学の発掘調査成果を受け、本来的に古墳でない可能性も含めて詳細かつ慎重な検討を加えていく必要がある。

(熊井 亮介)

註

- 1) 「上ノ山古墳第1次調査報告」『考古学実習・文化財実習報告』第3集 龍谷大学文学部歴史学科文化遺産学専攻、2020年刊行予定。

参考文献

- ①梅原末治「松尾穀塚」『京都府史蹟勝地調査会報告』第2冊、1920年。
- ②久世康博「IV 穀塚古墳(元年度MK11)」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度(財)京都市埋蔵文化財研究所、1992年。

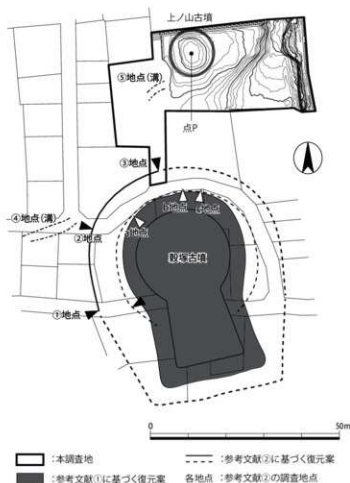


図44 上ノ山古墳と穀塚古墳の位置関係(1:1,000)

V-7 大藪遺跡 (18S738)

1. 調査の経緯 (図45)

調査地は、国道171号と都市計画道路(向日町上鳥羽線)の交差点より東に位置する。現況は旧集落(久世大藪村・築山村)にはさまれた水田地で、敷地の一部が弥生時代～古墳時代の集落遺跡である大藪遺跡にかかる。

今回、この区画において大型店舗の建設が計画されたため、大藪遺跡の範囲確認を主目的として、令和元年5月23日～6月28日に詳細分布調査を実施した。

周辺では、南に接する都市計画道路(向日町上鳥羽線)の建設に伴う発掘調査が平成24年度に行われており、縄文時代、長岡京期～室町時代、江戸時代の各遺構面が検出されている(図45①)、また、その南北で試掘調査が行われており、南側区画(同②)では長岡京期の南北溝が、北側区画(同③)では時期不明の東西溝が検出されている。このため、当該地においても、連続する遺構面の存在が十分に予測された。

なお今回の工事では、簡易土留と地中梁設置に伴う掘削工事に伴い、建物計画範囲が格子状に筋掘りされた。このため、調査は各所における断面観察を主体とした。調査の結果、弥生時代後期～古墳時代前期集落の東限と考えられる流路のほか、長岡京期および平安時代の遺構群を検出した。

2. 調査成果 (図46～51)

(1) 基本層序

断面観察は、計26地点において実施した(図48)。基本層序は、現代盛土の層厚が0.5m、旧



図45 調査地位置図(1:5,000)



図46 No.9地点全景(西から)

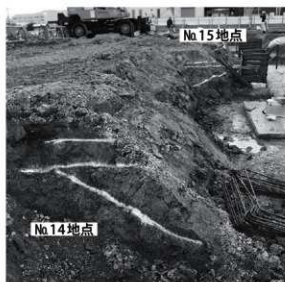


図47 No.14・15地点全景(西から)

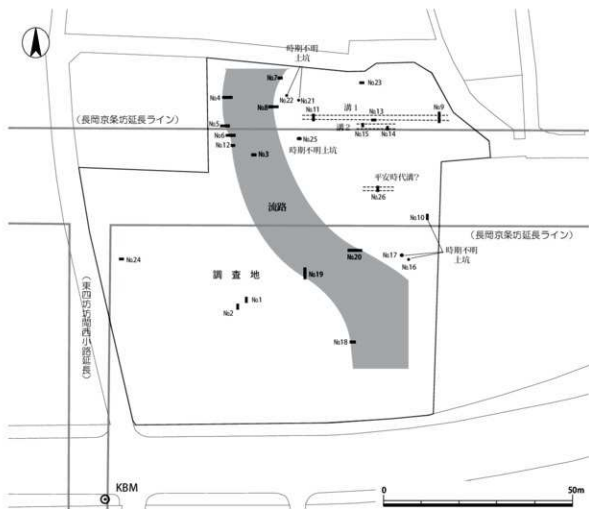


図 48 調査地点配置図 (1 : 1,000)

耕作土（近現代）が約 0.2～0.3 m、古代～近世包含層が 0.1～0.2 m あり、その直下に黄褐色粘土質シルトを主体とする地山が存在する。地山上面は、北が高く、南に向かって徐々に下がるため、北半部では包含層が薄く、南に向かって徐々に層厚を増す。遺構は、地山上面（現地表面より概ね -0.7～-0.8 m）において検出した。

調査地点のうち、No. 4～8・12・18～20・23 では、弥生時代後期～古墳時代前期に埋没した流路を検出した。また、北東部の No. 9・11・14・15・26 では長岡京期～平安時代の遺構を確認した。このほか、No. 10・13・16・17・21・22・25 では、時期不明のピット・土坑を検出した。

(2) 遺構と遺物

流路（弥生時代後期～古墳時代前期）（図 49）

調査地のほぼ中央において、蛇行する流路を検出した。

No. 4 地点では、旧耕作土以下、GL-0.88 m で長岡京期～平安時代包含層、-0.98 m で黒褐色微砂混シルト、-1.1 m で地山を確認し、この地山上面において流路の西肩を検出した。流路の埋土は黒褐色微砂混じりシルトを主体とし、炭化物を少量含む。埋土から、弥生土器壺の破片（弥生時代後期）が出土した。

№5地点では、旧耕作土以下、GL-0.75 mで地山を確認し、その上面で流路の西肩を検出した。№4地点に比べて岸面は角度をもって深く抉られている。水流の攻撃面であろう。

№6地点では、旧耕作土以下、GL-0.74 mで流路の西肩を検出した。№4・5の流路の南延長部にあたる。№5と同じく岸面は角度をもって抉られている。

№7地点では、旧耕作土の直下であるGL-0.73 mで地山を確認し、その上面において流路の東肩を検出した。№4・5・6で検出した流路の対岸肩部にあたと推測される。流路内からは土師器甕の破片が出土した。

№8地点では、旧耕作土以下、GL-0.61 mで黒褐色微砂混じりシルト（古代包含層）、-0.74 mで地山に達する。地山上面では流路の東方肩を検出した。№7流路の南延長部である。

№12地点では、旧耕作土直下であるGL-0.63 mで地山を確認した。地山上面では、流路の西肩を検出した。№4・5・6流路の南延長部である。

№18地点では、旧耕作土以下、GL-0.85 mで灰色シルト（平安時代前期包含層）、-1.1 mで地山を確認した。地山上面では、なだらかに切り込む流路の西肩口を検出した。

№19では、旧耕作土以下、GL-0.85 mで灰黄褐色シルト（古代包含層）、-1.0 mで地山を確認した。地山上面では、№18と同じくなだらかに切り込む流路の西肩を検出した。

№20では、旧耕作土以下、GL-0.55 mで灰色細砂、-0.75 mで地山を確認した。地山上面において、流路の東肩を検出した。流路内からは、弥生土器の壺（弥生時代後期）と高杯の破片が出土した。灰色細砂層は他の箇所では確認できない土層であるが、長岡京期の須恵器片を含む。流路埋没後、部分的な窪地に堆積した土層と考えられる。

なお、流路のほぼ中央に位置する№23地点では、掘削底であるGL-1.3 mに至るまで褐灰色粘土質シルト（流路埋土）が連続する。このため流路の底面深度を確認することはできなかった。

長岡京期～平安時代の遺構（図50）

№9地点では、旧耕作土以下、-0.35 mでオリーブ褐色礫混シルト（古代包含層）、-0.48 mで地山を確認した。地山上面では、最大幅2.4 m、残存深度0.35 mを測る遺構を検出した。西に位置する№11地点と東西につながるから、溝の一部と考えられる（後述）。遺構埋土からは、平瓦、土師器甕の破片が出土した。また包含層からは、須恵器甕と杯身の破片が出土した。

№11地点では、旧耕作土以下、-0.4 mで暗灰黄色シルト（古代包含層）、-0.56 mで地山を確認した。地山上面では、最大幅1.4 m、残存深度0.15 mを測る遺構を検出した。上述のとおり、№11の東には№9が位置するが、この間約30 mの間に土壁が残存しており、断続的に層序を観察することができた。その結果、№9の3層（遺構埋土）と№11の3層（遺構埋土）が連続することが明らかとなった。このため、両者は同一遺構であり、東西方向にのびる溝であると判断することができる（溝1）。

このほか、溝1の下面において土坑を1基検出した。最大径0.5 m、残存深度は0.25 mを測る。地山上面での成立ならば、最大深度0.5 m程度に復元できる。出土遺物は確認できていないため、

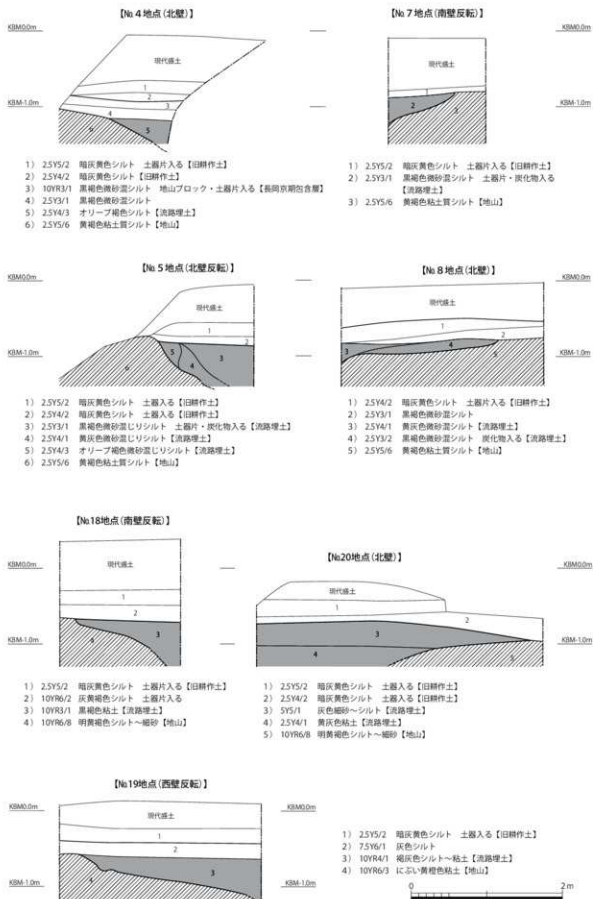


図 49 流路検出地点断面図 (1 : 50)

時期は不明である。

No 14 地点では、旧耕作土以下、-0.42 m で地山を確認した。地山上面では北へ落ちる遺構の北肩を検出した。一方、No 14 地点より西へ約 6 m 隔てた No 15 地点では、南へ落ちる遺構の北肩を検出した。これらは両者の間に残る土壁の観察より、溝状遺構の両肩になると判断される（図 47）。

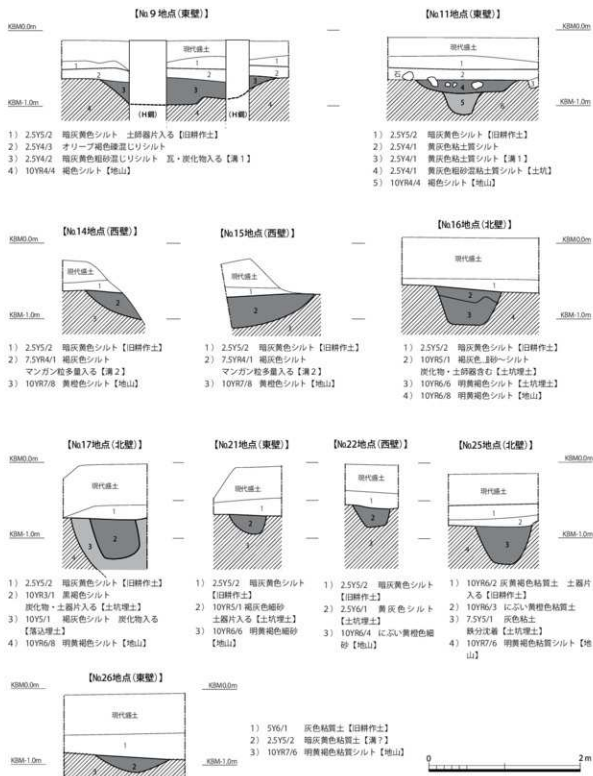


図 50 遺構検出地点断面図（1：50）

両者をあわせると最大幅 1.8 m を測る溝となる（溝 2）。溝内からは、緑釉陶器碗（図 51-1）の破片が出土した。平安時代前期の製品である。



図 51 出土遺物実測図（1：4）

Na 26 地点では、旧耕作土の直

下である GL-0.67 m で地山に至り、この上面において、最大幅 1.0 m、残存深度 0.2 m の遺構を検出した。溝もしくは土坑の一部と考えられる。埋土からは、土師器皿（図 51-5）が出土した。口縁部に煤の付着があることから、灯明皿として使用されたことがわかる。また旧耕作土からは土師器皿と甕の破片（図 51-3・4）が出土した。平安時代の製品である。

3. まとめ

以上、調査成果を記述した。今回は調査地の大部分が包蔵地範囲外にあたることから、試掘調査ではなく詳細分布調査を実施した。その結果、包蔵地範囲外においても遺構及び遺物を確認した。新たに得られた知見は、大きく以下の 2 点である。

① 調査地のほぼ中央において、北から南へ大きく蛇行する弥生時代後期～古墳時代前期の流路を検出した。その攻撃面となった Na 5・6 地点の土層観察より、一定の水量をもつ流路であったと推測される。なお、この流路より東では当該期遺物の出土が認められなかったことから、この流路が弥生時代後期～古墳時代前期の大敷集落の東限であった可能性が高い。

② 調査地東半部では、長岡京期～平安時代の遺構群を検出した。特に Na 9・11・13・14・15 地点ではそれぞれ東西方向にのびる溝 1・2 を検出した。当該時期の遺物も一定量出土しており、周辺に人々が居住したことが窺える。

なお今回の調査地は、現在復元されている長岡京跡の北限よりさらに北に位置するが、周辺ではこれまでも長岡京期に遡る溝状遺構の報告があり、これらを条坊側溝とする見解があった¹⁾。今回検出した溝 1 は、長岡京北限より北へ約 260 m の距離にあり、これは約 2 町の距離に相当する。今回の調査成果は、長岡京域の範囲について再考を促す資料になると言えよう。

（黒須 亜希子）

註

1) 調査①ほか、府道向日町上鳥羽線の調査では長岡京期の遺構が確認されたことから、「長岡京北辺遺跡」が想定された。

引用文献

調査①：山本雅和・田中律子 『大敷遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2010-18、(財)京都市埋蔵文化財研究所、2011 年。

調査②：京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告』平成 28 年度、2017 年。

調査③：京都市文化市民局 『京都市内遺跡発掘調査報告』平成 30 年度、2019 年。

V-8 周山城跡 (19A006)

1. 調査の経緯 (図52)

本件は、京都市右京区京北周山町に所在する周山城跡の詳細分布調査である。この城は引削川と上桂川との合流点の西側、標高 509.4 m の黒尾山に至る丘陵尾根上に展開する山城である (図 52)。平成 28 年、林道造成工事が遺跡に影響を与えている可能性があるとの連絡を受け現地踏査を実施し、林道工事による直接的な遺跡の破壊はなかったが、山城の西半部に接する箇所新たな林道を確認した。このようなことから、平成 29 年に遺跡の保存と林道工事の円滑な調整を図るために、航空レーザー測量で「赤色立体地図」を作成し再度踏査を実施している。その結果、周山城が東西約 1.4 km、南北約 0.7 km に及ぶ山城であることが明らかになったとともに、郭の正確な位置や規模、林道開発の状況などを把握した¹⁾。さらに、中心部と支尾根の連絡の様相などを検討する手がかりも得ている。本年度は、引き続き「赤色立体地図」によって明らかになった新たな平場の状況を確認するための現地踏査を 7 月 25 日に実施した。

2. 周山城跡の歴史

周山城の築かれた丹波地域は、元亀 4 年 (1573) 2 月に将軍足利義昭と織田信長が決裂した頃から、反信長勢力が伸張する。天正 3 年 (1575) 3 月から信長の丹波攻略が始まり、同年 9 月に降に明智光秀が参加している。反信長勢力の赤井直正の拠る黒井城の攻略が間近に迫る中、天正 4 年 (1576) 1 月に波多野秀治が裏切ると光秀は敗退し、丹波攻略は長期化してしまう。光秀は、再度の丹波攻略のため、京都府亀岡市の余部城、次いで天正 5 年 (1577) に亀岡城の築城を開始する。その後、天正 7 年 (1579) 5 月末に秀治の拠る八上城、7 月 24 日には宇津城、8 月 9 日にはついに赤井氏の拠る黒井城を開城させている²⁾。

周山城跡についての記述のある史料は極めて限られているが、『津田宗久茶湯日記』天正 9 年 8 月条に、「同八月十四日二丹波國周山へ越候、惟任日向守殿被成御出候、十五夜之月見、彼山二而終夜遊覧」とあることから、少なくとも天正 9 年 (1581) には築城されたと考えられている。また、『兼見卿記』によれば、本能寺の変から 1 年半が経過した天正 12 年 (1584) 2 月 4 日に豊臣秀吉が周山城を訪れており、少なくともこの頃まで存続していたようである。

3. 遺構 (図 53～55)

東城は、標高約 480 m をピークとする丘陵頂部を「中心部」とし、8 つの支尾根に郭が構築されている。平成 29 年度の報告ではこれらをそれぞれ「北尾根」「北北東尾根」「北東尾根」「東尾根」「南東尾根」「南南東尾根」「南尾根」「西尾根」としており、本報告もこれに従う (図 53)。

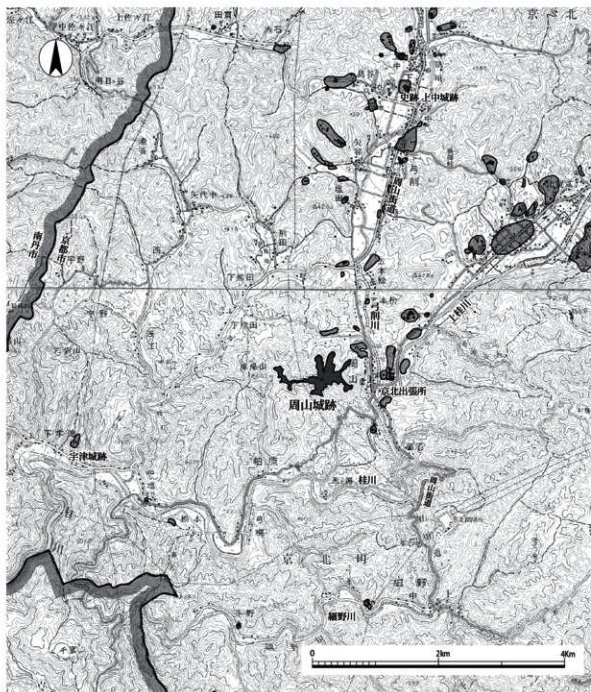


図 52 周山城跡と周辺遺跡位置図 (1 : 60,000)

中心部 (図 54) 郭1の東側には、郭2に繋がる通路と石製階段を伴う虎口がある。この虎口周辺に瓦が散在しており、特に南斜面地の散布密度が非常に高い。これまでの踏査でも、当該地周辺でのみ瓦が採取されていることから、郭1に瓦葺建物があった可能性が高い。

南東尾根 (図 53) 東尾根から南東方向に延びる支尾根状に展開する郭群である。今回の調査地点は、郭25から南東に伸びる稜線上に位置する。現状では草木が生い茂り、調査地点に向かう道などを確認することができなかった。

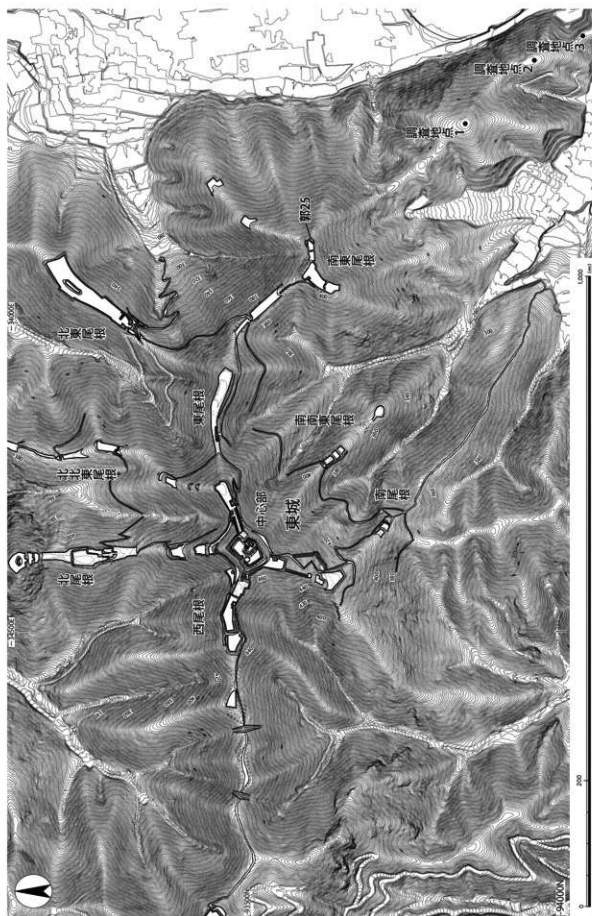


图 53 周山城跡縄張り図 (1 : 6,000)

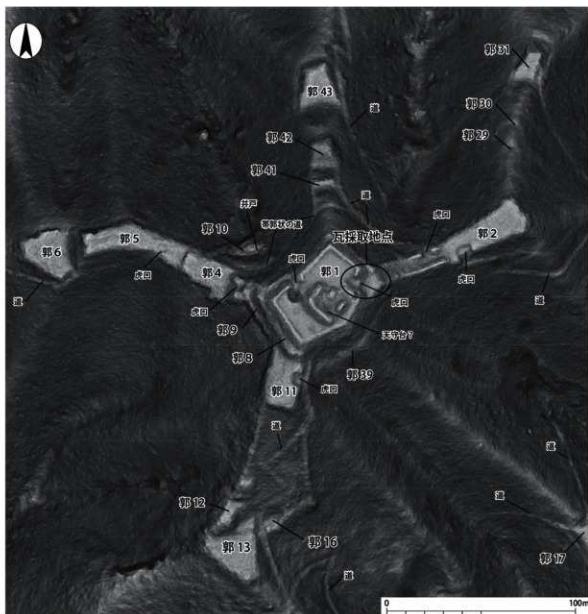


図54 中心部瓦散布地点（1：2,000）

調査地点1（図55）東西約11.8m、南北11.9mの平場が展開する。表面調査のみでは遺構を確認することが出来なかったが、郭の可能性が考えられる。

調査地点2（図55）既に高橋成計氏によって縄張り図が作成されている。縄張り図通りに僅かな平地を確認することができたが、郭とは断定することができず、今後の課題である。

調査地点3（図55）既に電波塔が設置されており平場が広がる。電波塔の設置時に平場を造成した可能性があり、郭であったのかは定かではない。

3. 遺物（図56・57）

東城郭1の虎口近辺で瓦を採取した。1～5が丸瓦、6～9が平瓦である。1は丸瓦部凸面にナデ、凹面は布目を残し、側面、端側にナデを施す。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。2は凸面に縦ケズリを施す。凹面糸切り痕と布目を残し、広端側に横ナデ、側面側に縦ナデを施す。



図 55 南東尾根踏査地点 (1 : 2,000)

す。側面はケズリを施す。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。3は凸面に縦ケズリ後ナデ、凹面は糸切り痕と布目を残し、側面側に縦ナデ、広端側に横ナデを施す。側面はケズリ、広端面には離れ砂が付着する。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。4は凸面に縦ケズリ、凹面は布目と吊り組痕が残る、側面側に縦ケズリを施す。側面はケズリを施す。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。5は丸瓦凸面に縦ケズリを施す。凹面に糸切りと痕と布目、吊り組痕が残る。側面側にケズリを施す。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。6は凹面に横ナデ、側面側は縦ナデとケズリによる面取り、狭端側に幅の広い面取りを施す。凸面に縦ナデ、側面、端面にケズリを施す。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。7は凹面に横ナデ、狭端面側に幅の広い面取りを施す。凸面は縦ナデ後に側面から狭端面側にかけてナデを施す。側面、端面はケズリを施す。胎土は一部小石を含み、焼成は硬質である。8は凹面に横ナデ、広端面側に僅かなケズリによる面取りを施す。凸面縦ナデ、側面・端面ケズリを施す。胎土は少量の砂粒を含み、焼成

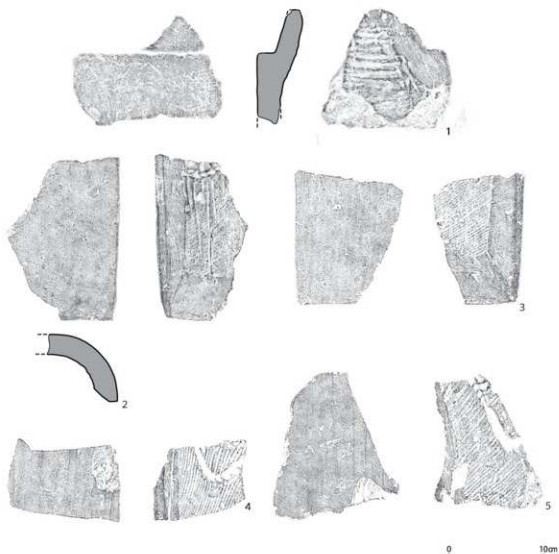


図 56 採取丸瓦拓影・実測図 (1:4)

は硬質である。9は凹面に横ナデ、狭端面側に幅の広い面取りを施す。凸面に縦ナデ、側面、端面ケズリを施す。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質である。

4. まとめ

平場の調査 調査地点に平場が展開していることが明らかになった。調査地点3は電波塔が設置されており、平場の造成時期について慎重に検討しなければならないが、調査地点1及び調査地点2については郭として利用されていた可能性があるものの端部は明瞭ではない。また、南東尾根に点在する郭との接続道などが未確認であり、更なる調査を実施する必要がある。

瓦の様相 当該地は廃城後の積極的な土地利用は認められておらず、織田信長期の造瓦の様相を検討する上で貴重な資料である。採取した瓦の製作・調整技法はほぼ共通する。丸瓦は凸面は縦ケズリを施し、凹面は側面から端面側、玉縁側にかけて一連のケズリを施す。また、布目と共に糸切り痕と吊り紐痕を確認することができる。平瓦は凹凸面にナデ調整、凹面の端面側に幅の

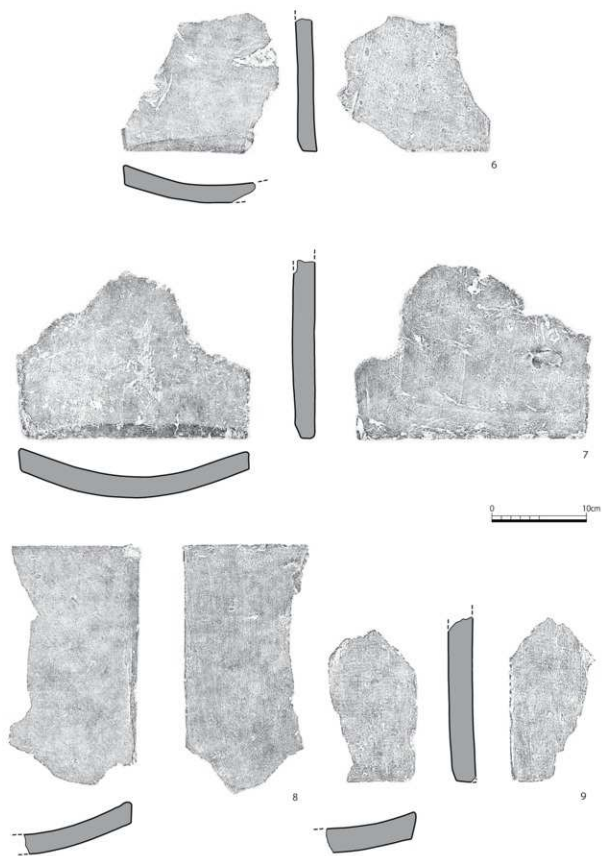


图 57 采取平瓦拓影·实测图 (1:4)

広い面取りを施す。このような調整技法は、京都市内から出土する同時期の瓦にも認められる。産地については不明であるが、周山城が明智光秀による丹波地域の攻略の最中に築城されたことを勘案すれば、京都産の瓦を使用した可能性が考えられる。

建物 これまで瓦は郭1周辺のみ採取されている³⁾。本踏査においても、同様の成果が得られたことから、郭1にのみ瓦葺建物が存在していた可能性が高まった。郭1には天守台の基礎と考えられている石塁があり、天守が瓦葺であった可能性が考えられる。しかし、瓦の散布密度が最も高いのは虎口の南斜面であり、天守台の周辺ではほとんど確認できない。虎口には石製階段が備えられており、天守台のある郭1の正面を意識している。さらに瓦の分布密度が高いことも勘案すれば、虎口の郭1側に瓦葺の門を想定することも可能と考える。今後詳細な調査を進めたうえで再検討する必要がある。また、今回、採取した瓦は丸・平瓦のみであるが、これまでに巴文軒丸瓦と均整唐草文軒平瓦が採取されている。ただし、軒瓦の量は非常に少なく、瓦葺建物が総瓦葺であったのかは不明である。当該地のように、瓦の運搬が困難な場所における瓦葺建物がどのような様子であったのかは課題である。

(馬瀬 智光・鈴木 久史)

註

- 1) 馬瀬智光「IV-8 周山城 (16A011)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告平成29年度』京都市文化市民局、2018年。
- 2) 山本浩樹「明智光秀の丹波支配」『平成28年度 京都府域の文化資源に関する共同研究会報告書(丹波編)』京都府立京都学・歴史館、2017年。
- 3) 織豊期城郭研究会編「周山城跡」『織豊期城郭資料集成 I 織豊期城郭の瓦』、1994年。

VI 調査一覧

I 2019年 1～3月期(平成30年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡	上・西中筋町10, 11, 12	2/18・19	GL-1.6～-1.84mで褐色砂礫の地山。	18K116	HQ529	1
大蔵省跡	上・七本松通一案下る三軒町69-3	3/7	GL-0.3mまで盛上。	18K788	HQ564	1
正親司跡	上・鳳鳴町223	1/17・25	平安前期の南北溝を検出。本報告6ページ。	18K689	HQ478	1
窠松原跡	上・下長者町通六軒町西入利生町291-10	1/29	GL-0.48mで明黄褐色粘質土。	18K690	HQ502	1
窠松原跡	上・下長者町通七本松西入鳳鳴町247-45	2/19	GL-0.3mまで盛上。	18K530	HQ532	1
窠松原跡	上・六軒町通下長者下る七番町328-5	3/25	GL-0.31～-0.45mで暗褐色礫混シルトの時期不明包層。	18K822	HQ600	1
内蔵寮跡	上・下長者町通上屋町西入二本松町6-1	3/22	GL-0.5mまで盛上。	18K839	HQ591	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・松屋町通出水上る南清水町133-3, 下長者町通大宮西入東辰巳町117, 118-14	3/8	GL-0.4mまで盛上。	18K756	HQ565	1
朝堂院跡、史跡平安宮跡 内裏跡 朝堂院跡 豊楽院跡	上・千本通下立売下る小山町879-2, 中・聚楽廻東町35-1	18/10/22～ 19/3/1	GL-0.25～-0.4mでふい・黄褐色礫混シルト。	30N008	HQ348	1
内裏跡、聚楽道跡	上・下立売通智恵光院西入下丸屋町497-1	3/22	GL-0.5mまで盛上。	18K821	HQ590	1
真言院跡	上・六軒町通下立売上る長門町地先	1/16～25	GL-1.1mまで盛上。	18K507	HQ472	1
左馬寮・右馬寮跡	中・西ノ京右馬寮町	1/28, 2/15	GL-0.5～-1.5mで灰白色砂礫。	18K377	HQ494	1
豊楽院跡	中・聚楽廻西町104-3	1/17	GL-0.5mでふい・黄褐色粘質土の近世包層。-0.79～-0.87mでふい・黄褐色粘質土の近世包層。	18K669	HQ477	1
豊楽院跡、史跡平安宮跡 内裏跡 朝堂院跡 豊楽院跡	中・聚楽廻西町85-1, 85-2, 85-3, 87	1/15	GL-0.7mまで盛上。	30C109	HQ471	1
朝堂院跡、 聚楽道跡	上・竹屋町通千本東入主税町1143, 1144	2/12	GL-0.35mまで盛上。	18K445	HQ516	1
朝堂院跡、 聚楽道跡	上・主税町地内	3/10, 4/3・4	GL-0.78mで黄灰色粘質土の地山。-0.95～-1.35mで明黄褐色粘質土の地山。	18K672	HQ587	1
太政官跡、 聚楽道跡	上・竹屋町通千本東入主税町910-25	1/29	GL-0.4mまで盛上。	18K634	HQ498	1
治部省跡	中・西ノ京内畑町地先	1/28	掘削時掘削終了。	18K622	HQ495	1
治部省跡	中・西ノ京内畑町地先	2/28	GL-0.7～-1.0mで淡黄褐色砂礫の地山。	18K783	HQ551	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊四町跡	上・西堀川通中立売上る福大明神町126-1	3/22	GL-0.63mで暗褐色粘質シルト、-0.92mでふい・黄褐色礫混シルト、-1.21～-1.39mで褐色シルトの地山。	18H680	HL592	2
北辺三坊六町跡	上・中立売通烏丸西入東町475	3/19～4/4	GL-0.6～-1.2mで近世境土坑。	18H325	HL588	3

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北辺三坊七・ 八町、一条三坊 十六町跡、 公家町道跡、 内膳町道跡	上・京都御苑3	2/5・18・ 21・25	No 1 : GL-0.35mで灰黄褐色粘質土の江戸境土層を 切って上面平坦面の石(幅0.36m、高さ0.28m)、 -0.6mで灰黄褐色粘質土(炭化物多量含)、-0.95m で灰黄褐色粘質土の境土層。No 5 : GL-0.46mで 黒褐色礫混シルトの近世包含層、-0.58mで暗褐色 礫混シルトの近世包含層、-0.75~-0.85mで黒 褐色粗砂混シルトの近世包含層を切って暗褐色シル トの近世露出。No 11 : GL-0.19mで暗褐色細砂 混シルト(固く締まる)の近世以調整地層、-0.39m で褐色粗砂混砂質シルト、-0.50~-0.91mでオリ ーブ褐色砂礫の洪水層を切ってにぶい黄褐色シル トの近世土坑。	16H474	HL 512	3
一条四坊九町跡、 公家町道跡	上・京都御苑2	18/11/13~ 19/3/13	GL-0.18~-0.25mで明黄褐色色泥の近世整地層。	14H067	HL 393	3
二条三坊五町跡	中・二条通堂町西入大恩寺町243・2 244、246、衣糠通夷川下る登大恩 寺町754-1	3/12	GL-0.75mまで盛上。	18H784	HL 570	3
二条三坊十二町跡	中・烏丸通二条上る時輪屋町261-1	3/18・20・ 22	No 1 : GL-1.81mでオリーブ黒色礫混粘質シルト (木片多数含)の近世包含層、-2.19~-3.12mで 灰色粘質土(砂礫多量含)の中世包含層。No 2 : GL-1.86mで灰褐色色泥の近世包含層を切って灰 色シルトの近世以降土坑、-1.94mで褐色色泥砂 の中世包含層、-2.24~-3.58mで灰色シルトの地 山を切って黄色シルトの中世土坑(中央径10cm大 石有)。No 3 : GL-1.8mで暗褐色礫混シルトの時 期不明包含層、-2.38~-2.85mでオリーブ褐色シル トの地山を切って黒褐色礫混シルト(オリーブ 褐色シルトブロック詰)と黒褐色粗砂混シルトと 黒褐色粗砂混粘土質シルトの時期不明土坑。	18H032	HL 580	3
二条四坊五町跡	中・柳馬場通二条上る六町目274-2 他	3/29、 5/10・ 28・29、 6/7	No 1 : GL-0.79mで黒色粗砂混シルトの近世後明 包含層、-1.47~-1.72mで黒褐色粗砂混シルト(炭 含)。No 2 : GL-1.29mで灰黄褐色色砂礫、-1.82m で灰黄褐色粘質土(礫多量含む)、-2.61mで 灰黄褐色粘質土(炭化物少量含む)の時期不明包含 層、-2.84~-2.92mでにぶい黄褐色砂礫。	18H883	HL 611	3
二条四坊十一町跡、 烏丸丸太町道跡	中・柳馬場通夷川上る五町目242	2/14・15	GL-0.53mまで盛上。	18H635	HL 527	3
三条一坊一町跡	中・西ノ京北聖町51	3/18	GL-0.9mまで盛上。	18H636	HL 579	2
三条一坊六町跡	中・西ノ京池ノ内町地先	18/11/21~ 19/4/10	GL-0.6mまで盛上。	18H591	HL 405	2
三条一坊六町跡	中・西ノ京池ノ内町20-110	3/25	GL-0.61mで黒褐色粘土質シルトの近世包含層、 -1.0mで黒褐色礫混シルト、-1.31~-1.36mで石 列とオリーブ褐色砂礫の裏込。	18H709	HL 506	2
三条二坊一・八 町跡、史跡旧 二条離宮(二条城)	中・二条通堀川西入二条城町541	1/15・16	GL-0.04mでにぶい黄褐色色泥の近世以降包含層、 -0.1mで暗褐色色泥の近世整地層。	30C105	HL 476	2
三条二坊十一町跡	中・式阿弥町地内	2/25・27、 3/5	GL-0.65mでオリーブ褐色色泥砂、-0.94mで暗黄 褐色色泥砂(礫混)、-1.28mで黄灰色粘質土、-1.62~- -1.70mでにぶい黄褐色シルトの地山。	18H677	HL 541	2
三条二坊十一町跡	中・油小路通御池下る式阿弥町130	2/28、 3/4~14	GL-0.55mで灰黄褐色礫混粘質土の近世包含層、 -1.11~-1.21mで暗灰黄色粘質土の堂町包含層。	18H671	HL 552	2
三条三坊四町跡	中・三条通新町西入釜座町4、4-1	2/13	GL-1.65mで灰黄褐色色泥砂の江戸包含層、-1.77~- -2.11mで灰褐色色砂礫の中世包含層。	18H568	HL 522	3
三条三坊六町跡、 烏丸御池道跡	中・衣糠通御池下る長浜町154-1	2/25	GL-0.5mまで盛上。	18H697	HL 542	3

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
三条三坊六町跡、 烏丸御池道跡	中・衣糠通御池下る長浜町154-3、 154-4	2/25・27・ 28、3/8・ 14・15	№3：GL-2.35mで黄灰色シルトの地山を切って 黒色泥砂(準大量)の成層土坑、-2.69～-3.74m で明黄褐色シルトの地山。№4：GL-1.36mで灰 黄褐色粘質土の室町包含層を切って灰黄褐色粘質 土の江戸前期の土坑、-1.36mでにぶい黄褐色砂 礫粘質土の平安整地層、-1.87～-2.87mで明黄 褐色粘質土の地山。№5：GL-2.02～-3.42mで 明黄褐色粘質土の地山を切って暗灰黄色粘質土の 中世土坑。	18H700	HL 543	3
三条三坊六町跡、 烏丸御池道跡	中・衣糠通御池下る長浜町158	3/18・19	GL-0.25mまで盛上。	18H820	HL 584	3
三条三坊七町跡、 烏丸御池道跡、 妙覚寺城跡	中・御池通室町西人西横町179-1、 179-2、180	3/4・5・6	GL-1.37mで灰黄褐色色砂礫の中世土坑とにぶい黄 褐色色砂礫(微砂礫)と暗灰色粘土(準大量)の 中世井戸、それらに切られてにぶい黄褐色色砂 礫の中世土坑、-2.04mで明黄褐色シルトの地山、 -2.72mでにぶい黄褐色色砂礫の地山、-2.87～ -3.43mでにぶい黄褐色色砂礫の地山。	18H550	HL 556	3
三条三坊九町跡、 三条殿御池城跡	中・室町通二条下る朝葉跡町279	2/27、3/7・ 11	GL-1.35mまで盛上。	18H629	HL 549	3
四条二坊十六町 跡、本能寺城跡	中・油小路通三条下る三条油小路町 173-6、173-7、173-10	3/8・12・ 14	GL-1.21mで赤灰色砂礫の時期不明包含層、-1.36m で褐灰色シルトの地山、-1.7mで褐灰色シルトの 地山、-1.85mで灰白色シルトの地山、-2.38mで 褐灰色シルトの地山、-2.81～-2.92mまで明黄 褐色色砂礫の地山。	18H638	HL 566	4
四条三坊六町跡 四条四坊十一町跡 四条四坊十六町跡	中・室町通朝葉跡下山伏山町554 中・富小路通小路上る高宮町585 中・三条通越前町東入弁慶石町45	2/18 3/28 1/15	GL-0.65mまで盛上。 GL-0.5mまで盛上。 GL-1.01mで灰黄褐色色砂礫、-1.36mで灰黄褐色 色砂礫、-1.63～-4.95mで褐色色砂礫の地山。	18H649 18H876 17H769	HL 530 HL 606 HL 466	5 5 5
五条一坊一町跡 五条三坊一町跡	中・壬生郷ノ宮町118-2地先 下・妙伝寺町710、701-1、712、 714、716、矢野町110-1、112-1、 新釜津町736-1、736-2、739-1、 739-2	1/7・8 3/5・7	GL-0.9mまで盛上。 GL-1.3mまで盛上。	18H212 18H065	HL 454 HL 560	5 5
五条四坊五町跡、 烏丸城小路道跡	下・泉正寺町465-1	2/7	GL-1.8mまで盛上。	18H487	HL 514	5
五条四坊十二町跡	下・富小路通高辻下る恵美筑屋町 192-1、192-2	2/12・21	GL-0.4mまで盛上。	18H574	HL 518	5
五条四坊十三町跡	下・榎屋町473-2、石不動之町 692-6	1/30・31、 2/5	GL-0.63mで暗灰黄色色砂礫、-0.77mで黄褐色砂 礫、-0.95～-1.95mで黄灰色色砂礫(粘性有、炭化 物を含む)の室町～江戸前半包含層。	18H678	HL 503	5
六条三坊四町跡 六条三坊十町跡 烏丸城小路道跡	下・新町通楊梅下る鯉子町123-2 下・万寿寺通烏丸東入大塚町500、 東御院通松原下る大江町560	1/28 1/7	GL-1.2mまで盛上。 GL-0.4mまで盛上。	18H693 18H667	HL 496 HL 455	5 5
六条四坊三町跡	下・間之町通五条下る大津町13、 224、東御院通五条下る福島町524	3/13・14	GL-1.95mまで盛上。	18H710	HL 573	5
六条四坊九町跡	下・松原通富小路東入松原中之町 501	3/18	GL-1.42mでにぶい黄褐色粘質土の時期不明包含 層、-1.88～-2.29mでにぶい黄褐色色砂礫の地山。	18H758	HL 581	5
七条二坊二・ 三・六・七・十・ 十一・十二町跡、 史跡本願寺境内、 名勝讚皇園	下・堀川通花屋町下る門前町60	18/9/26～ 19/11/6	GL-0.2mまで盛上。	30N029	HL 304	6
七条二坊二町跡、 東市路	下・堀川通花屋町下る門前町60	2/12	GL-0.16mまで盛上。	18H764	HL 517	6
七条二坊三町跡、 史跡本願寺境内	下・堀川通花屋町下る門前町60	18/9/26～ 19/11/6	GL-0.42～-0.64mで黒褐色泥砂(炭質)の時期不明 包含層。	30N030	HL 305	6
七条二坊十五・ 十六町跡	下・東中筋通六条下る学林町294	3/4・8、 4/10	GL-0.5mまで盛上。	18H727	HL 557	6
七条三坊四町跡	下・北小路通新町西入井筒町651-2	2/4	GL-0.44mで黄灰色粘質土、-1.06mで浅黄色細 砂の地山。	18H728	HL 507	7

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
七条四坊二・三・四町跡	下・花屋町319～林木町499 地先	18/12/13～19/6/13	GL-0.3mで黒褐色礫混シルト、-0.8～-1.1mでオリーブ褐色砂礫。	18H670	HL 439	7
七条四坊十二町跡	下・西高瀬川筋正面下る八王子町102.6, 102.7, 117の一部, 118, 119, 120-14	1/11, 2/12・21	GL-0.9mまで盛上。	18H479	HL 464	7
八条二坊三町跡	下・大宮通八条上る三丁目東側垣ケ内町248	18/12/12～19/4/10	GL-0.7mまで盛上。	18H379	HL 437	6
八条二坊八町跡	下・堀川通下色ノ榎下る榎垣町379, 381, 383	1/22・25	GL-1.44～-1.48mで暗灰黄色砂泥の中世包含層。	18H348	HL 487	6
八条二坊八町跡	下・東堀川通下る鎌屋町1-1, 1-2, 1-3	3/27・28, 4/1・2・15	GL-1.69mで灰オリーブ色シルトを切つて灰色シルトの近世溝(底面に石敷, 礫に石)、-1.78mで浅黄色細砂礫の地山。	18H794	HL 602	6
八条二坊九町跡	下・鎌屋町3, 4, 5, 6	3/14・15・19	№2: GL-2.05mで暗灰黄色粘質土の空町包含層、-2.34mで浅黄色細砂の古墳河川堆積、-2.53mで明黄褐色砂礫の地山。 №3: GL-1.68mで黒褐色粘質土、-1.75mで灰黄粘質シルト、-1.92mで暗灰黄色粘質土の空町包含層、-2.15～-2.28mで明黄褐色砂礫の地山。 №4: GL-1.38mで黒褐色粘質土、-1.63mで黒褐色礫混粘質土の中世包含層、-1.98～-3.31mで灰黄粘質砂礫の地山を切つて黒褐色礫混粘質土(砂礫多量)の中世土坑。 №5: GL-0.72mで褐灰色粘質土の中世包含層、-1.0～-1.51mで黒褐色粘質シルト。	18H655	HL 574	6
八条二坊十四町跡	下・油小路通堀小路下る東油小路町552-10	1/25	GL-0.65mまで盛上。	18H535	HL 492	6
八条二坊十五町跡	下・木津屋橋通油小路東入南町505	2/1・5	GL-1.02mで黄灰色泥砂、-1.11～-1.16mで暗灰黄色砂泥。	18H630	HL 505	6
八条四坊二町跡、堀小路若山城跡	下・東御院通七条下る二丁目東堀小路町684-4, 556-4	1/15・21・22・25, 2/1	№2: GL-0.48mで黒褐色砂質シルトの近代耕作土、-0.62mで暗オリーブ褐色砂礫～シルト、-0.76mでオリーブ褐色細砂を切つて暗オリーブ褐色粗砂～シルトの時期不明ピット、-1.14～-2.12mでオリーブ褐色砂礫の流路堆積。 №3: GL-0.52mで黒褐色泥砂、-0.59m～-0.75mで黄褐色粗砂の地山。	18H546	HL 467	7
八条四坊八町跡、御上屋跡	下・郷之町 地内	18/12/17, 19/5/10	GL-1.1mまで盛上。	18H460	HL 443	7
九条一坊九町跡、教王護国寺社境内	南・東寺町595 地内	1/24	GL-0.45mでオリーブ黒色粗砂混粘土質シルトの近世包含層、-1.05～-1.35mでオリーブ黒色粗砂混シルト。	18H606	HL 490	6
九条二坊十四町跡、烏丸町道跡	南・西九条春日町48-2	2/25・26・27, 3/1	№2: GL-0.6mで黒褐色泥砂(炭化物含)、-0.7mで暗灰黄色泥砂を切つて黄灰色泥砂の平安末～鎌倉土坑、-0.85mで灰黄色細砂の地山を切つて黄灰色粘質土の時期不明土坑、-0.96～-2.25mで暗灰黄色砂礫の地山。 №3: GL-0.52mで暗灰黄色泥砂(炭化物含)、-0.75mで暗灰黄色砂礫を切つてに灰黄色微砂の鎌倉土坑、-1.50mで褐色砂礫、-1.88～-2.28mで明黄褐色砂礫。	18H736	HL 544	6
九条三坊九町跡、烏丸町道跡	南・東九条上殿田町42他	1/15・17	GL-0.43mで粗耕作土、-0.54～-1.79mで灰白色砂礫。	16H697	HL 468	7
九条四坊五町跡	南・東九条上御堂町48-1, 52, 54	1/21・22, 2/18・27	GL-0.7mでオリーブ褐色粗砂混粘土質シルトの近世包含層、-0.9mで暗灰黄色粗砂混粘土質シルトの時期不明包含層、-1.05mで暗褐色粘土質シルトを切つて暗灰黄色シルトの時期不明ピット、-1.35mオリーブ褐色微砂混シルト、-1.8～-2.2mで灰オリーブ色微砂～シルトの地山。	18H553	HL 485	7

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
九条四坊十二町跡、 烏丸町道跡、 九条河原城跡	南・東九条河西町4、5、21-2	18/11/21、 12/3、 19/1/4・ 9・16	№2：GL-0.3mで旧耕作上、-0.5mで暗灰黄色粗砂混シルト(礫、炭化物含)の時期不明包含層、-0.75mで暗灰黄色シルト(礫部)の中世後期包含層、-1.1～-2.0mでオリブ褐色砂礫。№3：GL-0.3mで暗オリブ褐色細砂混シルトの古墳包含層、-0.42mでふい、黄褐色砂礫の流路堆積、-0.85～-1.94mで褐色砂礫の流路堆積。	18H330	HL 406	7

平安京右京(HR)

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
一条三坊二町跡	中・西ノ京御興町9-6 他6筆	3/27、8/5・ 6・8・13・ 21、9/3	№1：GL-0.56mで黒褐色粘土質シルトの近世後期以降包含層、-0.84～-1.53mでふい、黄色砂礫の地山。№4：GL-0.45mで灰黄褐色泥砂の旧耕作上、-0.75～-1.75mで灰黄色砂礫の地山を切って黒褐色シルトの時期不明露出。	18H858	HR 603	8
一条三坊十一町跡	中・西ノ京馬代町10-5	1/24、2/5	GL-0.43mで暗褐色細砂混シルト(炭化物含)の時期不明包含層、-0.56～-0.64mで黒褐色細砂混シルト(炭化物含)。	18H453	HR 491	8
二条四坊三・ 四・五・六・ 十一・十四町、 三条四坊一町跡、 安井馬塚古墳群	右・太秦安井辻ノ内町～太秦安井馬塚町地内	2/13～11/8	№4：GL-0.85～-1.0mで浅黄色シルトの地山。 №5：GL-0.9～-1.2mで灰黄褐色砂礫の地山。	18H615	HR 523	8
三条一坊一町跡、 壬生道跡	中・西ノ京皇池町221	2/22	GL-0.7mまで盛上。	18H721	HR 538	9
四條一坊五町跡 四條二坊三町跡、 壬生道跡	中・壬生花井町3地先 中・壬生東園田町8-2	1/15 2/22	GL-0.55mまで盛上。 GL-0.6mまで盛上。	18H211 18H726	HR 469 HR 539	11 11
四條四坊三町跡、 山ノ内道跡	右・山ノ内瀬戸畑町30-1の一部、 31-2の一部、31-1の一部	3/1	GL-0.24～-0.38mで黒褐色泥砂の時期不明包含層。	18H809	HR 554	10
五條三坊十三町跡、 西京極道跡	右・西院清水町16	2/4・5	GL-0.95mまで盛上。	18H749	HR 506	10
六條三坊二町跡、 西院道跡	右・西院寿町1-4、1-5、1-8	2/26・28	GL-0.84～-1.09mで明黄褐色シルトの地山。	18H732	HR 547	10
六條三坊十一町跡	右・西院西溝崎町1、2、3、13	2/22・26	平安前期の恵止小路東側溝を検出。本報告13ページ。	18H290	HR 537	10
六條四坊二町跡、 西京極道跡	右・西院清水町154-3	3/18	GL-0.4mまで盛上。	18H735	HR 583	10
六條四坊六町跡	右・西京極東大丸町20-1、20-2	3/13	GL-0.98mで褐色砂礫、-1.26～-1.81mで灰黄色砂礫の地山。	18H639	HR 571	10
六條四坊八町跡、 西京極道跡	右・西院月双町57、58-1	1/30、2/5	GL-0.96mで黄褐色泥砂、-1.11mで浅黄色シルト、-1.35～-1.83mでふい、黄褐色粘質土。	18H421	HR 499	10
六條四坊十六町跡	右・西京極葛野町～西院月双町地先	2/26～11/8	GL-0.35mで旧耕作上、-0.68mで明黄褐色シルトの地山、-0.85～-1.15mで浅黄色シルト(微砂部)の地山。	18H763	HR 548	10
七條一坊十二町跡	下・西七條北東町90他4筆	2/28、3/5、 4/3・4	GL-0.58mでふい、黄褐色粘質土の時期不明包含層、-0.72mで明黄褐色シルトの地山、-1.01～-1.63mでふい、黄褐色砂礫の地山。	18H491	HR 553	13
七條四坊二・ 六・七町跡	右・西京極北東町～西京極町ノ坪町地先	3/28、4/2・ 4・9・11・ 12	№1：GL-0.4mで暗オリブ色シルト、-0.47mでオリブ黒色粗砂混シルト、-0.55～-0.7mで黄褐色シルトの地山。№2：GL-0.35mで明黄褐色泥砂粘質土の時期不明包含層、-0.7mで明黄褐色砂礫の地山。	18H844	HR 607	12
九條三坊二町跡 九條三坊九町跡	南・吉祥院西ノ庄猪之馬場町1、2 南・吉祥院西ノ庄西中町地内	1/10 18/10/29～ 19/4/10	GL-1.0mまで盛上。 GL-0.6mで明黄褐色シルト、-1.5～-1.7mで暗灰黄色砂礫。	18H683 18H240	HR 463 HR 364	12 12

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
九条四坊十町跡	南・吉祥院大河原町27地先	1/8・9	GL-0.25mで暗灰黄色シルト、-0.35mでオリブ褐色礫混シルト、-0.45mでオリブ褐色礫混シルト、-0.7～-0.9mで褐色細砂。	18H247	HR456	12
九条四坊十、十一、十四・十五町跡	南・吉祥院内河原町12.1	1/22, 2/5	GL-0.73mでオリブ褐色粘土質シルトの近世以降包含層、-0.85mでオリブ褐色粘砂混粘土質シルトの近世以降包含層、-1.07～-2.2mで褐色砂礫の地山。	18H560	HR488	12

太秦地区(UZ)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
嵯峨道跡	右・嵯峨二尊院門前北中院町2-9	2/20, 3/19, 9/9, 12/10	GL-1.14mでふい黄褐色粘質土の中世包含層、-1.44～-2.64mで明黄褐色粘質シルト(固く締まる)の地山。	17S437	UZ534	24-2
嵯峨道跡、嵯峨新戸町道跡	右・嵯峨天童寺瀬戸川町～嵯峨新宮町地内	18/6/11～19/6/21	GL-0.75mで灰白色シルトのII期耕作土、-1.05mで灰オリブ色粗砂礫混の河川堆積、-1.2～-1.6mで黄色シルトの地山。	18S002	UZ119	24-2
嵯峨新戸町道跡	右・嵯峨天童寺権野町12の一部	1/21	GL-0.3～-0.36mで明黄褐色シルトの地山。	18S549	UZ484	24-2
梅津坂本町道跡	右・嵯峨野芝野町24-1の一部、25-1の一部、44-1の一部	2/15	GL-0.35mで明黄褐色砂礫、-0.48～-0.67mで灰白色粗砂。	18S478	UZ528	22
太秦馬塚町道跡	右・太秦中筋町12-8, 12-9	18/9/11・12, 11/14, 19/6/10～19, 7/12, 8/14, 11/8	№2: GL-0.42mで黒褐色砂質土、-0.65～-2.18mで明黄褐色砂礫の地山を切つて黒色細砂の時期不明土坑。№4: GL-0.32mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層、-0.56～-0.86mで灰白色砂礫の地山を切つて黒色泥砂の時期不明土坑。	18S337	UZ279	22
西野町道跡	右・嵯峨野千代ノ道町53地内	3/18・25	GL-0.73mで暗灰黄色シルトの時期不明包含層、-0.9mでオリブ褐色シルトの時期不明包含層、-1.0～-1.1mで褐色シルト。	18S837	UZ585	22
仁和寺院家跡	右・常盤古御所町2の一部他17筆	2/12・14	GL-0.15mで時期不明包含層、-0.4～-0.7mで黄色泥砂の地山。	16S594	UZ519	22
仁和寺院家跡、常盤仲之町道跡、草木町道跡	右・常盤馬塚町～鴨滝中道町地先	18/6/18～19/5/9	GL-0.56mで黄褐色泥砂、-0.65m～-0.95mで黄褐色泥砂の地山。	18S159	UZ143	22

洛北地区(RH)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
花脊経塚群	左・花脊別所町	1/15, 9/17	大正時代に発掘された経塚群の道跡の範囲確認。 本報告17ページ。	18A008	RH504	27-2
鞍馬山経塚群	左・鞍馬瓦船町5-1	3/18・22	GL-0.1～-1.22mで別層。	18S665	RH578	27-3
鎮守庵瓦窯跡	北・西賀茂北鎮守能町135	3/18	GL-0.33mで明黄褐色粘質土の地山、-0.53～-0.86mで黄色砂礫混粘質土の地山。	18S178	RH582	16-1
大宮北山ノ前五窓跡	北・大宮北山ノ前町26-2	3/28	GL-0.3mまで盛上。	18S818	RH608	16-1
植物園北道跡	北・上賀茂岡本口町47の一部、36の一部	2/25・26	GL-0.5mまで盛上。	18S759	RH545	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂草町69	3/5	遺跡の時期が終了。	18S442	RH563	25-1
植物園北道跡	左・下鴨北野々神町33-3, 33-1の一部	18/1/18～19/1/11	弥生後期の型穴遺物群を検出。 本報告22ページ。	18S434	RH386	25-1
植物園北道跡	左・下鴨神姫町17, 17-8, 17-12	2/22・27	GL-0.25mで褐色礫混シルト、-0.63～-1.41mでオリブ褐色砂礫(シルト混)の地山。	18S704	RH540	25-1
史跡賀茂新祖神社境内	左・下鴨泉川町59	3/22, 5/28	掘削工事は表土内におさまる。	30N094	RH577	17-2

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
御土居跡	北・紫竹上堀川町	18/12/3、 19/1/4・ 23、2/5	GL-0.53mで暗オリーブ褐色礫混シルト、-0.63mで暗オリーブ褐色粗粒混シルトの時期不明包含層、-0.88mでオリーブ褐色粗粒混じりシルト、-1.3～-1.6mでオリーブ褐色砂礫～礫混シルト。	18S522	RH 419	17-1
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町26-56	1/16	GL-0.19mで褐色微砂混シルト、-0.31～-0.49mで褐色微砂粘土質シルトの地山。	18S646	RH 473	16-3
上京道跡	上・烏丸通鞍馬口下る東入上御堂中町459-6	3/22	GL-1.3mまで盛上。	18S350	RH 594	17-3
上京道跡	上・今出川通室町西入堀出町288-52	18/12/17・ 18・19・ 20、 19/1/7・ 8・9	GL-0.84mで黄褐色シルトの上層、-0.91mで黒褐色泥砂を切って暗褐色泥砂の時期不明土坑、-1.04mで黒褐色砂泥(礫跡を切って暗褐色砂泥(地山ブロック少量含)の時期不明土坑、-1.19mで明黄褐色砂礫の地山を室町筋迄、埋土は黒褐色泥砂と黄褐色系の泥砂と砂礫が傾斜を持って互層に堆積、-2.24mで明黄褐色シルトの地山。	18S497	RH 444	17-3
大報恩寺境内	上・柏清盛町～毘沙門町 地内	18/5/16～ 19/4/3	GL-0.75～-1.05mで黄褐色シルトの地山。	17S824	RH 084	16-3
北野道跡	北・北野紅梅町12	3/5	GL-0.33～-0.6mで褐色シルトの地山。	18S703	RH 561	16-3
北野廃寺、 北野道跡	北・小松原南町43	3/8	GL-0.7mまで盛上。	18S742	RH 567	16-3
北野廃寺、 北野道跡	北・北野下白梅町60-1	18/8/9、 19/6/3	GL-0.2mで暗褐色泥砂、-0.44～-0.82mで黒褐色泥砂の古代包含層。発掘調査に伴う事前調査。	18S328	RH 228	16-3
北野廃寺、 北野道跡	北・北野下白梅町56	2/12	GL-1.04mでオリーブ黒色泥砂の時期不明包含層。	18S007	RH 520	16-3

北白川地区(KS)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
小倉町筋当町道跡	左・北白川南当町70	18/8/13～ 19/4/10	GL-0.21～-0.31mで暗褐色粗砂。	17S670	KS 230	23
白河北殿跡、 白河街区跡	左・東丸太町21、21-3	1/9	GL-0.29mで黒褐色礫混シルトの近世以降包含層、-0.51mでオリーブ褐色礫混シルトの室町包含層、0.7～-1.46mで黄褐色砂礫の地山。	17S378	KS 460	23
白河街区跡、 岡崎道跡	左・岡崎地成町18-10	18/12/3、 19/1/4・15	GL-0.29mで黒色泥砂の近世包含層、-0.45～-0.63mでオリーブ黒色泥砂の近世包含層。	18S552	KS 420	23
白河街区跡、 岡崎道跡	左・岡崎円勝寺町23-1	2/8	GL-0.63mまで盛上。	18S625	KS 515	23
白河街区跡、 岡崎道跡	左・岡崎天王町51-3 地先	1/29	GL-0.65～-0.83mで黄褐色泥砂。	18S501	KS 500	23
史跡南禅寺境内	左・南禅寺草川町88	3/18	GL-0.15mでふい黄色砂質土の近代以降包含層、-0.18mでふい黄色粗砂の近代以降包含層、-0.25mで暗灰黄色砂礫の近世路面整地層、-0.35mで黄灰色粗砂の近世路面整地層、-0.42～-0.58mで黒褐色砂質土の近世路面整地層。	30N090	KS 576	23

洛東地区(RT)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
寺町田城	中・新堀木町通二条上る角倉町220、 222-1	1/21・30	GL-1.7mまで盛上。	18S685	RT 482	27-8
六波羅政庁跡	東・建仁寺通五条下る二丁目上棟梁町109、110	1/15	GL-1.0mでふい黄褐色粗砂の時期不明整地層。	18S603	RT 470	21

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
六波羅政庁跡	東・本町四丁目139	2/21	CL-1.49mでオリープ褐色粗砂混シルトの近世包含層を切って黒褐色粗砂混シルト(假説)の近世後期土坑(陶磁器)・-1.7~-1.8mで暗灰黄色シルトの近世包含層。	185539	RT 536	21
六波羅政庁跡	東・大和入路通五条上(山崎町)343、344	1/18・21・22・25	No 1 : GL-1.93mで黄灰色砂質土(固く締まる)の中世包含層。-2.16~-2.22mで黄褐色細砂。No 2 : GL-0.87mで黒褐色粗砂混シルトの近世以降包含層。-0.95mで暗灰黄色細砂混シルトの時期不明包含層を切って黒褐色粗砂混シルトのピット。-1.19mで黄灰色細砂混シルト。-1.3m黒褐色礫混シルトの時期不明包含層。-1.48~-3.02mまで黄褐色礫の流路堆積。	185028	RT 474	21
法住寺殿跡	東・今熊野池田町12	3/22	GL-1.77mまで盛上。	16S644	RT 593	21
法住寺殿跡	東・東大路通七条下(東辰町)964	3/25~6/29	CL-3.5mまで盛上。	17S574	RT 597	21
本多山古墳群、鳥部(辺)野	東・今熊野泉山町	2/21・25、3/5	CL-0.11~-0.87mで褐色シルトの地山。	18S398	RT 535	28.3
法性寺跡	東・本町十六丁目292	18/6/6~19/12/5	工事未着工。	18S036	RT 113	28.2
安祥寺下寺跡	山・御陵平林町1-49	3/27	CL-0.47~-0.95mで褐色泥砂の地山。	18S268	RT 605	28.5
安祥寺下寺跡	山・御陵平林町1-49	3/27、4/26	GL-0.47mで黄褐色粘質土の地山。-1.57~-2.55mで明黄褐色砂(粘性)の地山。	18S267	RT 604	28.5
中 臣 道 跡	山・東野舞台町48-16	2/4~8	CL-0.2mまで盛上。	18N745	RT 508	25.2
中 臣 道 跡	山・東野舞台町48-3、48-18、47-12	3/25	CL-0.3mまで盛上。	18N810	RT 598	25.2
中 臣 道 跡	山・東野舞台町47-7	3/13	GL-0.15mまで盛上。	18N828	RT 572	25.2
中 臣 道 跡	山・東野舞台町48-7	2/6	CL-0.3mまで盛上。	18N744	RT 513	25.2
中 臣 道 跡	山・東野舞台町54-5	2/13	CL-0.2mまで盛上。	18N623	RT 524	25.2
中 臣 道 跡	山・東野舞台町48-13	1/21	CL-0.15mまで盛上。	18N730	RT 483	25.2
中 臣 道 跡	山・東野森野町45-1	3/20・25	GL-0.4mで暗オリープ褐色シルト。-0.6~-0.75mでオリープ褐色粘土質シルトの地山を切って黒褐色粘土質シルト(オリープ褐色粘土質シルトのブロック状)のピットとオリープ褐色粘土質シルトの土坑。	18N085	RT 589	25.2
中 臣 道 跡	山・柳辻番所ヶ口町44-9	1/10	CL-0.4mまで盛上。	18N663	RT 461	25.2
中 臣 道 跡	山・柳辻番所ヶ口町地先	3/5	GL-1.4mで黄褐色粘土の地山。	18N800	RT 562	25.2
中 臣 道 跡	山・勤修寺東金ヶ崎町101	2/27	CL-0.15mまで盛上。	18N773	RT 550	25.2
中 臣 道 跡	山・勤修寺東金ヶ崎町43、44、48、49	1/8、2/27	CL-0.1mまで盛上。	18N620	RT 457	25.2
中 臣 道 跡	山・勤修寺東金ヶ崎町地先	1/8	CL-1.3mまで盛上。	18N624	RT 458	25.2

伏見・醍醐地区(FD)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
伏 見 城 跡	伏・京町南八丁目106	3/4	GL-2.07mで褐色泥砂(黄褐色粗砂ブロック状)の伏見城跡造成上。	18F737	FD 558	14
伏 見 城 跡	伏・京町六丁目57-1、58-1	2/13・18・25・26・27	CL-0.2mで褐色砂(炭化物)を切ってにぶい黄褐色泥砂の江戸後期土坑。-0.28mでにぶい黄褐色泥砂の時期不明包含層を切って灰褐色泥砂の近世土坑(炭化物、炭上層)。-0.36~-0.88mで明黄褐色粘土礫の地山。	18F662	FD 525	14
伏 見 城 跡	伏・桃山御旅長吉中町51	1/25	CL-0.25mでオリープ褐色泥砂。-0.34~-0.52mで黄褐色泥砂の近世造成上。	18F315	FD 493	14
伏 見 城 跡	伏・魚屋町558-1、561-1の一部、京町三丁目194-1、196-1の各一部	18/12/11・12・14・21、19/1/8	No 2 : GL-0.8mでにぶい黄褐色砂。-0.96mで黄褐色泥砂。-1.21~-1.44mでにぶい黄褐色シルトの時期不明包含層。No 3 : GL-0.7~-0.9mで黄褐色砂礫の地山を切って暗灰色シルトの時期不明土坑。	18F161	FD 435	14
伏 見 城 跡	伏・西奉行前町、奉行前町、京町一丁目、京町二丁目、橋殿町	18/7/25~19/5/9	CL-2.5mまで盛上。	17F811	FD 202	14

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山町古城山	3/1	GL-0.08mで明黄褐色砂礫(礫)の伏見城期造成土。	18F751	FD 555	15
伏見城跡	伏・桃山町下野26-15	3/22・25・26	GL-0.18mで褐色砂礫(黒褐色シルトブロック)の時期不明整地層、-0.51~-0.84mでふい黄色微砂~粘土の地山。	18F740	FD 595	15
伏見城跡	伏・桃山町本多上野地内	2/4・7	GL-2.1~-3.3mでふい黄褐色粘質土の時期不明造成土。	18F171	FD 510	15
伏見城跡	伏・桃山町奈良長老143	1/10	GL-0.6mまで盛土。	18F642	FD 462	15
伏見城跡、 伏見城跡、 金森出雲道跡	伏・観音寺町200-1、桃山町立売57-8	3/25	GL-0.4mまで盛土。	18F782	FD 599	14
伏見城跡、 御香宮院寺	伏・御香宮門前町173	3/29	GL-0.92mで褐色粗砂混シルトの江戸包含層、-1.37mで黄褐色礫混シルトの江戸包含層、-1.59mでふい黄褐色粗砂混シルト(固く締まる)の時期不明整地層。	18F885	FD 610	14・15
伏見城跡、 桃山古墳群 (永井久太郎古墳)	伏・桃山町永井久太郎~桃山町三河、 平戸町地内	2/4, 4/10・ 11・12、 7/2・4・5・ 8・10・12・ 17・18・ 23・25、 8/2・6・ 13・28、 9/3・20・ 25・30、 10/17・ 25・31、 11/6・12	No 4 ; GL-0.43mで褐色泥砂(礫)、-0.6mで浅黄褐色粗砂、-0.63mで褐色粘質土(炭灰)の近世以降包含層、-0.7mで黄褐色泥砂、-0.93mで褐色泥砂(上面に粗砂層)の近世以降路面、-1.06~-1.38mで褐色粘質土の近世以降包含層、No 5 ; GL-0.25mで明褐色粘質土の伏見城期造成土、-0.46mで褐色粘質土(上面に淡黄色細砂)、-0.63mで褐色粘質土(上面と下面に淡黄色細砂)、-0.79mで褐色砂礫の地山、-0.89~-1.53mで褐色粘質シルトの地山、No 10 ; GL-1.0~-1.4mで明黄褐色砂礫、No 13 ; GL-0.7mで黄褐色砂礫(締まり良)の伏見城期整地層、-0.95~-1.4mで明黄褐色粘土の地山。	18F614	FD 509	14・15
伏見城跡、 指月城跡	伏・桃山町奈良長老179	18/10/9~ 19/2/1	GL-0.6mで明黄褐色砂礫の伏見城期造成土。	18F288	FD 322	14・15
伏見城跡、 指月城跡	伏・桃山町奈良長老179	1/21, 2/19	GL-0.6~-0.75mで褐色泥砂(礫)の伏見城期造成土。	18F618	FD 486	14・15

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・唐橋川久保町34-2	1/29, 2/12・20	GL-0.24mでふい黄褐色粗砂、-0.42~-0.85mで黄灰色粘質土。	18S666	TB 501	29-2
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町116-4	2/25~27	GL-0.6mまで盛土。	18T774	TB 546	24-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町51	1/11	GL-0.3mまで盛土。	18T593	TB 465	24-1
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・中島宮ノ前町3-1	1/17	GL-0.76~-0.96mで旧耕作土。	18T076	TB 479	24-1
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽東岸川町39, 40	3/29	GL-0.5mまで盛土。	18S864	TB 609	14・24-1
淀城跡	伏・淀新町地先	1/22, 4/10	GL-1.4~-2.0mで黄褐色細砂~シルト。	18S731	TB 489	20
淀城跡	伏・淀下津町185-8	1/28	GL-0.2mまで盛土。	18S607	TB 497	20
淀城跡	伏・淀下津町96	2/12	GL-0.6mまで盛土。	18S688	TB 521	20

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京二条四坊五・十二町、三条四坊十六町跡	伏・久我西出町 地内	18/1/5・6、12/3・10・12・14・18・19・20・21、19/1/7・9・22、2/5	№7：GL-0.6mで旧耕作上、-1.07mで灰黄褐色シルトの時期不明包含層、-1.25mで明黄褐色シルトの地山を切って灰白色シルトの時期不明土坑。 №8：GL-0.65mで灰黄褐色粘土質シルトの旧耕作上、-0.85mで灰黄褐色粗砂混粘土質シルト、-1.05mで黄灰色粘土質シルトの長岡京期包含層、-1.25mで青灰色粘土質シルト、-1.4mで青灰色粘土質シルトブロックと灰色粘土質シルトブロックの混含層、-1.48mで灰色粘土質シルト、-1.88mで黒褐色細砂混シルト(植物遺体含)の半生湿地状堆積、-2.05～-2.25mで青灰色粘土質シルトの地山。	18NG347	NG 353	19
左京二条四坊五・十二町跡	伏・久我西出町1-6、1-45、1-46、1-47	3/8・11	GL-0.38mで灰色泥砂、-0.48mで灰色シルト、0.81～-0.9mで明黄褐色シルトの地山。	18NG608	NG 568	19
左京四条三坊十町跡、羽東師薬川城跡	伏・羽東師薬川町43-5	3/26	GL-0.3mまで盛土。	18NG851	NG 601	19
左京八条三坊十町跡、浚水重大下津町遺跡	伏・浚水垂町	1/16・28、2/14	GL-3.99mで暗緑灰色粘土(木質詞)の湿地状堆積、-4.2mで緑灰色粘質土(細砂混)の湿地状堆積、-4.52～-4.7mでオリブ灰色粘質土の湿地状堆積。	18NG609	NG 475	20
左京九条三坊五・十二町跡、浚城跡	伏・浚水町225	2/18・20	2018年発掘調査で抽出された浚城石垣の延長部を検出。本報告32ページ。	17NG294	NG 531	20
左京九条三坊十二町跡、浚城跡	伏・浚水町173-27	3/11	GL-0.48mまで盛土。	18NG791	NG 569	20
左京九条三坊十六町跡、旧浚城跡	伏・納所北城廻6	3/19	GL-0.75mまで盛土。	18NG686	NC 586	20
左京九条四坊二・七町跡	伏・納所屋柳池 地内	2/4・7・13・18	GL-1.32mで灰オリブ色微砂～シルトの流水堆積、-1.54mで灰色粗砂混粘土～粘土質シルト、-2.05mでオリブ黒色細砂混粘土質シルト～粘土、-2.5～-2.87mで灰色粘土～粘土質シルトの地山。	18NG222	NG 511	20

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西・嵐山上海道町1-10、1-11	2/19	GL-0.7mまで盛土。	30N087	MK533	26-2
上ノ山古墳	西・松尾上ノ山町10-1、山田屋室町13-9	2/26、7/8	地形測量及び踏査。本報告34ページ。	18A009	MK575	29-5
浄住寺(谷之堂)跡	西・山田南町27-3の一部、27-2	1/17～31	GL-0.53～-0.68mで明黄褐色粘質土(礫混)。	18S695	MK480	29-5
櫻原廃寺、櫻原遺跡	西・櫻原谷町～櫻原前田町 地内	1/8～22、2/5・13、3/1・6、4/3～25、5/9	№1：GL-1.2～-1.6mで暗オリブ灰色シルト。 №2：GL-0.25mで旧耕作上、-0.5mで明緑灰色シルト、-0.57～-0.62mで濃い黄色砂礫。№8：GL-0.55mで明青灰色粗砂の地山、-0.75mで明黄褐色粘土の地山、-0.85mでオリブ褐色粘土の地山、-1.10～-1.35mで明黄褐色粘土の地山。	18S641	MK459	29-4
中久世遺跡	南・久世中久世町三丁目51-1、51-2、51-3、51-4、51-5、52-1、52-2、56	1/18、9/12	GL-0.67～-0.85mで黄褐色砂礫の地山。	18S455	MK481	18-3

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
しが田古墳群	右・京北下河内町伏間谷38-1 地内	2/15	巡回時掘削終了。	18S588	UK 526	29-7
周山古墳群	右・京北周山町中山39-4(周山中学校敷地)他	3/4	遺構の保存状況を確認。	16S689	UK 559	29-8

II 2019年 4～12月期(平成31・令和元年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
漆室・正親司跡 漆室跡	上・御前通一条下る東聖町132-1	7/9・25	GL-0.5mまで盛上。	19K171	HQ170	1
	上・御前通一条下る東聖町132-1 地内	7/1・2・ 24・25・ 29, 8/7・21	GL-0.33mで黒褐色泥砂(礫、炭屑)、-0.51mで黒褐色シルト、-0.71mで暗褐色砂礫、-1.33～-1.5mで明黄褐色シルトの地山。	19K122	HQ148	1
大蔵省跡	上・上長者町通千木東入北側信濃町471-2	5/31	GL-0.3mまで盛上。	19K164	HQ084	1
大蔵省跡	上・西富仲町470-14	6/5	GL-1.0mで暗褐色礫混シルト(炭、焼土含)、-1.26～-1.59mで黄褐色礫混シルトの地山。	19K132	HQ095	1
茶園跡、聚楽第跡	上・一条通松屋町西入鏡石町13、13-1、13-2	10/7・9・ 17	No1：GL-0.6mで黒褐色礫混シルトを切ってオリブ褐色粗砂混シルトと暗オリブ褐色礫混シルトの近世後期土坑、それを切って暗褐色礫混シルト(焼土、拳大礫含む)の土坑、-0.83mで褐色粗砂混シルトの時期不明整地層、-0.95mで暗灰黄色礫混シルト(炭屑)、-1.21～-1.43mでオリブ褐色粗砂混シルトを抽出、No2；GL-1.2～-1.53mで褐色礫混シルトの地山。	19K374	HQ335	1
正親司・大蔵行跡	上・下ノ森通仁和寺街道下る鳳瑞町地先	7/22・25・ 29	GL-0.18～-0.9mで黄褐色粘質土(微砂混)の地山。	18K796	HQ193	1
正親司跡	上・仁和寺街道御前東入鳳瑞町222-4の一部	8/19・20・ 21	GL-1.3mまで盛上。	19K225	HQ237	1
右近衛府跡 図書寮跡	上・下長者町通御前東入三助町地先	6/13	GL-0.5mまで盛上。	19K151	HQ113	1
	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町237-4の一部	12/2	GL-0.3mまで盛上。	19K573	HQ444	1
寛松原跡 寛松原跡、 鳳瑞道跡	中・聚楽廻西町166-2、166-3	12/9	GL-0.35mまで盛上。	19K449	HQ458	1
	上・下立売通七本松西入西東町366-2の一部	12/12	GL-0.1mまで盛上。	19K320	HQ469	1
寛松原跡、 鳳瑞道跡	上・下立売通七本松西入西東町366-2の一部	12/12	GL-0.2mまで盛上。	19K327	HQ470	1
寛松原跡、 鳳瑞道跡	中・聚楽廻西町172-2、172-3、175-2	10/11	GL-0.27～-0.37mで明黄褐色シルトの地山。	19K421	HQ347	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・下長者町通大宮西入東辰巳町125	6/4	GL-0.29mで黒褐色粗砂混シルト、-0.5mで褐色細砂混シルトの時期不明包合層。	18K829	HQ087	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・南清水町129-3～133-7地先	7/19・22・ 23・25	GL-0.55mまで盛上。	19K244	HQ188	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・須浜東町450-17～26地先	10/7・9・ 15・23	GL-0.52～-0.7mで明黄褐色礫混シルト。	19K270	HQ334	1
左近衛府跡、 聚楽第跡	上・須浜東町450-4	10/25	GL-0.25mまで盛上。	19K401	HQ376	1
内裏跡 内裏跡、聚楽道跡	上・中務町490-29	11/6	GL-0.2mまで盛上。	19K500	HQ386	1
	上・下立売通千木東入田中町472-2	5/22・23	GL-0.5mまで盛上。	19K045	HQ067	1
内裏跡、聚楽道跡	上・下立売通千木東入田中町472-4	5/22～27	GL-0.4mまで盛上。	19K046	HQ068	1
内裏跡、聚楽第跡	上・出水通智恵光院西入田村場前町237-5	5/27	GL-0.2mまで盛上。	19K108	HQ080	1
内膳司跡 真言院跡	上・出水通千木西入六番町地先	11/28～12/9	GL-0.52～-0.65mで黄褐色砂質シルト。	19K551	HQ434	1
	上・下立売通七本松東入長門町426、428、430-1、432-1	5/23	GL-0.7mまで盛上。	18K375	HQ075	1
中和院跡 中和院跡、 聚楽道跡	上・十四軒町413-22	10/30	GL-0.32mまで盛上。	19K483	HQ381	1
	上・千木通出水下る十四軒町413.30、413-31の一部	8/7・8	GL-0.65mまで盛上。	19K073	HQ230	1
中和院跡、 聚楽道跡	上・千木通下立売上る稲藪町469	11/18・19	GL-1.8mまで盛上。	18K403	HQ413	1
東雅院跡、 二条城北遺跡	上・榎木町通大宮西入中書町691-2	10/3・4・ 15	GL-0.54mまで盛上。	19K350	HQ332	1
左馬寮跡 左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町9-43	4/25	GL-0.3mまで盛上。	18K597	HQ041	1
	中・西ノ京左馬寮町3-1	7/10～26	GL-0.85mまで盛上。	19K053	HQ173	1

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
左 馬 寮 跡	中・西ノ京左馬寮町10-39	8/23	GL-1.01mで黄褐色シルトの地山、-1.29~-1.62mで浅黄褐色砂礫の地山。	19K233	HQ252	1
左 馬 寮 跡	中・西ノ京左馬寮町7-38	11/14	GL-0.6mまで盛上。	19K420	HQ407	1
典 葉 寮 跡	中・西ノ京車及町3	9/20	GL-0.25mで黄褐色砂泥の地山、-0.5mで暗灰黄色粗砂の地山、-0.64~-0.72mで黄褐色砂礫の地山。	19K433	HQ305	1
豊 泰 院 跡	中・聚楽廻西町188-52	9/19	GL-0.3mまで盛上。	19K396	HQ303	1
朝 堂 院 跡、 聚 楽 道 跡	上・竹加町通千本東入主税町1173	5/13	GL-0.38~-0.52mで暗褐色泥砂(細礫)。	18K873	HQ052	1
朝 堂 院 跡、 聚 楽 道 跡	上・竹加町通千本東入主税町1159	5/31	GL-0.15mまで盛上。	19K057	HQ083	1
朝 堂 院 跡、 聚 楽 道 跡	中・聚楽廻東町3-1 地先(千本丸太町西行)	6/10・11	GL-0.35~-1.2mで黄褐色シルトの地山。	18K835	HQ104	1
朝 堂 院 跡、 聚 楽 道 跡	上・竹加町通千本東入主税町1150	6/14・17	GL-0.35mまで盛上。	19K147	HQ115	1
朝 堂 院 跡、 聚 楽 道 跡	中・聚楽廻東町31-22	9/9	GL-0.25mまで盛上。	19K395	HQ274	1
朝 堂 院 跡、 聚 楽 道 跡	中・聚楽廻東町20-7、22-3、22-5、 24、24-2、24-18、24-19、24-24	9/13、 11/14	GL-0.22mで橙色シルトの地山、-0.45mでふい 褐色砂泥の地山、-0.86mでふい黄褐色細砂混 シルトの地山、-1.14~-1.32mで黄褐色砂礫の地山。	19K119	HQ290	1
朝 堂 院 跡、 聚 楽 道 跡	中・千本通二条下る東入主税町910-28	9/17	GL-0.53mまで盛上。	19K342	HQ292	1
朝 堂 院 跡、 聚 楽 道 跡	中・聚楽廻東町24-16	9/18	GL-0.29mで黒褐色シルト(固く締まる、小礫 の時期不明)包層。	19K307	HQ296	1
朝 堂 院 跡、 聚 楽 道 跡	中・聚楽廻東町16-2	12/2・3	GL-0.27~-0.3mで明黄褐色シルト(炭含)の時期 不明)包層。	19K540	HQ438	1
内 舎 人 跡、 聚 楽 道 跡	上・下立売通千本東入下る中務町 486-67	5/20	GL-0.4mまで盛上。	19K110	HQ069	1
内 舎 人 跡、 聚 楽 道 跡	上・下立売通千本東入下る中務町 490-61	7/23	GL-0.5mまで盛上。	19K185	HQ198	1
内 舎 人 跡、 聚 楽 道 跡	上・下立売通千本東入下る中務町 490-122の一部	6/20	GL-0.4mまで盛上。	19K156	HQ129	1
内 舎 人 跡、 聚 楽 道 跡	上・下立売通千本東入下る中務町 122の一部	11/7	GL-0.35mまで盛上。	19K467	HQ393	1
太 政 官 跡、 聚 楽 道 跡	上・千本通二条下る東入主税町1084 の一部、1085の一部	11/11	GL-0.27~-0.33mで黄色粘質土。	19K450	HQ402	1
太 政 官 跡、 聚 楽 道 跡	上・千本通二条下る東入主税町1046-1	11/25	GL-0.2mまで盛上。	19K550	HQ424	1
太 政 官 跡、 聚 楽 道 跡	上・竹加町通千本東入主税町1106	12/17	GL-0.42~-0.51mで暗褐色シルト(炭泥)の平安包 含層(土器器脚、須恵器器、緑釉陶器椀、平瓦)。	19K606	HQ481	1
治 部 省 跡	中・西ノ京内畑町1-23	4/5	GL-0.6mまで盛上。	18K860	HQ005	1
治 部 省 跡	中・西ノ京内畑町1-22	5/8	GL-0.6mまで盛上。	19K019	HQ049	1
治 部 省 跡	中・西ノ京内畑町1-24の一部	7/3	GL-0.5mまで盛上。	19K174	HQ160	1
治 部 省 跡	中・西ノ京内畑町11-47	7/9	GL-0.35mまで盛上。	19K238	HQ169	1
治 部 省 跡	中・西ノ京内畑町1-9の一部	7/3	掘削時腐敗終了。	18K760	HQ159	1
治 部 省 跡	中・西ノ京内畑町1-25の一部	7/16	GL-0.4mまで盛上。	19K241	HQ180	1
治 部 省・判事跡	中・西ノ京内畑町15-2	11/25	GL-0.6mまで盛上。	19K400	HQ423	1
兵 部 省 跡	中・西ノ京小地町869-3	7/31、8/1	GL-0.4mまで盛上。	18K819	HQ215	1
兵 部 省 跡	中・西ノ京内畑町18-1、18-29、 41-1、星池町210	11/22	GL-0.54~-0.71mで明黄褐色砂礫(固く締まる)の 地山。	19K410	HQ418	1
判 事 跡	中・西ノ京内畑町15-21	8/23	GL-0.37~-0.67mでII層作上。	19K245	HQ253	1
判 事 跡	中・西ノ京内畑町15-2	11/5	GL-0.3~-0.35mで明黄褐色シルト。	19K399	HQ383	1
判 事 跡	中・西ノ京内畑町13-45	11/14	GL-0.4mまで盛上。	19K482	HQ408	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊三町跡	上・包英町 地先(堀川中立売 北行)	6/5	GL-0.3mで暗褐色粗砂混シルト(炭含)の時期不明包含層を切って黒褐色粗砂混シルト(炭含)の近世土坑、-0.55mで褐色粘土質シルトの地山を切って黒褐色粗砂混シルト(炭含)の鎌倉土坑、-0.8mでふい黄褐色砂礫の地山、-0.95～-1.25mで黒褐色礫混シルトの地山。	18H868	HL 096	2
北辺二坊六町跡	上・油小路通堀川通の間中立売下る 突抜町54-3、54-4	7/1	GL-0.3mまで盛上。	19H125	HL 149	2
一条三坊五町跡、 旧二条城跡	上・衣糠通下立売下る門跡町278	11/6	GL-0.7mまで盛上。	19H371	HL 390	3
一条三坊七町跡、 旧二条城跡	上・室町通出水上る近衛町44	9/12・17	GL-0.85mでふい黄褐色泥砂(炭化物多量含)、-1.53mで黄褐色シルトの近世包含層。	18H141	HL 284	3
一条三坊八町跡	上・室町通上長者町下る清和院町567	9/2	GL-0.2mまで盛上。	19H255	HL 268	3
二条二坊一町跡、 二条城北道跡	上・黒門通根木町下る小伝馬町552 の一部、553の一部、555-2の一部	4/15	GL-0.25mまで盛上。	18H748	HL 025	2
二条二坊十町跡、 高陽院跡、 二条城北道跡	中・竹屋町通油小路西入西竹屋町 521-2	6/10・11・ 12・14	No 1 : GL-0.75mで明黄褐色細砂、-1.14～-1.27mで細灰色細砂～シルト(炭含む)の時期不明包含層。No 2 : GL-1.25mで黒褐色シルト(粗砂、小礫含)の整地層を切って灰黄褐色シルトの中世土坑、-1.37mで褐色細砂の水成堆積を切りにふい黄褐色シルトの中世土坑、-0.58mで褐色細砂～微砂の水成堆積、-0.62mで黒褐色粘土水成堆積、-1.88mで黒色粘土(炭含)水成堆積、-1.95mで褐色砂礫の河川堆積。	19H037	HL 107	2
二条二坊十五町跡、 高陽院跡	中・小川通丸太町下る中町88	8/28、9/2	GL-0.96mで黄褐色泥砂、-1.1～-1.31mで黄褐色泥砂の時期不明包含層。	19H183	HL 260	2
二条三坊十一町跡	中・室町通夷川上る鏡屋町25	5/30	GL-1.0mまで盛上。	19H101	HL 082	3
二条三坊十一町跡	中・竹屋町通烏丸西入烏丸町150	5/28	GL-0.3mまで盛上。	19H100	HL 081	3
二条三坊十一町跡、 烏丸丸太町道跡	中・両替町通夷川上る松竹町120	6/18・19	GL-0.58mで黄褐色泥砂。試掘調査前の詳細分布調査、後に発掘調査。	18H681	HL 124	3
二条三坊十五町跡、 烏丸丸太町道跡	中・竹屋町通烏丸東入清水町382の 一部、車屋町通竹屋町上る砂金町 393-1の一部	9/18	GL-0.7mまで盛上。	19H317	HL 298	3
二条四坊二町跡、 烏丸丸太町道跡	中・堀之町通竹屋町上る大津町655-2、 東御院通丸太町下る三本木町440-1	6/11	GL-0.6mまで盛上。	18H869	HL 109	3
二条四坊三町跡、 烏丸丸太町道跡	中・堀之内町639	10/21	GL-0.7mまで盛上。	19H365	HL 366	3
二条四坊十四町跡、 烏丸丸太町道跡	中・麩屋町通夷川上る世屋町453	12/11	GL-0.34mまで盛上。	19H468	HL 464	3
三条一坊三町跡	中・西ノ京職町22-7	11/25・ 26、 12/11	GL-1.07mで明黄褐色泥砂、-1.22mで明黄褐色砂礫の地山、-1.45mで黒褐色砂礫の地山、-1.55～-1.94mでふい黄褐色砂礫の地山。	19H187	HL 425	2
三条一坊十町跡	中・西ノ京職町67-4	11/15	GL-1.25mまで盛上。	19H498	HL 411	2
三条一坊三町跡	中・西ノ京宿院町9、10.5、10.9、 12、24-4	9/4	GL-2.7mまで盛上。	19H301	HL 272	2
三条二坊二町跡	中・大宮通御池上る市之町180-1他	8/19・23・ 26、9/2・5	No 2 : GL-1.92～-2.14mで淡黄色砂礫の地山。No 3 : GL-1.49mで灰色シルト、-1.69mで灰白色シルト、-1.83mで灰色シルト、-1.91～-1.94mで灰白色砂礫。	18H427	HL 238	2
三条二坊三町跡	中・大宮通御池下る三坊大宮町134、 134-1	6/26・28	GL-0.82mで明黄褐色砂礫の地山、-1.3～-1.75mで灰色砂礫の地山。	19H064	HL 142	2
三条三坊八町跡、 妙覺寺城跡	中・室町通二条下る蛸薬師町282	7/31	GL-1.35mまで盛上。	18H627	HL 216	3

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
三条坊十五町跡	中・車塚町通御池上る健除屋町344 他	12/13・18	No.1: GL-1.82mで浅黄色砂泥を切って黄褐色泥砂の時期不明土坑、-2.03mで明黄褐色泥砂、-2.28mでにぶい黄褐色泥砂、-2.38mでにぶい黄褐色泥砂を切ってにぶい黄褐色砂泥の土坑、-2.52~-2.93mでにぶい黄褐色泥砂を検出。No.2: GL-1.64mで暗灰黄色泥上、-1.84mでオリブ褐色泥砂、-2.24mで黄褐色シルトを切って黄褐色泥上の鎌倉土坑(土師器面)、-2.55~-2.76mで明黄褐色シルトの地山。	18H297	HL 472	3
三条四坊一町跡	中・東洞院通二条下る瓦之町382-1、 384	4/8	GL-0.89mまで盛上。	18H569	HL 009	3
三条四坊七町跡、 烏丸御池道跡、 等持寺跡	中・堺町通押小路下る扇屋町659、 661、663、高倉通御池上る終町 等持寺跡	5/31	GL-2.26~-2.39mで黄褐色粘質土の近世以降包含層。	19H152	HL 085	3
三条四坊十三町跡	中・懸屋町通三条上る下白山町296-4	11/26・29	GL-1.89mで暗オリブ色泥砂(炭泥)の時期不明包含層を切って黒褐色泥砂(黄褐色粘質シルトブロック、炭泥)の室町土坑、-1.98mで黄褐色粘質シルトの地山、-2.19mで明黄褐色砂礫の地山。	18H881	HL 428	3
三条四坊十三町跡、 三条せと物や町跡	中・懸屋町通三条上る下白山町312	4/9・11	GL-0.5~-0.75mで黄褐色砂質土。	18H857	HL 014	3
三条四坊十四町跡、 寺町旧城	中・寺町通御池下る下本能寺前町 517、518、520	9/13・19	GL-0.32mで灰オリブ色泥砂(炭泥)の近世包含層、-0.83mでオリブ褐色泥砂(準大礫泥)の時期不明包含層、-1.1mで黄褐色泥砂(炭泥)、-1.2~-1.41mでオリブ褐色泥砂の時期不明包含層。	19H157	HL 291	3
四条二坊一町跡	中・望屋通三条下る三条望屋町646、 647	7/23	GL-0.37~-0.53mで黒褐色泥砂の近世以降包含層。	19H113	HL 200	4
四条二坊十三町跡	中・油小路通四条上る藤本町561-1、 下・四条通油小路東入弁町36	10/2・3・7	平安後期~室町の遺構群を検出。本報告9ページ。	19H209	HL 323	4
四条三坊二町跡 四条四坊六町跡	中・六向通新町西入六向町109 中・堺町通納業跡下る菊屋町513、 513-1	6/24~7/3 12/5・6	GL-0.9mまで盛上。 GL-1.57~-2.93mでにぶい黄褐色砂礫。	18H866 19H347	HL 135 HL 448	5 5
四条四坊八町跡 四条四坊八町跡、 烏丸御池道跡、 三条せと物や町跡	中・堺町通三条下る道祐町148 中・堺町通三条下る道祐町135	8/29、9/19 11/7・11	GL-1.24~-1.38mで黄褐色泥砂。 GL-1.15~-1.66mで黄褐色砂礫の地山。	19H348 18H880	HL 261 HL 388	5 5
四条四坊九町跡	中・富小路通三条下る朝倉町531、 533	10/11	GL-5.2mまで盛上。	19H153	HL 348	5
四条四坊十町跡	中・納業師通納業跡東入油屋町124、 126	5/16・21、 6/3	GL-1.33mで黄褐色泥砂の室町~江戸前包含層、 -1.55mで暗灰黄色泥砂の室町~江戸前包含層、 -1.72mでにぶい黄色砂泥、-1.84~-2.06mで灰黄色砂礫。	18H870	HL 061	5
四条四坊十三町跡 五条二坊五町跡、 烏丸小路道跡	中・大日町410 下・西堀川通高辻下る高辻堀川町 367他	10/11 9/11	GL-1.65mまで盛上。 GL-0.58mで灰黄褐色砂質土、-0.94~-1.05mで 灰黄褐色細砂。	19H264 19H408	HL 349 HL 280	5 4
五条二坊一町跡、 烏丸小路道跡	下・堀川通仏光寺下る吉水町325、 325-1、325-3、龍ヶ井通仏光寺下 る荒神町146、147	6/20・21	GL-0.6mまで盛上。	19H089	HL 130	4
五条二坊一町跡、 烏丸小路道跡	下・西高辻町602	10/8	GL-0.7mで暗褐色泥砂、-0.97mでオリブ褐色 粘質土、-1.04mで黒褐色粘質土の時期不明包含 層、-1.08~-1.18mで暗灰黄色泥砂の地山。	19H054	HL 341	4
五条二坊十六町跡、 烏丸小路道跡	下・西洞院通四条下る妙伝寺町701 他	9/18・26・ 30	GL-1.0mで褐色泥砂の地山を切って暗オリブ 褐色泥砂(炭泥)の室町土坑、-1.22~-2.63mで 褐色砂礫の地山。	18H248	HL 299	4
五条三坊二町跡、 烏丸小路道跡	下・仏光寺通西洞院東入菅大臣町 182の一部、184の一部	10/21	GL-0.8mまで盛上。	18H274	HL 364	5
五条三坊十町跡、 烏丸小路道跡	下・綾小路通烏丸西入蓮花寺町171、 烏丸通綾小路下る二帖半町641	10/2	GL-0.96mまで盛上。	19H376	HL 324	5
五条三坊十三町跡、 烏丸小路道跡	下・烏丸通松原上る東側四幡堂町 686-1	9/18・19	GL-0.52mまで盛上。	18H696	HL 297	5

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
五条四坊三町跡、 烏丸綾小路遺跡、 電気城跡	下・新開町397	7/19・22・ 24、8/2	GL-0.68～-1.98mで黄褐色泥砂(晩土、炭渣)。 調査は事前の試掘調査で検出した遺構の保存確認のため。	16H217	HL189	5
五条四坊四町跡	下・間之町通高辻下る稲荷町527	11/29	GL-1.05mで黒褐色粘質土(炭渣)の室町包含層。 -1.31mで灰オリーブ色シルトの時期不明包含層。	19H501	HL437	5
五 条 四 坊 九 ・ 十 六 町 跡	下・四条通魁屋町西入立売東町25-1	11/6	GL-4.41mで暗灰黄色粘質土の地山。-4.62～-5.0m で暗オリーブ灰色砂礫の地山。	18H391	HL387	5
五条四坊十町跡 五条四坊十三町跡	下・富小路通綾小路下る雀師屋町94 下・寺町通高辻下る金柳町504、 504-1	8/21・23 11/6	GL-0.3mまで盛土。 GL-3.4mまで盛土。	19H216 19H218	HL248 HL389	5
五条四坊十四町跡 六条一坊十三町跡	下・寺町通仏光寺下る恵美須之町530 下・大宮通五条下る二丁目西御中堂 寺町499、499-2	7/18、8/14 5/20・22・ 24	GL-2.8～-3.79mで灰黄褐色砂礫の地山。 №1；GL-0.6mでふい黄褐色粘質土の室町包含層。 -0.85mでふい黄褐色粘質土の室町包含層。 -1.32mでふい黄色粗砂粘質土。-1.57mで ふい黄褐色粗砂礫の地山。№2；GL-1.1mで黒褐色 粗砂泥シルトの中世包含層。-1.29～-2.12mで 黄褐色砂礫の地山。№4；GL-1.03mで黒褐色粗 砂泥シルトの時期不明包含層。-1.37～-1.64mで 暗灰黄色泥混シルトの地山。	18H659 18H757	HL187 HL070	5 4
六条二坊七町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・堀川通松原下る柿本町573-2、 4	9/27	GL-1.6～-3.09mで明黄褐色粗砂礫の地山。	19H269	HL311	4
六条三坊六町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・室町通五条下る大黒町193、 195	4/17・18・ 23、6/19	GL-1.12～-3.02mで褐色砂礫。	18H757	HL032	5
六条三坊七町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・万寿寺通室町西入長刀切町 211-1他	7/23・25・ 31	№1；GL-1.54～-1.82mで灰オリーブ色砂泥。 №2；GL-2.12～-2.24mでオリーブ黄色シルトの 地山を切って黄灰色泥砂の室町土坑。	19H134	HL194	5
六条三坊十二町跡	下・鍵屋町通烏丸西入鍵屋町333	7/24	GL-1.09mで黄褐色粗砂の江戸包含層。-1.26～ -1.33mで黒褐色泥砂の江戸包含層。	19H228	HL203	5
六条三坊十二町跡	下・鍵屋町通烏丸西入鍵屋町330、 332-2、332-3	12/2・4・ 9・11・ 19・23	№1；GL-0.88mで明黄褐色粗砂の近世盛土。 -1.24mで灰黄褐色泥砂の近世盛土。-1.54～-2.27m でふい黄色粗砂の地山。№3；GL-2.0mで浅黄 色砂礫の地山。№4；GL-1.23mで黒褐色泥砂の 時期不明包含層。-1.52～-1.76mでふい黄色泥砂 (粗砂泥)の平安包含層(土器層)。№5；GL-0.79m で黄褐色砂礫。-0.94mで暗オリーブ褐色粗砂泥 シルト。-1.13mで黒褐色粗砂泥シルト。-1.43m で黒褐色粗砂泥シルトの平安前期包含層(土器 層)。-1.57～-1.69mでふい黄灰色砂礫の時期 不明包含層。	19H351	HL440	5
六条三坊十四町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・不明門通五条下る上平野町451	8/5	GL-1.34mで淡黄色粗砂。-1.47～-1.84mで暗灰 黄色砂礫の地山。	18H776	HL221	5
六条三坊十五町跡	下・五条通烏丸東入松屋町423、 425、不明門通五条上る玉屋町529	6/17・20・ 25	GL-1.07mでオリーブ褐色粘質土の近世包含層。 -1.28～-1.61mで黄褐色砂礫の地山。	18H859	HL117	5
六条三坊十六町、 烏丸一町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・万寿寺通烏丸東入大知町～万寿 寺通源院東入万寿寺中之町地先	11/18・ 19・21・ 29、12/4・ 11・19・ 26	GL-0.24mでオリーブ褐色泥砂。0.32mで黄褐色 粗砂の時期不明路面。-0.36mで暗灰黄色泥砂の 路面に伴う整地層。-0.42mで灰黄色粗砂の時期 不明路面。0.46mで灰黄褐色泥砂の路面に伴う 整地層。-0.55mでふい黄色粗砂の鎌倉路面。 -0.64mで暗褐色泥砂の路面に伴う鎌倉整地層。 -0.74mでふい黄褐色粘質土の時期不明包含層。 -0.92mでふい黄色シルトを検出。路面は樋口 小路の推定地にあたる。	19H461	HL414	5
六条四坊二町跡	下・万寿寺通高倉西入万寿寺中之町 90、高倉通五条上る亀屋町188-1、 187の一部	8/2	GL-1.0mまで盛土。	19H112	HL218	5
六条四坊六町跡、 寺町田域	下・高倉通五条下る堺町21	4/8	GL-0.66～-0.75mで灰黄色砂礫。	18H831	HL010	5
六条四坊七町跡	下・堺町通五条上る猿屋町224-1、 224-2	12/6	GL-0.95mまで盛土。	19H405	HL452	5

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
六条四坊八町跡	下・万寿寺通御幸町西人整田町570他2筆	9/11	GL-1.14～-1.27mで黄灰色粘質土の江戸包含層。	19H224	HL 279	5
六条四坊十五町跡	下・魁屋町通五条上る下觸形町550, 552-5, 552-6, 552-7	5/8・16	GL-1.68～-2.81mで、深い黄色砂泥(礫混)の地山を切って暗灰黄色粘砂、黄褐色粘土、暗灰黄色粘砂と黄褐色粘砂の4層に分層出来る鎌倉土坑。	18H865	HL 047	5
六条四坊十五町跡	下・御幸町通五条上る安土町643	6/3・10	GL-1.05mで褐色砂礫の氾濫堆積。	18H845	HL 088	5
七条一坊二町跡	下・西新屋敷太町95	8/19・26	GL-0.76mで灰黄褐色粘砂。-1.0mで深い黄褐色シルトの地山。-1.36mで黄褐色シルトの地山。-1.64～-2.27mで浅黄褐色砂礫の地山。	19H203	HL 239	6
七条一坊四町跡	下・朱雀正合町1-28	12/20	GL-0.68mまで盛上。	19H444	HL 494	6
七条二坊一町跡、 本園寺城跡	下・猪熊通五条下る柿本町595-184	4/4・9	GL-0.16mで深い黄褐色粘質土の時期不明包含層。-0.32mで明黄褐色粘質シルトの地山を切って深い黄褐色粘質土の中世土坑。-0.92mで暗灰色シルトの地山。-1.28～-1.71mで褐色粘土と深い黄褐色細砂の互層の地山。	18H817	HL 003	6
七条三坊二町跡	下・西洞院通花屋町下る西洞院町455	10/21	GL-2.01～-3.27mで黄褐色砂礫の地山。	19H298	HL 365	7
七条三坊三町跡	下・西洞院通正通下る殿治屋町449-2	8/1	GL-0.43mまで盛上。	19H038	HL 199	7
七条四坊二町跡	下・間之町通上珠敷屋町下る打越町317	12/3・4・9・11	№1：GL-0.68mで灰オリーブ色粘砂。-0.76mで暗灰黄色粘砂。-1.02mで暗オリーブ褐色粘質土の平安末～鎌倉包含層(土師器面)。-1.42～-1.56mで深い黄色粘砂(礫混)の地山。№2：GL-1.03mで暗灰黄色粘砂の時期不明包含層。-1.41～-2.01mで黄灰色粘砂の地山。	19H509	HL 445	7
七条四坊七町跡	下・高倉通花屋町下る若松町434-1, 435-1, 435-2, 438-1, 富小路通花屋町下る皆物町437, 438-1, 459-3	12/6	GL-0.33～-0.59mで褐色砂礫。	19H235	HL 457	7
七条四坊七町跡、 寺町旧城	下・河原町通上親税馬場上る若宮町477	6/18	GL-0.95mまで盛上。	18H664	HL 123	7
七条四坊十六町跡	下・三ノ宮通上ノ口上る岩滝町222-1	10/11	GL-0.96mで褐色粘砂(炭含)。-1.13～-1.51mで深い黄褐色粘砂(礫混)の地山。	19H329	HL 350	7
七条四坊十六町跡	下・東高瀬川筋上ノ口上る聖真子町170	12/2	GL-0.84～-1.41mで浅黄褐色砂礫の氾濫堆積。	18H747	HL 439	7
八条一坊一町跡	下・観喜寺町15-5, 15-6, 25-7の一部	9/27, 12/10	№1：GL-1.18～-1.27mで明黄褐色粘砂。№2：GL-1.42～-1.49mで黒褐色粘砂質土。	19H273	HL 312	6
八条一坊七町跡	下・観喜寺町15地	4/15	GL-1.04mで灰オリーブ粘砂。-1.64～-1.85mで黄褐色粘砂。	15H109	HL 028	6
八条二坊一町跡、 東市跡	下・大宮通木津屋橋上る上之町416, 416-2の一部	6/17	GL-1.85～-1.91mで明黄褐色砂礫の地山。	18H103	HL 121	6
八条二坊四町跡	南・猪熊通八条上る成光寺町188-1, 188-8	6/27・28, 7/1・4・8	№2：GL-1.02mで深い黄色シルトの地山を切って灰黄褐色粘質シルト(明黄褐色粘質シルトブロック混)の平安落込。-1.2mで暗灰黄色シルトの地山。-1.47～-1.49mで黄褐色粘砂の地山。№3：GL-0.6mで黄褐色粘砂(黒褐色粘砂混)を切って暗灰黄色シルトと黒褐色粘質土と暗灰黄色粘土の中世土坑。-0.75mで黄褐色シルトの地山。-1.18～-1.37mで褐色粘砂の地山。№4：GL-0.6mで黄褐色粘質土の中世整地層。-0.85mで灰黄色粘土。-1.05～-1.43mで深い黄色粘砂の地山を切って黒褐色シルトの時期不明土坑。№5：GL-0.6mで暗灰色粘土を切って暗灰色粘質土と深い黄色粘砂と黒褐色シルトと黒褐色粘砂の中世土坑。同じく深い黄褐色粘質土と黒褐色シルトの中世土坑。-0.95mで深い黄褐色シルトの地山。-1.11～-1.42mで灰オリーブ粘砂の地山。	19H106	HL 144	6
八条二坊九町跡	下・八百屋町地内	9/30	巡回時測停終了。	19H354	HL 315	6
八条三坊一町跡	下・西洞院通七条下る東堀小路町600-52	8/6・8	GL-1.51mでオリーブ褐色粘質シルトの時期不明包含層。-1.61mで黄灰色粘砂の地山。-1.86～-2.68mで明黄褐色砂礫の地山。	19H072	HL 228	7
八条四坊三町跡、 御上屋跡	下・東洞院通七条下る二丁目東堀小路町680-6	12/11	GL-0.96mまで盛上。	19H524	HL 465	7

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八条四条七町跡	下・小稲荷町79-3他	11/11	GL-0.65mまで盛上。	18H843	HL 398	7
八条四坊七・八町跡	下・高倉通堀小路上小稲荷町地先	10/2・3・4・10・18	GL-1.3～-1.56mで明黄褐色砂礫。	19H442	HL 318	7
八条四坊十一町跡	下・下之町地内	9/6・10	巡回時振付終了。	19H215	HL 273	7
九条一坊四町跡 獅土屋跡	南・八条内田町28-1	6/20	GL-0.85mで旧耕作土、-1.02～-1.11mで明黄褐色シルトの地山。	19H029	HL 133	6
九条一坊四町跡 羅城門跡	南・四ツ塚町38	4/26	GL-0.23～-0.37mでオリブ褐色泥土。	18H787	HL 042	7
九条一坊五町跡	南・八条内田町地先	8/5・7、9/5・20	GL-0.33mで明黄褐色シルトの土壌化層、-0.45～-0.66mで灰白色粗砂の地山。	19H322	HL 222	6
九条一坊六町跡 教王護国寺旧境内	南・九条町410-3の一部、410-4の一部	11/22	GL-0.2mまで盛上。	19H555	HL 419	6
九条二坊十町跡	南・西九条池ノ内町2-1他	6/17	GL-1.26～-2.25mでにぶい黄色細砂～微砂の地山。	19H098	HL 122	6
九条三坊七町跡 烏丸町道跡	南・東九条室町1-1の一部	4/22	GL-0.85mまで盛上。	18H729	HL 037	7
九条三坊八町跡 烏丸町道跡	南・東九条室町57の一部	7/11・16	GL-1.82mまで盛上。	18H867	HL 176	7
九条三坊十一町跡 烏丸町道跡	南・東九条北烏丸町8-6、8-13、8-14	9/12	GL-0.64mで灰白色細砂～泥砂、-1.12～-2.23mで明黄褐色砂礫～粗砂。	18H516	HL 285	7
九条三坊十三町跡 烏丸町道跡	南・東九条烏丸町41	6/10・11・13・14	GL-0.6mでにぶい黄褐色粘質土、-0.75mで灰オリブ色シルトを切って灰黄褐色粘質土(暗灰黄色粘土ブロック)と暗灰黄色シルトの鎌倉～室町土坑。その土坑に切られて灰オリブ砂質土(暗灰黄色粘土ブロック)の鎌倉～室町土坑。灰黄褐色シルトの鎌倉～室町土坑、-0.9mで暗灰黄色粘土の地山を切って灰色粗砂の鎌倉～室町土坑、-1.72～-2.86mで黄灰色粗砂の地山。	18H580	HL 106	7
九条三坊十三町跡 烏丸町道跡	南・東九条烏丸町43	6/20	GL-0.4～-0.63mでにぶい黄褐色シルト。	19H160	HL 131	7
九条四坊十町跡 烏丸町道跡	南・東九条東岩本町5、6-1、6-5	11/11	GL-1.3mまで盛上。	19H306	HL 399	7

平安京右京(HR)

道跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊八町跡	北・大將軍西町195地先(北野白梅町バス停北行南詰)	6/3	GL-0.4mで黒褐色シルト(炭屑)の江戸包含層、-1.3～-1.55mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	16H572	HR 089	9
北辺三坊五町跡	北・等持院南町33	7/1・3・5	GL-0.25mまで盛上。	19H094	HR 150	8
北辺三坊八町跡	北・等持院南町35-14、35-15、35-16、35-17	11/5・15	GL-0.45mまで盛上。	19H383	HR 384	8
一条三坊十一町跡	中・西ノ京馬代町9-7	7/18・19・22・23・25、9/4	GL-0.26mで暗灰黄色泥砂(炭化物含)、-0.44mで暗灰黄色泥砂の時期不明包含層、-0.62mで黒色シルトの地山、-0.78～-0.87mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	19H234	HR 185	8
一条四坊二町跡	右・花園木辻北町1-1の一部、1-6の一部、36の一部、花園妙心寺町1-5、1-6、1-7の一部、59-2、62-2、62-4、68の一部	9/9・10	GL-0.23mまで盛上。調査は事前の試掘調査で検出した道構の保存確認のため。	18H795	HR 275	8
二条二坊十五町跡	中・西ノ京中綱門東町73-1	8/26、9/2	GL-1.32mで暗灰色泥砂の旧耕作土、-1.38mでにぶい黄褐色泥砂の地山。	19H088	HR 254	9

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
二条四坊八町跡	右・花園車道町1 地内	10/24・ 25・28・ 30	№1：GL.0.7～1.9mで灰白色砂礫の地山を切つて時期不明な坑。№2：GL.0.32mでにぶい黄褐色粘質土。-0.4～-1.02mで灰白色砂礫の地山を切つて黒色シルト(薄多量泥)の時期不明な窪地。№3：GL.0.5mでにぶい黄褐色シルトを切つて黒色シルトのビット、-0.61mで明黄褐色シルト、-0.75mでにぶい黄褐色シルト(粗砂泥)、-0.83～-1.14mで灰白色シルト(粗砂泥)の地山。	19H050	HR 373	8
二条四坊十三町跡	右・太秦安井樋通町15 地内	9/11	巡回時期終了。	19H049	HR 281	8
二条四坊十三町跡	右・太秦安井一町田町7-2の一部	11/27	GL.0.2mまで盛上。	19H518	HR 433	8
三条一坊十五町跡	中・西ノ京原塚町9-6、9-25の一部	9/17	GL.0.48mでにぶい黄褐色シルトの旧耕作上、-0.67mで黄褐色砂礫の地山。	19H337	HR 293	9
三条二坊十町跡	中・西ノ京原町68	5/27、 6/12・14・ 17・19	GL.0.58mで灰黄褐色シルト(雑泥)、-0.83mで明褐色砂礫の地山、-1.46mで明黄褐色粘土の地山、-1.72～-2.22mで灰色粘上～砂礫の地山。	18H451	HR 079	9
三条三坊十町跡、 西ノ京道跡	中・西ノ京徳大寺町1、2-1、2-2、 3-4-1、5、200-1、200-2、西中 合町100-11	12/18	GL.0.6mまで盛上。	19H556	HR 485	8
三条四坊一町跡	右・太秦安井水戸田町5-4	4/4・5・ 8・9	GL.0.75mで黒褐色粘質土(薄多量泥)の平安包含層、-0.83～-1.3mで明黄褐色粘質シルトの地山。	18H436	HR 004	8
三条四坊十町跡	右・山ノ内御堂殿町33-8、33-10 の一部、33-11の一部、33-21	7/26	GL.0.5～1.07mで明黄褐色粘質土の地山。	19H284	HR 207	8
四条一坊五町跡	中・壬生森町4-3の一部	4/22・23	GL.0.29mで暗灰黄色泥砂、-0.56mで暗灰黄色砂泥、-0.74～-0.89mで青灰色細砂(小礫泥)。	18H781	HR 034	11
四条一坊六町跡	中・壬生花井町3の一部、3-3、3-4	8/19、9/30	GL.1.0mで黒褐色細砂泥粘土質シルト、-1.22mで黒色微砂泥粘土質シルト(暗灰黄色粘土ブロック泥)の時期不明な包層、-1.37～-1.52mで暗灰黄色粘土の地山。	17H530	HR 240	11
四条一坊十三町跡	中・壬生森町59-11、59-13	12/3	GL.0.26mまで盛上。	19H569	HR 446	11
四条二坊十六町跡	右・西院西今田町10-15	5/8	GL.0.87～1.26mで淡黄色細砂泥シルトの地山。	18H804	HR 048	11
四条三坊一町跡	右・西院上花田町37-3、38	8/5・7	GL.0.49mで黄褐色シルト、-0.53mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明な包層、-0.73mで褐灰色砂泥の地山、-0.82mで灰色砂泥の地山、-1.02mで灰色砂礫の地山、-1.34mで黄色砂礫の地山、-1.48～-1.67mで灰色シルトの地山。	19H230	HR 223	10
四条四坊二町跡	右・山ノ内瀬戸畑町14-1	9/12・17	GL.0.3mまで盛上。	19H227	HR 286	10
四条四坊六町跡、 山ノ内道跡	右・山ノ内山下町22	10/28	GL.0.73～-0.83mで黒褐色粘土の湿地状堆積。	18H374	HR 378	10
五条一条一町跡	中・壬生高樋町10、10-11	10/15・21	GL.1.36mで褐色粗砂～砂礫の氾濫状堆積、-1.53mで褐灰色シルトの時期不明な包層、-1.96～-2.18mで黒褐色粘土の湿地状堆積。	19H305	HR 352	11
五条一坊六町跡	中・壬生松原町2-4の一部	4/8	GL.0.8mまで盛上。	18H605	HR 011	11
五条一坊九町跡	中・壬生森前町2、3、2-9、2-10、 2-11、30-1、30-2	11/7・14・ 15	GL.1.0mまで盛上。	19H393	HR 394	11
五条一坊十六町跡	中・壬生森前町16-7	7/19～31、 8/6～16	GL.0.71mで黒色砂礫、-0.91～-1.53mで明褐色砂礫の地山。	19H217	HR 190	11
五条二坊三町跡	中・壬生繪町16-19	9/19・25	GL.0.6mで明黄褐色粘質土の時期不明な包層、-0.77～-0.87mで明褐色粘質土の地山。	19H278	HR 300	11
五条三坊十一町跡	右・西院久田町93の一部、94-1、 94-2、94-3、94-4の一部、95の一部	9/24・27	GL.0.3mまで盛上。	19H362	HR 307	10
五条四坊十一町跡、 西京極道跡	右・西院安塚町84	8/13	GL.0.54～0.63mで旧耕作上。	19H035	HR 236	10
五条四坊十三町跡	右・西院西田町49	10/7・9	GL.0.39mで暗褐色雑泥シルトの中世包層、-0.52mで灰黄褐色雑泥シルトの時期不明な包層、-0.78～-1.2mで黒褐色砂礫の地山。	19H397	HR 337	10
五条四坊十五町跡	右・西院東貝川町46-1の一部	10/1・2	GL.1.55mまで盛上。	19H117	HR 322	10

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
六条一坊十五町跡	下・中堂寺庄ノ内町52-3	10/16・ 23・25	№1：GL-0.54mでオリブ褐色粗砂混シルトの近世包合層。-0.67mで褐色粘土質シルトの地山。-0.81mで褐色砂礫の地山。-1.32～-1.72mで灰黄褐色砂礫の地山。№2：GL-1.07mで褐色粘土質の時期不明包合層。-1.1mで褐色粘土質。-1.38～-1.48mで灰黄褐色砂礫の地山。	19H454	HR355	11
六条二坊四町跡	下・西七条東御前田町35-3	5/10	GL-0.61mでふい黄色粘土質土の時期不明包合層。-0.89～-2.6mで灰黄色細砂礫の地山。	18H220	HR051	11
六条二坊六町跡	下・西七条東御前田町15-1, 16, 16-3	9/12・13・ 18・20	GL-0.73mで耕作土。-1.03mで灰黄色シルト。-1.24mで黄灰色泥砂。-1.44～-1.91mでふい黄色粗砂・砂礫の地山。	19H377	HR287	11
六条二坊十町跡 六条三坊一町跡, 西院道跡	右・西院高田町1-1, 1-2, 1-3 右・西院寺町19-4, 19-5	10/8 12/19	GL-0.55mまで盛上。 GL-0.25mまで盛上。	19H389 19H562	HR343 HR491	11 10
六条三坊十四町跡 西京極道跡	右・西院六反田町54-1, 54-2	5/24	GL-0.36mで暗灰黄色礫混シルト。-0.68mでオリブ褐色砂質シルト。-0.83mで暗オリブ褐色シルト。-0.83～-1.44mでオリブ褐色砂礫の弥生包合層。	19H161	HR077	10
七条一坊二町跡, 空ノ口町道跡, 御土居跡	下・朱雀分木町80 他	5/20・22・ 24, 6/4・ 28, 8/5	№3：GL-0.38mで暗褐色粗砂混シルト。0.5mで灰黄褐色粗砂混シルト(灰黄)の時期不明包合層。-0.65mで褐色粘土質シルトの地山。-1.02～-1.45mで褐色礫混シルトの地山。№4：GL-1.28mで黄灰色シルトの江戸御土居層理土。2.2mで明黄褐色砂礫の江戸御土居層理土。2.35mの灰黄色シルトの江戸御土居層理土。-3.05mでふい黄色粗砂の江戸御土居層理土。-3.3mでふい黄色粗砂の地山。	18H797	HR071	13
七条一坊六町跡, 空ノ口町道跡, 御土居跡	下・朱雀宝蔵町43	4/24・25, 5/7	GL-1.06mで黒褐色粘土質土。-1.44～-1.53mで褐色粘土。	18H654	HR039	13
七条一坊九町跡	下・西七条東八反田町9-1	8/19・20	GL-0.36mで田耕作土。-0.51mで灰黄色泥砂。0.6～0.73mで黄灰色シルトの時期不明包合層。	19H288	HR241	13
七条二坊二町跡	下・天神通, 西七条東石ヶ坪町～西七条市部町 地内	12/11・13・17・ 24	№1：GL-0.72～-0.92mでオリブ灰色粘土質土の湿地状堆積。№2：GL-0.52mで褐色粘土質土。-0.74mで褐色砂礫。-0.93mでオリブ褐色砂礫。	19H429	HR467	13
七条二坊五町跡, 衣田町道跡	下・西七条北西野町39-1, 39-2	5/20	GL-0.96mで明黄褐色粘土質土の地山。-1.26～-1.51mで灰黄褐色砂礫の地山。	19H070	HR072	13
七条二坊六町跡, 西市跡, 衣田町道跡	下・西七条市部町4-1, 5, 6	11/25	GL-0.6mまで盛上。	19H409	HR426	13
七条二坊十四町跡	下・西七条名倉町37-1	5/27	GL-0.16mまで盛上。	18H882	HR078	13
七条三坊一町跡 七条四坊一町跡	右・西京極北庄境町22 右・西京極豆田町2	10/7 10/28・ 31, 11/5	GL-0.5mまで盛上。 GL-1.34mで田耕作土。-1.45mでふい黄色シルトの近世以降田耕作土。-1.56mで褐色シルトの田耕作土。-1.63～-1.7mで明黄褐色シルト(褐色粘土ブロック状認め)の時期不明田耕作土。	19H195 19H028	HR336 HR377	12 12
七条四坊二町跡	右・西京極町ノ坪町12	10/15	GL-0.56mで灰色シルトの田耕作土。-0.63～-0.69mで黄灰色シルト。	18H849	HR351	12
七条四坊九町跡	右・西京極町開町25	11/26	GL-0.3mで黄褐色シルト。0.41mでオリブ褐色シルト(礫混)。0.53mで暗灰黄色砂礫の時期不明の路面の可能性。推定左女牛小路にあたる。	19H484	HR429	12
八条一坊八町跡 八条二坊二町跡, 衣田町道跡	下・朱雀裏御前30 下・西七条石井町61	6/24 8/7・9	GL-2.0mまで盛上。 GL-0.41mで黄褐色砂礫。0.66mでふい黄色泥砂の地山。0.84～-1.3mで灰黄色砂泥(マンガン含)の地山。	19H190 19H055	HR137 HR231	13 13
八条二坊四町跡, 梅小路城跡	下・梅小路西中町44	11/6	GL-0.84～-1.29mでオリブ黒色粘土質土。	19H308	HR391	13
八条二坊十一町跡 八条四坊十四町跡	下・七条御所ノ内中町52-2 右・西京極東向河原町10-2, 10-5, 10-6	6/24 5/13	GL-1.66～-3.67mでふい黄褐色砂礫の地山。 GL-1.4mまで盛上。	19H099 18H772	HR136 HR053	13 12

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
九条一坊六・七・十町跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋平福町35	10/21・23	巡回時間終了。	19H344	HR 367	13
九条一坊十一町跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋花園町37 地内	7/19	CL-1.2mまで盛上。	19H257	HR 191	13
九条一坊十二町跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋花園町9	6/6	CL-0.2mでふい黄褐色確認シルト、-0.36～-0.56mで暗褐色粗砂混シルトの時期不明包層。	19H115	HR 102	13
九条一坊十三町跡、史跡西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町70	4/1・5	建物の解体を確認。	30N107	HR001	13
九条二坊三町跡、唐橋遺跡	南・唐橋平福町8、9-2	12/4	CL-0.52mで黄褐色粘質シルト、-0.57mで褐色粘質土の時期不明包層、-1.01mで黄褐色粗砂(確認)の時期不明包層、-1.14mで黒褐色粘質土、-1.4mで暗灰黄色粘質土(微砂混、有機物含)、-1.64～-2.12mで黄褐色砂礫。	18H861	HR 449	13
九条二坊五町跡、唐橋遺跡	南・唐橋大宮尻町20-1の一部、20-2の一部、20-5の一部、21-2の一部	10/10	-0.5～-0.6mで旧耕作上。	19H373	HR 345	13
九条二坊十二町跡	南・吉祥院清水町15-1	12/6	CL-0.4mまで盛上。	19H526	HR 453	13
九条三坊二町跡	南・吉祥院西ノ庄瀬ノ西町36、41、4-2	4/5・8	CL-0.34mで旧耕作上、-0.68mで黄灰色砂礫の地山、-1.3～-1.78mで暗灰黄色砂礫の地山。	18H862	HR006	12
九条三坊十・十五町跡	南・吉祥院前河原町26-2	10/8	GL-0.4mでオリーブ7褐色粘質土とふい黄褐色粘質土の旧耕作上、-0.62mで黄褐色粗砂(確認)の泥濘状堆積、-0.74mで灰黄褐色粘質土の地山、-0.86mで灰黄褐色粗砂の地山、-1.0mで褐色砂礫の地山、-1.58～-1.81mで明褐色砂礫の地山。	19H258	HR 342	12

太秦地区(UZ)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
経 横 遺 跡	右・経横大覚寺門前八軒町28-2地	4/19	CL-0.19～-0.59mで明黄褐色砂礫混粘質土。	18S798	UZ 033	24-2
経 横 遺 跡	右・経横中通町53-1	7/1・4	CL-0.21mで暗灰黄色泥砂、-0.42mで浅黄色泥砂、-0.57～-0.9mで褐色砂礫の地山。	19S175	UZ 151	24-2
経 横 遺 跡	右・経横天龍寺瀬戸川町7-6、30の一部	7/16・17・18、8/1・2	№1：GL-0.3mで黄褐色粘質土、-0.38～-0.92mで明黄褐色粘質土の地山を切ってふい黄褐色粘質土(黒褐色粘質土ブロック状)の時期不明土層。 №2：GL-0.21～-0.26mで明黄褐色シルトの地山を切って褐色泥砂の時期不明東西溝と褐色シルトの時期不明ビット、灰褐色シルトの時期不明ビット。	19S084	UZ 181	24-2
経 横 遺 跡	右・経横天龍寺若宮町8-2、9-1、10-7	7/22	CL-0.35mまで盛上。	18S725	UZ 195	24-2
経 横 遺 跡	右・経横小倉山堂ノ前町6-16、7-1、7-3	8/21、9/4・11・13・25・27、10/8・11・18	№1：GL-0.46mで黒褐色シルト、-0.56mで黒褐色シルト、-0.69mでふい黄褐色シルト、-0.77mで浅黄褐色粘質シルトの地山、-0.88mで灰白色シルト(確認)の地山、-1.34～-1.48mで灰白色砂礫の地山の地山。№5：GL-0.31mで黒色粘質土の時期不明包層、-0.55～-0.9mで明黄褐色粘質土の地山。	16S719	UZ 249	24-2
経 横 遺 跡	右・小倉山堂ノ前町12	10/16	GL-0.22mで黒褐色粗砂混シルトの時期不明包層。	19S366	UZ 356	24-2
経 横 遺 跡、宝輪寺境内、経横北堀町遺跡	右・経横北堀町1の一部、3-4	8/19・26	CL-0.28mで褐色泥砂、-0.46mで黄褐色シルト、-0.69～-1.0mでふい黄褐色砂礫。	19S162	UZ 242	24-2
経横折戸町遺跡	右・天龍寺油掛町2-2の一部	12/27	CL-1.0mまで盛上。	19S293	UZ 502	24-2
史跡・名勝嵐山	右・経横天龍寺芒ノ馬場町、経横柳田町、経横中ノ島町地先	8/5	GL-0.56mまで盛上。	30N085	UZ 224	24-2
史跡・名勝嵐山	右・経横天龍寺芒ノ馬場町3-48	8/26・29	№1：GL-0.2～-0.4mで黄褐色泥砂の室町包層。 №2：GL-1.4mで明黄褐色泥砂の室町整地層の可能性。	01N015	UZ 259	24-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
村ノ内町遺跡	右・常盤北裏町5-11, 5-12, 6-1	6/28	GL-0.4mまで盛上。	19S177	UZ 145	22
太秦馬塚町遺跡	右・太秦北路町10-14	4/9	GL-0.2mまで盛上。	18S694	UZ 015	22
太秦馬塚町遺跡	右・太秦中筋町12-8の一部, 12-9の一部	12/12・17	No 1 : GL-0.07mで黒褐色粘砂シルトの近世後期包層, -0.27mで黒褐色シルトを切って黒褐色粘砂シルトの時期不明土坑2基, その土坑に切られて黒褐色礫シルトの土坑, -0.53~-0.75mで黄褐色粘質シルトの地山, No 2 : GL-0.35mで暗オリーブ褐色シルト, -0.47mで黒褐色シルト, -0.57mで灰黄褐色シルトを切って黒褐色シルトにふい黄褐色粘砂ブロック面)の時期不明土坑, -0.82~-2.1mでふい黄褐色礫の地山。	19S510	UZ 471	22
太秦馬塚町遺跡	右・太秦宮ノ前町2の一部, 2-2の一部	9/30	GL-0.33~-0.69mで褐色シルトの地山を切って黒褐色シルトの時期不明露出。	19S331	UZ 316	22
法金剛院境内	右・花園野町34-6, 34-2	5/13・14	GL-0.19~-0.5mでふい黄褐色礫砂(礫少量露出)。	18S750	UZ 054	22
広隆寺旧境内	右・太秦西経町9-1他	7/2	GL-0.47mまで盛上。	19S071	UZ 156	22
広隆寺旧境内	右・太秦東経町1-2	6/18	GL-0.42mで黄褐色泥砂, -0.59mで暗褐色泥砂の平安中期包層, -0.82mでふい黄褐色礫の地山を切って黒褐色粘質シルト(炭澱)の平安前期土坑と暗褐色粘質シルトと黒褐色粘質シルトの時期不明土坑2基, -1.12mで黄褐色粘質シルトの地山, -1.45mで明黄褐色粘質シルトの地山。	19S095	UZ 125	22
広隆寺旧境内	右・太秦経町36	10/28・30	GL-0.65mまで盛上。	19S360	UZ 379	22
上ノ段町遺跡	右・太秦堀ヶ内町1-1, 1-6	7/22・23・26・30	No 2 : GL-0.47mで黄褐色粘質土の地山, -1.07~-1.60mでふい黄褐色礫の地山, No 3 : GL-0.4mで褐色泥砂(礫面), -0.58mで褐色粘質シルト(礫面), -0.74~-0.87mで黄褐色シルトの地山。	19S092	UZ 196	22
御所ノ内町遺跡	右・太秦御所ノ内町7-22	7/12・16	GL-0.28mでふい黄褐色粘質土(礫多量露出), -0.66~-1.13mでふい黄褐色礫の地山。	19S026	UZ 179	22
多敷町遺跡	右・太秦多敷町14-144	9/19~11/8	No 3 : GL-1.17~-1.24mで黄褐色泥土, No 4 : GL-0.71~-0.84mで黄褐色泥砂(炭澱)。	19S332	UZ 304	22
清水山古墳	右・太秦松木町7-22	11/22・25	GL-0.45mまで盛上。	19S472	UZ 420	22
梅津原町遺跡	右・梅津原町52-9の一部	6/28	GL-0.35mでふい黄褐色粘質土, -0.58~-0.7mで灰黄褐色礫の地山。	19S179	UZ 146	27-1

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
岩倉中在地遺跡	左・岩倉村松町 地内	7/10・12・16	GL-0.35mで灰白色砂礫, -0.75~-0.9mで明黄褐色砂礫の地山。	19S067	RH 174	27-4
岩倉中在地遺跡	左・岩倉村松町72, 76-1	11/5	GL-0.25~-0.36mで褐色シルトの地山。	19S300	RH 385	27-4
岩倉中在地遺跡	左・岩倉中在地町8-2	12/6	GL-0.5mまで盛上。	19S352	RH 454	27-4
上ノ庄田瓦窯跡	北・西賀茂下庄田町199-2	7/24	GL-0.47mで暗褐色粘質シルト, -0.65~-0.72mで褐色シルト。	19S172	RH 204	27-6
大深町須志窯跡	北・西賀茂南今原町 地先	6/4	GL-1.2mまで盛上。	19S061	RH 093	16-1
妙満寺裏庭窯跡	左・岩倉桶枝町594, 595	4/15	GL-0.42mで褐色粘質土(礫無し)。	18S761	RH 024	27-5
八幡古墳群	左・岩倉桶枝町565-14	11/18	GL-0.35mまで盛上。	19S423	RH 415	27-5
東桶枝遺跡	左・岩倉北池田町2-1	8/19	GL-0.4mまで盛上。	19S104	RH 245	27-5
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉桶枝町665-13, 667-5, 668-8, 668-12	7/9	GL-0.21mで明黄褐色砂礫の地山。	19S211	RH 171	27-5
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉桶枝町 地先	12/18	GL-0.9mまで盛上。	19S553	RH 486	27-5
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉桶枝町1234-1, 2787-2	12/3	GL-0.81mまで盛上。	19S464	RH 447	27-5
植物園北遺跡	北・上賀茂岡本町48の一部	12/24	GL-0.35mまで盛上。	19S391	RH 497	25-1
植物園北遺跡	北・上賀茂竹ヶ森町9	12/6	GL-0.35mまで盛上。	19S416	RH 455	25-1
植物園北遺跡	北・上賀茂鳥帽子ヶ内町53-1	12/9・10	GL-0.5~-0.8mでふい黄褐色シルト(礫大露出)。	19S502	RH 459	25-1
植物園北遺跡	北・上賀茂石計町30	9/12	GL-0.2~-0.3mで旧耕作土。	19S236	RH 288	25-1

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
植物園北道跡	北・上賀茂荒草町72, 73	7/17	GL-0.23mで灰黄褐色粘質土の時期不明包含層。 -0.47mで明黄褐色粘質土、-0.89～-1.53mで灰黄褐色砂礫の地山。	19S150	RH 183	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂桜井町73, 79	9/25	GL-0.6mで旧耕作上、-0.7mで灰黄褐色粘質土、 -0.84～-1.0mで明黄褐色粘質土の地山。	19S276	RH 309	25-1
植物園北道跡	北・上賀茂桜井町21-1	8/27～9/3	CL-1.6mまで盛上。	19S325	RH 255	25-1
植物園北道跡	左・松ヶ崎芝木町20.5, 20.6, 20.7	5/13・14・ 15・16	GL-0.38mで黒褐色泥砂、-0.61mで黄褐色シルト の地山、-1.07～-3.24mで暗灰黄色砂礫の地山。	18S775	RH 056	25-1
植物園北道跡	左・下鴨夜光町7-1	5/20・21	GL-0.18mで暗褐色粗砂混シルトの時期不明包含層。	18S841	RH 074	25-1
植物園北道跡	左・下鴨森ヶ畑内町33の一部、下鴨 北園町6-2, 6-3の各一部	12/19	GL-0.34mまで盛上。	18S324	RH 492	25-1
植物園北道跡	左・下鴨北園町13	10/16・17	GL-0.03mで旧耕作上、-0.1mで褐色細砂混シルト の地山を切って黒褐色シルトの時期不明土坑。 その土坑の底面で黒褐色粗砂混シルトのピット と黒褐色シルト(褐色細砂混シルトのブロック割) の土坑、-0.19～-0.42mで暗褐色砂礫の地山。	19S443	RH 357	25-1
史跡賀茂御 祖神社境内	左・下鴨泉川町59, 61	4/23	GL-0.45mまで盛上。	01C002	RH 202	17-2
史跡賀茂御 祖神社境内	左・下鴨泉川町59	8/2	GL-0.38mまで盛上。	30N117	RH 220	17-2
史跡賀茂御 祖神社境内	左・下鴨泉川町59	4/23	GL-0.4mまで盛上。	01C002	RH 038	17-2
御上屋跡	北・鷹家田上屋町1-104	11/8	CL-0.45mまで盛上。	19S471	RH 396	16-2
御上屋跡	北・小山上総町22, 22-1	6/10・11	GL-0.14～-0.45mで黄褐色シルトの地山を切っ て黄褐色砂礫の氈蓋状堆積。	18S604	RH 108	17-3
上京道跡、 寺ノ内旧域	上・大宮通寺ノ内上二丁目仲之町 484, 486	9/27, 10/1	CL-0.52mで暗褐色粘質土(炭澁)、-0.66mで黒褐 色泥(5～10cm大礫多量)の中世包含層、-0.97～ -1.26mで褐色砂礫の地山。	19S289	RH 313	16-3・ 17-3
上京道跡、 寺ノ内旧域	上・寺之内通堀川西入東西町408-1	7/1	GL-1.2mまで盛上。	19S194	RH 152	17-3
上京道跡、 寺ノ内旧域	上・立上立通小川東入澗水町527	4/22・23, 5/15・16・ 20	№1: GL-0.64～-0.93mで黒褐色泥砂の時期不明 包含層。№2: GL-0.48～-0.71mで暗灰黄色泥砂 (小礫含)。	18S792	RH 035	17-3
上京道跡、 相国寺旧域内	上・上御室新道室町東入内横町428	6/12・13・ 14・17・ 19・20・25	GL-1.39～-1.9mで黒色シルトの地山を切って黄 褐色シルトの時期不明土坑。その土坑を切って 褐色泥砂(澁澁)のピット。	19S033	RH 111	17-3
上京道跡	上・大宮通寺之内半丁下る東入二 丁目大北小路東町468-2	10/10	-0.65～-1.07mで黄褐色砂礫の地山。	19S394	RH 346	17-3
上京道跡	上・今出川通寺町西入上る柳屋岡町 184-2, 184-3, 184-4	11/25	GL-0.38mで褐色泥砂(塊上、炭多量含)、-0.49m で褐色泥砂(堅く締まる)、-0.67～-0.94mで褐 色泥砂の時期不明包含層。	19S539	RH 427	17-3
上京道跡	上・今出川通大宮東入元伊伎町265-1	4/15・16	GL-0.8mまで盛上。	18S657	RH 027	17-3
上京道跡	上・元賀願寺通油小路西入中之町 463-2, 東堀川通今出川下る東入西 今町386, 小川通今出川下る西入東 今町381	4/8・22・ 23・24, 5/7	GL-0.91mで暗褐色泥砂の時期不明包含層。 -1.34～-1.56mで褐色泥砂(澁澁)の地山。	18S162	RH 012	17-3
上京道跡	上・南堀町通一条上る清輝町828	6/18	GL-1.02mまで盛上。	19S123	RH 126	17-3
寺町旧域	上・寺町通今出川上る表町18-1, 18-2	4/25・26, 5/8	GL-0.7mでにぶい黄褐色泥砂(塊上含)、-0.95～ -1.12mで灰黄褐色砂泥(澁澁)の時期不明包含層。	18S813	RH 043	17-3
寺町旧域	上・三方町131, 二神町168, 一真 町67-3	10/1・8	GL-0.97mで暗褐色泥砂(炭澁)の時期不明包含層。 -1.36mでにぶい黄褐色粗砂、-1.63～-2.55mで にぶい黄褐色砂礫。	19S291	RH 319	17-3
寺町旧域	上・中高通石茶師下る新友町377-1	7/3	GL-0.3mまで盛上。	19S124	RH 161	17-3
大徳寺旧域内	北・薬野大徳寺町103-3, 98-2	5/13	CL-0.55mまで盛上。	19S002	RH 055	16-3
鹿苑寺 旧域内(北殿) 合地	北・金園寺町1, 大北山不動山町2	9/3・4	GL-0.37～-0.76mで褐色シルトの地山。	19S280	RH 269	16-3
薬野斎院跡	上・大宮通西裏山寺上る二丁目聖 社南平町233	10/17	GL-0.7～-0.8mで暗オリーブ褐色粗砂混シルトの 近世包含層。	19S438	RH 361	16-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北野遺跡	北・平野宮本町5, 6	10/24・28	№1 ; GL-0.07mで黒色泥砂の平安中期包含層、-0.19mでオリーブ褐色砂礫の地山、-0.45mで暗オリーブ褐色砂礫の地山、-0.8～-0.96mで黄色シルト(上面区分以前の)地山。№2 ; GL-0.04mで黄褐色砂礫の地山を切って黒色泥砂の時期不明土坑、-0.51～-1.08mで黄色砂礫の地山。	19S030	RH 372	16-3
北野遺跡, 舞土屋跡	上・今小路通御前西入紙屋川町1049-23の一部(南側)	7/8	GL-0.5mまで盛上。	19S232	RH 166	16-3
北野廃寺, 北野遺跡	北・北野下白梅町15-2	8/29	GL-0.32mまで盛上。	19S299	RH 265	16-3
北野廃寺, 北野遺跡	北・北野下白梅町55-1の一部	9/10	GL-0.29mまで盛上。	19S310	RH 278	16-3

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北白川追分町縄文遺跡, 北白川追分町遺跡, 追分町古墳群, 吉田上大路町遺跡	左・北白川追分町～北白川西町地先	7/22～29, 8/2～23, 9/3～25	GL-0.4mで黒色砂質土、-0.6mでにぶい黄褐色微砂、-0.85mで明黄褐色粗砂の地山。	19S254	KS 197	23
北白川追分町縄文遺跡, 北白川追分町遺跡, 追分町古墳群, 吉田上大路町遺跡	左・北白川追分町1	8/27	GL-0.35mまで盛上。	19S359	KS 256	23
北白川追分町縄文遺跡, 北白川追分町遺跡, 追分町古墳群, 吉田上大路町遺跡	左・北白川追分町地内	9/24・25, 10/1	GL-0.45～-0.7mで黄褐色細砂(粘まり有)。	19S381	KS 308	23
池田町古墳群	左・北白川下池田町102-7	5/9	GL-0.2mまで盛上。	18S698	KS 050	23
池田町古墳群	左・北白川上池田町地先	6/24・25	GL-0.65～-0.75mで暗黄色細砂の地山。	19S207	KS 138	23
田中構え跡	左・田中里ノ内町1, 2, 3, 4, 5-1	7/9・10・12・16, 8/1	GL-0.6mで褐灰色砂質土の時期不明包含層、-0.87mで灰黄色粗砂(シルト混)、-1.21mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	19S116	KS 172	23
吉田泉殿町遺跡	左・吉田牛ノ宮町25-7, 25-12	10/24・28	GL-0.57mでにぶい黄色微砂、-1.04～-1.47mで褐色砂礫。	19S356	KS 375	23
聖護院川原町遺跡	左・聖護院川原町54地先(京大病院前北行)	6/14	GL-0.15mで黒褐色砂質土(植物根多量含)、-0.6mでにぶい黄色細砂を切って灰黄褐色細砂の上坑、-1.2mで明黄褐色砂礫地の地山。	18S836	KS 116	23
吉田上大路町遺跡, 吉田二本松町遺跡	左・吉田二本松町55	5/7	GL-0.45mまで盛上。	18S875	KS 045	23
吉田上大路町遺跡, 白河街区跡	左・吉田近衛町26-53 他	7/30, 8/7	№3 ; GL-0.26～-0.59mでにぶい黄褐色砂礫の近世泥炭状堆積。№6 ; GL-0.63mで灰オリーブ色泥砂、-0.7mでオリーブ黒色砂泥、-0.72mで黄色粗砂。発掘調査前の詳細分布調査。	18S777	KS 214	23
白河街区跡	左・新東洞院仁王門上る新東洞院町252	11/11, 12/18	GL-0.5mまで盛上。	19S324	KS 400	23
白河街区跡	左・聖護院山王町16-20	12/27	GL-0.55mまで盛上。	19S638	KS 503	23

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
白河街区跡	左・仁王門通新高倉東入北門前町475-1, 475-2	8/6・8・9・13・21・23	No 1: GL-0.5mで灰黄色細砂の地山を切ってオリープ褐色泥砂の時期不明層。-1.1mの落込部で暗灰黄色泥砂(細砂混)の時期不明ピット、-1.2~-1.85mでふい黄色砂礫の地山。No 2: GL-0.3mで灰黄色砂混、-0.47mで灰オリープ色シルトの地山を切って灰黄色泥砂の平安後期土坑、-0.95mで灰白色細砂・粗砂の地山、-1.28~-1.76mでふい黄色砂礫の地山。No 3: GL-0.54mで暗灰黄色泥砂の平安末期~鎌倉初期の包含層、-0.84mで灰黄色粗砂の地山、-1.3~-1.83mでふい黄色粘質土の地山。	19S155	KS 229	23
白河街区跡、岡崎道跡	左・岡崎門勝寺町91-5, 91-78	4/12・16	GL-0.5mで灰色シルトの河川堆積、-1.33~-2.67mで浅黄色粗砂の河川堆積。	18S673	KS 017	23
白河北院跡、白河街区跡	左・東丸太町	8/19	GL-0.85mまで盛上。	19R253	KS 243	23
白河南院跡、白河街区跡	左・石原町地先	8/29	巡回時間終了。	19R287	KS 262	23
白河南院跡、白河街区跡	左・川端道より六筋東夷川上る秋葉町251	12/16	GL-0.49~-0.56mで明黄褐色粗砂。	19R426	KS 477	23
白河南院跡、得長寿院跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・聖護院蓮華蔵町他地内	7/29・31, 8/2	GL-0.8mまで盛上。	19R080	KS 213	23
得長寿院跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・岡崎徳成町1-3, 2-3, 2の一部分、3の一部分、3-2の一部分	5/13	GL-0.55mまで盛上。	18R746	KS 057	23
延勝寺跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・岡崎成勝寺町地内	9/3・5	平安の簡略文字平瓦が出土。 本報告27ページ。	19R390	KS 271	23
尊勝寺跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・聖護院円頓美町46-2	12/4	GL-0.34~-0.39mで黒色泥砂の時期不明包含層。	19R506	KS 450	23
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・岡崎法勝寺町岡崎公園内	6/7	巡回時間終了。	17R760	KS 105	23
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・岡崎天王町地先	7/1・2・3・5・8・12	GL-0.32~-1.55mで明黄褐色泥砂の近世包含層。	19R206	KS 153	23
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・岡崎法勝寺町114-3	8/29	GL-0.2mまで盛上。	19R202	KS 266	23
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・岡崎南御所町3-3	9/18	GL-0.2mで黒褐色粘土の京町包含層、-0.35mでオリープ褐色泥砂の平安包含層、-0.45mで黒色シルト。	19R364	KS 301	23
法勝寺跡、白河街区跡、岡崎道跡	左・岡崎法勝寺町62-3	12/26	巡回時間終了。	19R415	KS 499	23
神楽岡城跡	左・吉田下大路町63-1, 64, 59, 59-3, 59-4	4/15	GL-0.72mでふい褐色粘質土、-1.08~-1.3mで褐色粘質土(固く締まる)の地山。	18S743	KS 029	23
史跡南禅寺境内一乗寺西浦畑町道跡	左・南禅寺福地町86-13	12/11	GL-0.35mまで盛上。	01C082	KS 468	23
畑町道跡	左・一乗寺西浦畑町地先	6/17~27, 8/14, 10/1	GL-0.5~-1.3mで浅黄色細砂の地山。	19S193	KS 118	27.7
法興院跡	中・河原町通二条上る清水町341	8/5・13・20・26	GL-0.84mで褐色粘土の近世包含層、-1.04mでふい黄色泥砂の時期不明包含層、-1.23mで灰黄色砂礫の泥蓋堆積。	19S237	KS 225	27.8

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八坂神社	東・四条通大和大路東入堀岡町南側508, 509-1, 509-3	7/17・23・29	GL-0.98~-1.22mでふい黄褐色泥砂の鎌倉包含層。	19S146	RT 184	21
六波羅政庁跡	東・本町一丁目42, 42-2, 45, 47, 堀町通五条下る堀町一丁目398-1, 400, 402, 402-2, 409	10/7・10	GL-0.54mで黄褐色シルト混砂礫を切って灰黄褐色粗砂混シルトの時期不明層。0.81~-1.39mでふい黄色砂礫~雑砂の地山。	19S252	RT 338	21
六波羅政庁跡	東・大黒町通松原下北御門西256	10/18・30	巡回時間終了。	19S333	RT 363	21

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
法住寺殿跡、六波羅政庁跡	東・妙法院前町424-2	7/2	GL-1.31mまで盛上。	18S691	RT 157	21
法住寺殿跡、六波羅政庁跡	東・正面町296～茶屋町513-1	9/24、10/3～17	GL-1.58～1.8mで明黄褐色粗砂混土質シルト。	19S279	RT 306	21
法住寺殿跡	東・大仏南門通大和路東入三丁目本瓦町672-6	4/22・23・24	GL-1.42～1.68mで黄灰色粘土の近世包合層。	18S830	RT 036	21
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り656	6/11、7/1・5	GL-0.6mまで盛上。	19S058	RT 110	21
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り657(蓮華院三十三間堂境内)	10/16	№1: GL-0.72mで黄褐色微砂混シルトの地山、-0.99～-1.38mで暗灰色粗砂混シルトの地山、 №2: GL-0.38mで暗褐色粗砂混シルト、-0.79mで黒褐色細砂混シルト(軟固)、-1.19～-1.28mで黄灰色砂礫。	19S448	RT 358	21
東山松原経塚	東・清水二丁目204-2他	5/20・27	GL-0.73～0.92mで明黄褐色砂礫の地山。	19S105	RT 073	21
如意寺跡、西谷遺跡	山・御陵安祥寺町 安祥寺山固有林	9/6・17	遺構、遺物は検出できず。	19S186	RT 267	28-1
法性寺跡	東・福福上高杉町60	8/26、11/20	GL-0.99mまで盛上。	19S282	RT 244	28-2
日ノ岡堤谷須恵器窯跡	山・日ノ岡堤谷町75-25の一部	11/13	GL-0.3mまで盛上。	19S520	RT 405	28-4
安朱遺跡	山・上野御所ノ内町7-38、39、54	6/18	GL-0.8～0.9mで暗褐色泥砂(硬固)。	19S018	RT 127	28-5
安朱遺跡	山・御陵島ノ内町20-1の一部	12/13	GL-0.12～0.41mで黄灰色泥砂とオリーブ黄色泥砂の旧耕作上。	19S496	RT 474	28-5
山科本願寺跡(寺内町遺跡)	山・西野山舘町39-39	10/1	GL-0.55mまで盛上。	19S328	RT 320	28-6
山科本願寺跡(寺内町遺跡)、左義長町遺跡	山・西野宮町40、山舘町1-2	10/8	GL-0.7mまで盛上。	19S345	RT 344	28-6
山科本願寺南院跡	山・音羽伊勢町32-30、32-82	5/17	GL-0.22mまで盛上。	18S286	RT 062	28-7
中區遺跡	山・東野舞台町48-6	4/8	GL-0.2mまで盛上。	18N790	RT 013	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町48-14	4/12	GL-0.8mまで盛上。	18N827	RT 021	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町47-10	5/17	GL-0.25mまで盛上。	19N091	RT 063	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町48-11	6/5	GL-0.25mまで盛上。	19N140	RT 097	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町	6/17	GL-0.95mまで盛上。	19N181	RT 119	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町47-9	7/17	GL-0.4mまで盛上。	19N129	RT 182	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町48-12	7/23	GL-0.15mまで盛上。	19N239	RT 201	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町47-15	8/8	GL-0.35mまで盛上。	19N277	RT 232	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町47-14	9/2	GL-0.25mまで盛上。	19N379	RT 270	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町47-13	10/2	GL-0.45mまで盛上。	19N403	RT 325	25-2
中區遺跡	山・東野舞台町47-18	12/10	GL-0.1mまで盛上。	19N542	RT 463	25-2
中區遺跡	山・栗柄野打越町 地先	5/22	GL-0.35mで黒褐色シルト、-0.5mで暗褐色シルト、-0.7mで褐色シルトの地山。	19N133	RT 064	25-2
中區遺跡	山・西野山中区町26-20	12/26	GL-0.41mまで盛上。	19N294	RT 500	25-2
中區遺跡	山・西野山中区町171	9/11	GL-0.3mまで盛上。	19N188	RT 282	25-2
中區遺跡	山・勤修寺西栗柄野町302	4/11	GL-0.2mまで盛上。	18N852	RT 019	25-2
中區遺跡	山・勤修寺西栗柄野町270	4/12	GL-0.2mまで盛上。	18N309	RT 020	25-2
中區遺跡	山・勤修寺西栗柄野町299	8/20	GL-0.33mまで盛上。	19N271	RT 246	25-2
中區遺跡	山・勤修寺東栗柄野町13-15	8/9	GL-0.48～0.53mで浅黄色泥砂。	19N295	RT 234	25-2
中區遺跡	山・勤修寺東栗柄野町11-4	7/26、8/2	GL-0.35mまで盛上。	19N223	RT 208	25-2
中區遺跡	山・柳辻番所ヶ口町155	7/3	GL-0.25mまで盛上。	19N213	RT 162	25-2
中區遺跡	山・勤修寺西金ヶ崎439	7/26	GL-0.54mまで盛上。	19N136	RT 211	25-2
中區遺跡	山・勤修寺東金ヶ崎町91	9/25	GL-0.4mまで盛上。	19N372	RT 310	25-2
史跡隨心院境内	山・小野御堂町44-19	11/26	GL-0.08～0.16mで褐色シルトの近世以降包合層。	01N033	RT 430	25-3

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
正覚寺跡	伏・深草正覚町7-3, 32-8の各一部	5/14～8/14	GL-0.9mまで盛上。	185879	FD 059	26-1
伏見稲荷大社境内	伏・深草稲荷御前町67-1, 67-2, 深草藪之内町67-2	12/2・9	GL-0.58mで黄灰色泥砂の時期不明包含層, -0.71～-1.56mで灰白色粗砂の地山。	195283	FD 442	26-1
伏見稲荷大社境内	伏・深草藪之内町68	8/20, 11/18・21	№2: GL-0.92mで褐色砂質土の江戸川降包含層, -1.08mでいぶろ色砂質土の江戸川降包含層, -1.1mで褐色シルトの時期不明包含層を切つてにぶろ黄褐色泥砂の江戸川上土, -1.3～-3.07mで褐色シルト～細砂(固く締まる)の地山。№3: GL-1.41mで褐色泥砂の時期不明包含層, -1.83mで灰黄色シルトの地山, -2.06～-3.45mで明黄褐色粗砂(固く締まる)の地山。	195265	FD 247	26-1
伏見稲荷大社境内	伏・深草藪之内町28の一部, 28-2	12/3	GL-0.08mでいぶろ黄褐色泥砂の地山, -0.18mで黄褐色泥砂の地山, -0.39～-0.62mでいぶろ黄褐色砂礫の地山。	195475	FD 443	26-1
深草坊町遺跡	伏・深草真宗院山町1-14	12/9・10	GL-0.25mまで盛上。	195575	FD 461	26-1
深草坊町遺跡	伏・深草真宗院山町1-11	12/9	GL-0.35mまで盛上。	195574	FD 460	26-1
道灌寺境内	伏・深草直道植五丁目322-1	11/20	巡回時期終了。	195031	FD 226	28-8
嘉祥寺跡	伏・深草瓦町75-1, 80-1	5/15	GL-1.3mまで盛上。	185840	FD 060	28-8
伏見城跡	伏・両替町十一丁目259-2	4/24	GL-0.55mまで盛上。	19F024	FD 040	14
伏見城跡	伏・深草大龜谷安信町41	4/15～5/27	GL-0.12～-2.09mで灰色泥礫粘上。	18F848	FD 022	15
伏見城跡	伏・遊舟町一丁目360-1, 360-2	6/5	GL-0.5mまで盛上。	19F076	FD 098	14
伏見城跡	伏・桃山町三河54-7	7/5	GL-0.25mまで盛上。	19F042	FD 165	15
伏見城跡	伏・桃山岡井伊賀東町47-35	7/8	GL-0.29～-0.56mで褐色粗砂と明黄褐色砂礫の伏見城明成上。	19F081	FD 167	14・15
伏見城跡	伏・西大寺町地先	7/8～17	GL-0.95mまで盛上。	19F208	FD 168	14
伏見城跡	伏・桃山羽楽長吉中町53	7/10・23・24・25	GL-0.61mで褐色泥砂(黄土・炭化物少量含), 0.96～-1.58mで明黄褐色シルトの地山。	19F085	FD 175	14
伏見城跡	伏・桃山岡井伊賀東町46	8/27	巡回時期終了。	19F074	FD 257	14
伏見城跡	伏・納屋町118, 151-14, 平野町75	9/12	GL-0.45mで黄色粗砂, -1.25～-1.28mで灰色泥砂の湿地状堆積。	18F133	FD 289	14
伏見城跡	伏・桃山町三河59-2, 59-3	9/30	GL-0.79mで褐色砂礫の伏見城明成地層, -0.93mで暗褐色泥礫シルトの伏見城明成地層, -1.01mで褐色粗砂混シルトの伏見城明成地層, -1.13mで黄褐色粗砂混シルトの伏見城明成地層。	19F404	FD 317	15
伏見城跡	伏・両替町四丁目299	10/1	GL-0.73mで明赤褐色粘質土, -0.96mで暗灰黄色粘質土(粘性強), -1.51mで黄褐色砂礫の地山。	18F723	FD 321	14
伏見城跡	伏・京町九丁目56, 57	10/4	GL-0.55mまで盛上。	19F346	FD 333	14
伏見城跡	伏・深草大龜谷五郎太町37	11/6・26	GL-1.95mまで盛上。	19F446	FD 392	15
伏見城跡	伏・桃山毛利長門東町34-57	12/6	GL-0.39mで褐色泥砂(粘性有)の伏見城明成上。	19F453	FD 456	14・15
伏見城跡	伏・桃山町丹下9-4の一部, 9-8	12/18・24	GL-0.73mで灰黄褐色泥砂, -1.26mでいぶろ黄褐色砂泥, -1.48mで浅灰色砂泥, -1.56～-1.61mでいぶろ黄褐色泥砂の時期不明包含層。	19F445	FD 487	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町泰老長83-5	10/3・4	平安末期～鎌倉の土坑を検出。本報告29ページ。	19F349	FD 330	14・15
伏見城跡、木幡ノ関跡	伏・桃山紅雪町91-1, 138, 139	4/15, 5/13～30	GL-1.94mで灰白色泥砂(固く締まる)。	18F536	FD 026	15
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町14	11/19	GL-0.19mまで盛上。	01N008	FD 417	25-3
法界寺旧境内	伏・日野畑出町1-1	7/22	GL-0.26mで黄褐色シルト, -0.79mで明黄褐色シルト, -1.19～-1.78mで明黄褐色粘質土(岩盤片混)の地山。	195136	FD 192	29-1

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・吉祥院定成町23-1	7/1・2・4	GL-0.77mで黒褐色粘質シルト、-1.04mで黒褐色砂質シルト、-1.44mで黒褐色粘質シルト、-1.65mで黄褐色砂礫の地山。	19S144	TB 154	29-2
御土居跡	南・西九条島54-1の一部、54-2、54-3の一部	9/27	GL-1.98～-2.68mでぶい黄色細砂礫の地山。	18S823	TB 314	29-3
深草遺跡	伏・深草崎森町31-1	10/29、 11/1・5・6	先生の遺構を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告令和元年度』に報告。	19S173	TB 380	26-1
深草遺跡	伏・深草町通町20、20-2	6/24、7/2	GL-0.47～-0.6mで灰色砂泥。	19S043	TB 139	26-1
深草遺跡	伏・深草町通町26-4	6/20	GL-1.72～-1.9mで黄灰色粘土の地山。	18S786	TB 132	26-1
鳥羽離宮跡、鳥羽道跡、竹田城跡	伏・竹田中内畑町18、19、20	11/14・15	GL-0.5mまで盛上。調査は事前の試掘調査で検出した道構の保存確認のため。	19T229	TB 409	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽道跡、竹田城跡	伏・竹田中内畑町22、23、25	10/3・4・7	GL-0.35mで黒褐色細砂質シルト、-0.43～-0.88mで褐色粗砂質シルトの中世包合層。調査は事前の試掘調査で検出した道構の保存確認のため。	18T561	TB 329	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽道跡	伏・竹田真幡本町148 地内	8/22	巡回時掘削終了。	19T285	TB 250	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽道跡	伏・竹田西内畑町 地内	8/29	GL-0.71mまで盛上。	19T286	TB 263	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽道跡	伏・竹田西小屋ノ内町34、35、36、37	8/27	GL-0.68mで黄灰色粗砂(炭化物含)、-0.97～-1.35mで浅黄色シルト。	19T060	TB 258	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽道跡	伏・竹田西小屋ノ内町 地先	11/26	GL-0.6～-1.36mでオリブ褐色粘質シルト。	19T515	TB 432	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽道跡	伏・中島鳥羽離宮町10	7/2	GL-0.09mでぶい黄色シルト、-0.22～-0.33mで灰黄色シルト。	19T222	TB 158	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽道跡	伏・中島中道町 地先	7/4	GL-0.56mでオリブ黒色粘質土の耕作土、-0.68～-0.74mで灰色粘質土の耕作土。	19T199	TB 164	24-1
鳥羽離宮跡、鳥羽道跡	伏・中島中道町20 地先	6/21	GL-1.0mまで盛上。	19T093	TB 134	24-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田西橋ノ井町90	4/2	GL-0.3mまで盛上。	18T847	TB 002	24-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田中宮町20、21、22、23、24、25、26、27、28、29	12/9	GL-0.7mまで盛上。	19T576	TB 462	24-1
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町 地内	6/12	GL-0.8mまで盛上。	19T004	TB 112	24-1
鳥羽離宮跡	伏・中島河原町96-1	5/22	GL-1.0mまで盛上。	19T126	TB 065	24-1
下鳥羽道跡	伏・竹田松林町55	11/1	GL-0.88mで旧耕作土、-1.23mでぶい黄褐色シルト～細砂(鉄分沈着)の地山、-1.42～-1.73mで褐色砂礫の地山。	19S326	TB 382	14・24-1
下鳥羽道跡	伏・竹田松林町56の一部	10/15	GL-0.34mまで盛上。	19S436	TB 353	14・24-1
下三新橋跡	伏・横大路下三新橋ノ前町2-7の一部、2-8	8/22	GL-0.58mまで盛上。	19S321	TB 251	14
淀城跡	伏・淀池上町174-54の一部(A号地)	6/5	GL-0.2mまで盛上。	18S734	TB 099	20
淀城跡	伏・淀木津町186-1	4/17	GL-0.61mで灰黄褐色粘質土(炭化物少量含)を切っただぶい黄褐色粘質土の近世以降土坑、-0.75mでぶい黄褐色粘質土(炭化物含)の時期不明整地層を切った褐色粘質シルトと灰黄色粘質シルトの近世土坑(土師器、施輪陶器、軒平瓦、円筒状に瓦を据える)。-1.09～-1.42mでぶい黄褐色微砂の地山。	18S252	TB 031	20
淀城跡	伏・淀下津町140-1、140-4、140-5、140-6	11/12	GL-2.4mまで盛上。	19S001	TB 404	20
淀城跡	伏・淀新町124-29	11/28	GL-0.3mまで盛上。	19S536	TB 436	20
淀城跡	伏・淀新町124-27 (22号地)	12/17	GL-0.3mまで盛上。	19S527	TB 482	20
淀城跡	伏・淀新町124-16 (15号地)	12/17	GL-0.3mまで盛上。	19S578	TB 483	20

長岡京地区(NG)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
左 京						
北辺三坊三町跡、 東 院 跡	南・久世殿城町311-4 地先	11/11	GL-0.8～1.0mで明黄褐色粘質シルトの地山。	19NG256	NG 401	18-3
北辺四坊四・ 五・十二町跡	南・久世大蔵町～久世薬山町18町	4/10～6/21	GL-1.4mまで盛上。	18NG770	NG 016	18-3
北辺四坊六町跡	南・久世薬山町239-3	9/10・11	GL-0.78mで旧耕作上。-0.91～-1.02mで明黄褐色粘質シルトの地山。	19NG036	NG 276	18-3
二条三坊十一町跡、 龜 冠 井 道 跡	南・久世東上川町217	8/5	GL-0.31mまで盛上。	18NG517	NG 227	19
二 条 四 坊 五・十二町跡	伏・久我西出町1-6	9/10・19、 10/16	GL-0.91mで暗灰黄色粘土質シルト。-1.36mで褐色粘土質シルトの地山。-2.14mで灰色粘土質シルトの地山。-3.08mでオリーブ黒色砂礫の地山。	19NG013	NG 277	19
三 条 四 坊 一・ 二・七・八町跡	伏・久我西出町5-18、5-19、6-10、 6-11、6-12、6-13、6-15、6-16、 6-17、6-18、6-20、6-21	4/11・12・ 16・18・24・ 26、5/9	№4：GL-0.2mで黄灰色シルト。-0.43mでぶい黄褐色シルト。-0.57～-0.83mで褐色シルト。 №7：GL-0.71～1.22mで浅黄色粘土の地山を切ってオリーブ黒色粘土の時期不明河川堆積	19NG010	NG 018	19
三 条 四 坊 二 町 跡	伏・久我西出町6-20他	10/16	GL-1.27mで旧耕作上。-0.36～-1.4mで暗褐色粗砂粘土質シルト(マンガン含)。	19NG062	NG 360	19
四 条 三 坊 十 二 町 跡	伏・羽束師麓川町90、96	5/31	GL-1.0mまで盛上。	18NG856	NG 085	19
四 条 三 坊 十 三 町 跡、 羽束師麓川城跡	伏・羽束師麓川町43-7	8/2	GL-0.05mまで盛上。	19NG251	NG 219	19
四 条 三 坊 十 四 町 跡	伏・羽束師麓川町537-27	9/11	GL-0.2mまで盛上。	19NG292	NG 283	19
四 条 三 坊 十 五 町 跡	伏・羽束師麓川町537-59	11/26	GL-0.3mまで盛上。	19NG485	NG 431	19
六 条 四 坊 五 町 跡	伏・羽束師古川町647	12/5・12	GL-1.15mで黄灰色粘質シルトの耕作上。-1.29mで黄褐色砂質シルト(炭酸)、-1.42mで黄褐色シルト。-1.66mで明黄褐色シルトを切ってオリーブ褐色シルト(炭酸)の土坑。その土坑を切って明黄褐色シルトの土坑。-1.88～-2.71mでオリーブ褐色シルトの地山。	19NG465	NG 451	19
八 条 三 坊 九 町 跡、 水 垂 道 跡	伏・澁水垂町	4/26	GL-0.8mまで盛上。	18NG806	NG 044	20
八 条 四 坊 十 一 町 跡	伏・納所中河原21の一部、納所岸ノ 下2-40の一部	12/17	GL-2.12mまで盛上。	19NG521	NG 484	20
九 条 三 坊 十 四 町 跡	伏・納所町98-1、103、納所妙徳寺 21-1、22	10/15	GL-0.57mまで盛上。	19NG340	NG 354	20
九 条 四 坊 二・七・ 十・十五町跡	伏・納所下野地 地内	4/16、7/8・ 29、10/15	GL-1.15～1.8mで緑灰色粘質シルト。	18NG221	NG 030	20
九 条 四 坊 三 町 跡	伏・納所薬師堂27-306の一部	10/16・24	GL-1.5mで明オリーブ灰色粘土の耕作上。-1.64～ -1.79mで灰色粘土の湿地状堆積。	18NG719	NG 359	20

南桂川地区(MK)

道 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山、 法 輪 寺 境 内 内	西・嵐山中尾下町42-26	5/22	顕著な道構、遺物なし。	01N002	MK066	26-2
史跡・名勝嵐山	西・嵐山東一川町8-1	6/6	GL-0.56mで旧耕作上。-0.74～-0.9mでぶい黄褐色粗砂礫シルトの泥濘堆積。	01N003	MK103	26-2
史跡・名勝嵐山	西・嵐山山田町5-19、5-21	11/22	№1：GL-0.81～-0.96mで褐色泥砂の時期不明 包含層。№2：GL-0.19～-0.31mで浅黄色砂礫 の地山。	01N039	MK422	26-2
史跡・名勝嵐山、 嵐山谷々辻子町道跡	西・嵐山東海道町2-1、2-55、2-56、 64-3	6/4	GL-0.2mまで盛上。	01C013	MK094	26-2
史跡・名勝嵐山、 嵐山谷々辻子町道跡	西・嵐山東海道町52-5	6/3	GL-0.4mまで盛上。	01C012	MK091	26-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
松尾山古墳群、 松尾山寺跡、 史跡・名勝嵐山 草 嶋 館 跡	西・松尾谷松地山町	11/15	古墳一基を発見。	19A007	MK412	26- 2・4
	西・川島玉頭町12の一部	10/7	GL-0.07mでオリブ褐色細砂混シルト、0.17～ -0.38mで深い黄褐色細砂混シルトの時期不明 包含層。	19S411	MK340	18.1
榎原道跡	西・榎原杉原町2-23	8/9・16	GL0.34mまで盛上。	19S259	MK235	29.4
榎原道跡	西・榎原杉原町2-24	7/3	GL0.25mまで盛上。	19S169	MK163	29.4
榎原道跡	西・榎原杉原町2-22(2号地)	4/5	巡回時掘削終了。	19S008	MK008	29.4
榎原道跡	西・榎原杉原町2-26(7号地)	6/3・4	GL0.23～0.46mで褐色細砂混シルト。	19S135	MK092	29.4
榎原道跡	西・榎原杉原町2-21(1号地)	4/5	GL0.45mまで盛上。	19S007	MK007	29.4
榎原道跡	西・榎原塚ノ本町～榎原岡南ノ庄 地先	10/2・4・ 9	GL0.35mで明黄褐色砂泥の地山、-0.6mで暗灰 黄色粗砂の地山、-0.68～-1.77mで明黄褐色砂 泥の地山。	19S425	MK328	29.4
榎原道跡	西・榎原前田町7-2、7-3	6/3	GL0.41mで旧耕作土、-0.56～-0.7mで黒褐色 細砂混シルトの時期不明包含層。	19S027	MK090	29.4
福西古墳群	西・大枝東長町1-694の一部(北棟)	6/26	GL0.16mまで盛上。	18S613	MK143	26.3
福西古墳群	西・大枝東長町地先	6/25～7/2	GL0.6～-0.8mで明黄褐色粘質土の地山。	19S170	MK141	26.3
福西古墳群	西・大枝東長町1-694の一部	6/24	GL0.83～-0.88mで明黄褐色砂泥の地山。	18S612	MK140	26.3
福西古墳群	西・大枝東長町1-41の一部	9/17	GL0.45mまで盛上。	19S205	MK295	26.3
福西古墳群	西・大枝東長町1-41の一部	9/17	GL0.45mまで盛上。	19S204	MK294	26.3
福西古墳群	西・大枝東長町地先	5/13～17	GL0.5～-0.7mで明黄褐色シルト。	19S118	MK058	26.3
福西古墳群	西・大枝北福西町一丁目地先	6/17	GL1.4mまで盛上。	19S131	MK120	26.3
福西古墳群	西・大枝北福西町4-3	11/8	GL1.05～-1.29mで明黄褐色砂泥(小礫混)。	18H716	MK397	26.3
福西古墳群	西・大枝北福西町3丁目1-73	7/26	GL0.3mまで盛上。	19S261	MK209	26.3
福西古墳群	西・大枝北福西町三丁目地内	11/7	巡回時掘削終了。	19S466	MK395	26.3
上久世道跡	南・久世上久世町56-1	12/18	GL0.45mまで盛上。	19S127	MK490	18.2
上久世道跡	南・久世上久世町81	6/28	GL0.54～-0.86mで明黄褐色粘質土の地山。	18S109	MK147	18.2
上久世道跡	南・久世上久世町258-1の一部	8/1	GL0.64mまで盛上。	19S212	MK217	18.2
上久世道跡	南・久世中久世町1丁目3、4-2	6/18・19・ 21・25	GL0.52mで旧耕作土、-0.66mで灰色シルト、 -1.03～-1.55mで深い黄褐色粗砂の地山。	19S130	MK128	18- 2・3
中久世道跡	南・久世中久世町三丁目34-2	8/29	GL0.62～-1.83mでオリブ灰色シルトの地山を 切って灰色シルトの溜地状堆積の落込。	19S250	MK264	18.3
中久世道跡	南・久世殿城町139	6/5	GL0.3mで深い黄褐色シルト、-0.38～-0.5m で黒褐色細砂混シルトの時期不明包含層。	19S075	MK101	18.3
大蔵道跡	南・久世薬山町128-1	5/23・30、 6/4～28	赤生の直路、長岡期の東西溝を検出。本報告38 ページ。	18S738	MK076	18.3

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
塔 遺 跡	右・京北塔町中高浦33-1	9/18	GL0.7mまで盛上。	19S392	UK302	29.6
関山城跡	右・京北関山町城山	6/5・10	GL0.19～0.55mで明黄褐色砂泥～シルトの地山。	18S360	UK100	29.8
関山城跡	右・京北関山町城山	5/7	打設工事のみ。土層観察不可。	19S023	UK046	29.8
関山城跡	右・京北関山町	7/25	関山城の遺跡範囲の把握を確認。本報告44ページ。	19A006	UK210	29.8

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなしいせきしょうさいぶんぶちょうさうこうく れいわがんねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原主太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸原町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2020年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮正親司跡	京都市上京区鳳臨町223	26100	2	35度 01分 26秒	135度 44分 12秒	2019/1/17 ～2/25		貯水槽
平安京左京四条二坊十三町跡	京都市中京区油小路通西条上る藤本町561-1、 同区四条通油小路東 九条跡町36	26100	1	35度 00分 13秒	135度 45分 10秒	2019/10/2 ～10/7		ホテル
平安京右京六条三坊十一町跡	京都市右京区西院西 満崎町1, 2, 3, 13	26100	1	34度 59分 44秒	135度 43分 33秒	2019/2/22 ～2/26		店舗
花脊経塚群	京都市上京区花脊 別所町地内	26100	344	35度 09分 46秒	135度 46分 35秒	2017/5/22 ～2019/9/17		確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安宮正親司跡	宮殿跡	平安時代前期	南北方向の溝	土師器、須恵器、土馬		正親司内を東西に区分する南北方向の溝を検出。		
平安京左京四条二坊十三町跡	都城跡	平安時代 室町時代	土坑 ピット	土師器、須恵器、瓦		平安時代後期～室町時代の遺構を検出。		
平安京右京六条三坊十一町跡	都城跡	平安時代	溝	土師器		恵止利小路の東側溝を検出。		
花脊経塚群	経塚跡	平安時代末期 ～鎌倉時代	経塚	金銅製品、白磁、桃繪陶器		寄付受納品		

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこく れいむがわんむんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2020年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
植物園北遺跡	京都市左京区下鴨北野々神町33-1, 33-1の一部	26100	146	35度03分06秒	135度46分19秒	2018/11/8 ～2019/1/11		事務所
延勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	京都市左京区岡崎成勝寺町 地内	26100	417-06 417 418	35度00分47秒	135度46分46秒	2019/9/3 ～9/5		電柱
伏見城跡、指月城跡	京都市伏見区桃山町泰長老83-5	26100	1172 1182	34度55分45秒	135度46分07秒	2019/10/3 ～10/4		個人住宅
長岡京左京九条三坊五・十二町跡、淀城跡	京都市伏見区淀本町225	26100	3 1191	34度54分22秒	135度43分05秒	2019/2/18 ～2/20		事務所
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
植物園北遺跡	集落跡	古墳時代初頭	竪穴建物	土師器		古墳時代初頭の竪穴建物を検出。		
延勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	寺院跡 邸宅跡 集落跡	平安時代後期	なし	平瓦		文字を刻む。		
伏見城跡、指月城跡	城跡	平安時代末期 ～鎌倉時代	土坑	土師器、白磁		平安時代末～鎌倉時代の土坑を検出。		
長岡京左京九条三坊五・十二町跡、淀城跡	都城跡 城跡	江戸時代	石垣	なし		淀城二ノ丸の東西石垣の延長部を検出。		

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしやうさいぶんぶちやうさうこうく れいわがんねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・里須亜希子・清水早織・吉本健吾							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2020年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上ノ山古墳	京都市西京区松尾上ノ山町10-1, 同区山田築室町13-9	26100	970	34度 59分 23秒	139度 31分 18秒	2019/2/26 ～7/8		地形測量
大藪遺跡	京都市南区久世築山町128-1	26100	773	34度 57分 19秒	135度 43分 22秒	2019/5/23 ～6/28		店舗
周山城跡	京都市右京区山北周山町	26100	2088	35度 09分 13秒	135度 37分 47秒	2019/7/25		確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上ノ山古墳	古墳	古墳時代	墳丘	なし		上ノ山古墳の所在する敷地の地形測量調査を実施。		
大藪遺跡	集落跡	弥生時代後期～古墳時代前期 長岡京期～平安時代	流路 溝、ピット、土坑	弥生土器、土師器、須恵器		大藪遺跡隣接地において弥生～古墳時代の流路を検出。 長岡京北辺において長岡京期から平安時代前期の遺構を検出。		
周山城跡	城跡	安土桃山時代	平場	瓦		なし		